

社会学文献目録

Bibliography of Japanese Sociology

Vol. 1.

1 9 9 8

日本社会学会データベース委員会

Database Committee, Japan Sociological Society

『社会学文献目録』の発行にあたって

2000年5月

日本社会学会データベース委員会

日本社会学会では、これまで機関誌『社会学評論』に、会員の自己申告を基礎にして毎年、「社会学文献目録」を掲載してきた。だが、文献情報の電子化が求められる時代となったので、数年間の準備期間を経由して、1997年度から文部省科学研究費研究成果公開促進費<データベース>の助成を受け、1998年10月より「社会学文献情報データベース」を文部省学術情報センター（2000年4月より国立情報学研究所に改組）、ならびに、本委員会の2つの直轄サイトを通して、情報公開するに至った。データベースの作成・公開については、日本学術会議社会学研究連絡委員会および社会学関連学会の賛同・支持も得ており、関連学会から寄せられた文献情報も加わっている（現在は家族社会学会のみ）。データベースの公開とともに、従来、『社会学評論』編集委員会が担当していた「社会学文献目録」の作成・公開業務は、全面的にデータベース委員会に移管されることになり、『社会学評論』への文献目録の掲載は、1997年発表文献（49巻4号掲載）をもって終了させることとなった。

このように、社会学文献の情報は、主要にはウェブサイトを通して提供されることとなったが、他方、冊子目録という形式での文献情報を求めるニーズも一定程度は存在することから、本委員会では、社会学会理事会の確認を経て、冊子形式の『社会学文献目録』を、独自に刊行することにした。本冊子は、1998年発表文献を収録したものであり、独立した冊子の最初のものである。ウェブサイトでは表示が困難なJIS第1・2水準外の文字（拡張漢字、中国等の漢字、ハングル、アクサン・ウムラウトなどの音標記号付アルファベット、等）について、本冊子では本来の表記で印刷している。なお、分類が「IVその他」の著作および書評等（書評論文を除く）は、紙幅の関係で割愛した。

本冊子が、有効に活用されることを願うとともに、その改善のためにご意見をお寄せいただければ幸いである。収録に際して、文献調査回答の不備や誤記入が多数見られたため可能な限り補足修正した。しかし文献目録という性質上、完璧は期しがたい。お気づきの場合は、下記の直轄サイトで修正情報を随時受け付け情報の更新につとめているので、この点についても情報をお寄せいただきたい。

直轄サイト (2000年5月現在) [どなたでも無料で利用できます]
富山大サイト <http://jinbun1.hmt.toyama-u.ac.jp/socio/jss/>
立教大サイト <http://sociodb.rikkyo.ac.jp/>

目 次 (CONTENTS)

はしがき (Preface)	i
I. 著書・編書の部 (Books)	1
II. 翻訳の部〔日本語訳〕(Translations into Japanese)	5
III. 論文の部 (Articles)	6
1. 社会哲学・社会思想・社会学史 (Social Philosophy, Social Thought, History of Sociology)	6
2. 一般理論 (General Theory)	10
3. 社会変動論 (Social Change)	11
4. 社会集団・社会移動 (Social Group, Organization)	12
5. 階級・階層・社会移動 (Class, Stratification, Social Mobility)	12
6. 家 族 (Family)	15
7. 農漁山村・地域社会 (Rural/Fishing/Mountain Village, Community)	18
8. 都 市 (Urban Society)	21
9. 生活構造 (Life Structure)	23
10. 政治・国際関係 (Politics, International Relations)	24
11. 社会運動・集合行動 (Social Movement, Collective Behavior)	25
12. 経営・産業・労働 (Management, Industry, Labor)	26
13. 人 口 (Population)	28
14. 教 育 (Education)	28
15. 文化・宗教・道徳 (Culture, Religion, Morality)	31
16. 社会心理・社会意識 (Social Psychology, Social Consciousness)	33
17. コミュニケーション・情報・シンボル (Communication, Information, Symbol)	34
18. 社会病理・社会問題 (Social Pathology, Social Problems)	37
19. 社会福祉・医療 (Social Welfare, Medical Care)	38
20. 計画・開発 (Planning, Development)	39
21. 社会学研究法 (Research Methods in Sociology)	40
22. 経 済 (Economy)	41
23. 社会史・民俗・生活史 (Social History, Folklore, Life History)	41
25. 民族問題・ナショナリズム (Ethnic Problems, Nationalism)	42
26. 比較社会・地域研究〔エリアスタディ〕(Comparative Study, Area Study)	43
27. 差別問題 (Discrimination Problems)	44
28. 性・世代 (Gender, Generation)	45
29. 知識・科学 (Knowledge, Science)	46
30. 余暇・スポーツ (Leisure, Sports)	47
31. 環 境 (Environment)	47
33. 総論・概説 (Sociology, General)	48
99. その他 (Others)	48

I. 著書・編書の部

- 安立清史『市民福祉の社会学：高齢化・福祉改革・NPO』（226p. ハーベスト社 2500円）
- 間場寿一（編）『地方文化の社会学』（274p. 世界思想社 2300円）
- 秋津元輝『農業生活とネットワーク：つきあいの視点から』（294+7p. 御茶の水書房 4600円）
- Altmann, Norbert, Koshi Endo, Masami Nomura and Makoto Yoshida. 'Innovative Arbeitspolitik?: Zur qualifizierten Produktionsarbeit in Japan.' 411p. Campus Verlag. 8090円
- 天木志保美『「ホーム」の創造：キリスト教と日本近代家族』（42p. 学校法人同志社 500円）
- 安保則夫（編）『人権と共生のまちづくり：参加型学習の実践から』（297p. 明石書店 2600円）
- 安藤喜久雄（編）・油川 洋・木村雅文・高橋正人・橋本淳一・小浜ふみ子・齊藤幹雄・山本 功・仲尾唯治・古田久（著）『若者のライフスタイル』（190+9p. 学文社 2300円）
- 安藤由美『激動の沖縄を生きた人びと：ライフコースのコーホート分析』（133+34p. 早稲田大学人間総合研究センター）
- 青井和夫・高橋 徹・庄司興吉（編）『福祉社会の家族と共同意識：21世紀の市民社会と共同性：実践への指針』（326p. 梓出版社 3200円）
- 青井和夫・高橋 徹・庄司興吉（編）『現代市民社会とアイデンティティ：21世紀の市民社会と共同性・理論と展望』（304p. 梓出版社 3200円）
- 青木秀男（編）・田巻松雄・中根光敏・西澤晃彦・狩谷あゆみ・山口恵子『場所をあけろ！：寄せ場/ホームレスの社会学』（293p. 松籟社 2480円）
- 有本 章（編）『教養的教育から見た学部教育改革（高等教育研究叢書(48)）』（118p. 広島大学大学教育研究センター 非売品）
- 浅野慎一『新版現代日本社会の構造と転換』（215+13p. 大学教育出版 2000円）
- 江原武一（編）『多文化教育に関する総合的比較研究』（231p. 京都大学教育学部比較教育学研究室 平成8-9年度文部省科学研究費基盤研究(A)研究成果報告書）
- 江原由美子『性・暴力・ネーション』（366p. 勁草書房 3400円）
- 江嶋修作『社会啓発の現在の課題』（217p. 甲山町 2000円）
- 江嶋修作『社会啓発の明日に向けて』（210p. 大朝町 2000円）
- 榎本和子『社会福祉学概論』（201p. 行路社 1200円）
- Fauve-Chamoux, Antoinette and Emiko Ochiai (eds.). 'House and the Stem Family in EurAsian Perspective.' 468p. EurAsian Project on Population and Family History. Proceedings of the C18 Session, Twelfth International Economic History Congress held in Madrid, August 24-28.
- 藤崎宏子『高齢者・家族・社会的ネットワーク』（276p. 培風館 2200円）
- 船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子（編）『巨大地域開発の構想と帰結：むつ小川原開発と核燃料サイクル施設』（355+6p. 東京大学出版会 8500円）
- 船橋晴俊・飯島伸子（編）『講座社会学12：環境』（231+6p. 東京大学出版会 2800円）
- 船津 衛『災害時におけるコミュニティFM放送の課題』（77p. 科研費報告書）
- 船津 衛『災害時におけるCATVの課題』（77p. 科研費報告書）
- 船津 衛『災害の復旧情報に関する調査』（114p. 科研費報告書）
- 古田隆彦『凝縮社会をどう生きるか』（237p. 日本放送出版協会 920円）
- 後藤安子・大久保一徳『女性と法（新版）』（259p. 法律文化社 2300円）
- グループ人魚のくつした（浅野千恵他）（編）『摂食障害ってなんだろう：それぞれの見方・生き方』（214p. 三一書房 1600円）
- 橋爪大三郎他『教育改革に関する中間報告書 選択・責任・連帯の教育改革：学校の機能回復を目指して』（財団法人社会経済生産性本部）
- 早川善治郎（編）『概説マス・コミュニケーション』（352p. 学文社 3300円）
- 樋口辰雄『逆説の歴史社会学：ニーチェとヴェーバーへ』（278+19p. 尚学社 3500円）
- 平松貞実『世論調査で社会が読めるか：事例による社会調査入門』（250p. 新曜社 2200円）
- 平塚千尋（編）『パブリックアクセス：市民が作るメディア』（247p. リベルタ出版 2000円）
- 廣瀬和子『国際法社会学の理論：複雑システムとしての国際関係』（295p. 東京大学出版会 5200円）

- 堀川三郎(編)『小樽市における歴史的環境保存と観光開発：1997年度法政大学社会学部社会調査実習報告書』(239p. 法政大学社会学部 非売品)
- 細谷 昂『現代と日本農村社会学』(528p. 東北大学出版会 500円)
- 井垣章二『児童虐待の家族と社会：児童問題にみる20世紀』(352p. ミネルヴァ書房 5000円)
- 井上 俊(編)『新版現代文化を学ぶ人のために』(343p. 世界思想社 2000円)
- 井上孝夫(編)『白神山地の自然保護問題から学ぶ』(83p. 千葉大学教育学部社会学研究室 非売品)
- 石川淳志・佐藤健二・山田一成(編)『見えないものを見る力：社会調査という認識』(353p. 八千代出版 2800円)
- 石川義之(編)『親・教師による体罰の実態：大学生・専門学校生等調査結果の分析と考察』(280p. 島根大学法文学部社会学研究室)
- 磯部卓三『道徳意識と規範の逆説』(214p. アカデミア出版会 2300円)
- 伊藤一雄『職業と人間形成の社会学：職業教育と進路指導』(182p. 法律文化社 2600円)
- 伊藤公雄・牟田和恵(編)『ジェンダーで学ぶ社会学』(244p. 世界思想社 1800円)
- 岩本 純・吉井博明『「情報」の商品化と消費：ソフトウェア開発の産業・企業・技術者』(196p. 学文社 2500円)
- 岩本健良(編)『教育機会の構造(1995年SSM調査シリーズ9)』(8+113p. 1995年SSM調査研究会 非売品 科学研究費研究成果報告書)
- 岩内亮一・苅谷剛彦・平沢和司(編)『大学から職業へII：就職協定廃止直後の大卒労働市場(高等教育研究叢書52)』(88p. 広島大学大学教育研究センター)
- Japan Sociological Society. 'Bibliography of Japanese Sociological Literature in Foreign Languages.' vii+169p. Japan Sociological Society. 非売品
- 柿本昭人・嶋守さやか『社会の実存と存在：汝を傷つけた槍だけが汝の傷を癒す』(197+17p. 世界思想社 1900円)
- 金崎一郎・久宗周二『外航船舶及び内航船舶における日本人船員の職業意識とその背景に関わる調査研究(2)』(78p. (財)海上労働科学研究所)
- 金沢市教育委員会・児童生徒生活意識調査研究会『小・中学生の生活意識調査報告書：子どもたちの生活の様子と学校や社会への思い』(147+14+14p. 金沢市教育委員会 非売品)
- 金子 勇『高齢社会とあなた』(235p. 日本放送出版協会 920円)
- 笠原清志・田中重好・柄澤行雄・白石典義・中村良二・徐 何東・唐 燕霞『中国の労働・社会保障システムの基礎的研究(1)』(212p. 日本労働研究機構)
- 櫻村愛子『ラカン派社会学入門：現代社会の危機における臨床社会学』(340p. 世織書房 2900円)
- 片岡栄美(編)『文化と社会階層：(1995年SSM調査シリーズ18)』(265+10p. 1995年SSM調査研究会/大阪大学人間科学部/白倉研究室 非売品)
- 河原和枝『子ども観の近代：『赤い鳥』と「童心」の理想』(220p. 中央公論社 680円)
- 川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』(822+16p. 勁草書房 15000円)
- 川上周三『資本主義経済システムの光と影：システム論からヴェーバーを解く』(207+4p. 新泉社 3400円)
- 河西宏祐『大学教育春秋』(278p. ノンブル社 非売品)
- Kikkawa, Toru. "Social Stratification in Contemporary Japan." 'International Journal of Sociology.' 108p. M. E. Sharpe. \$100
- 吉川 徹『階層・教育と社会意識の形成』(304p. ミネルヴァ書房 4285円)
- 菊池美代志・江上 渉『コミュニティの組織と施設』(385p. 多賀出版 6700円)
- 北島 滋『開発と地域変動』(231p. 東信堂 3200円)
- 小林幸一郎・紀 葉子・北條英勝(編)『日本におけるエミール・デュルケムの研究文献目録(研究報告書, 第21集)』(112+6p. 東洋大学社会学研究所 非売品)
- 児島和人・宮崎寿子『表現する市民たち：地域からの映像発信』(251p. NHK出版 970円)
- 小島 茂『人間関係のなかの自己分析』(189p. 東京図書 1500円)
- 駒井 洋(編)『脱オリエンタリズムとしての社会知：社会科学の非西欧的パラダイムの可能性』(5+339p. ミネルヴァ書房 3500円)
- 駒井 洋(編)『新来・定住外国人資料集成(上・下)』(1718p. 明石書店 4000円)
- 高齢者・能力開発研究会・高橋勇悦(代表)『高齢者の生きがいに関する国際比較研究』(p. 1-164. 高齢者能力開発研究会)

- 久保紘章・高橋重宏・佐藤豊道(編)・秋山薊二(共著)『ケースワーク：社会福祉援助技術各論 1』(246+6p. 川島書店 2400 円)
- 口羽益生(編)『近江商人の里・五個荘：その伝統と現在』(257p. 行路社 3000 円)
- 熊谷苑子『現代日本農村家族の生活時間：経済成長と家族農業経営の危機』(265p. 学文社 6008 円)
- 栗原 孝・須賀由起子・藤村正之・富田英典・土屋 薫・森谷 健『情報文化と生活世界』(220p. 福村出版 2300 円)
- 黒柳晴夫・山本正和・若尾祐司(編)『父親と家族：父性を問う』(292+4p. 早稲田大学出版部 3800 円)
- Mabuchi, Hitoshi. 'Japanese Children Abroad: Toward a Sociology of the Literature on their Situation.' 25p. Monash Asia Institute.
- 前田 穰(編)『経済意識と経済の社会評価に関する理論的実証的研究』(92+4p. 非売品)
- 槇石多希子・水島かな江・赤星礼子・久保桂子・佐藤宏子『変化する社会と家族』(211p. 建帛社 2000 円)
- 真鍋一史『国際イメージと広告：国際広告・国際イメージ・文化的ナショナリズム』(435p. 日経広告研究所 3400 円)
- 増子健一『権力エリートとデモクラシー』(210p. 大空社 2500 円)
- 松田美佐『うわさの科学』(214p. 河出書房新社 667 円)
- 松本和良・大黒正伸(編)『ウタリ社会と福祉コミュニティ』(212+7p. 学文社 2500 円)
- 松本 康(編)『名古屋市内における都市定住化政策と地域社会構造の実証的研究(平成7～9年度文部省科学研究費補助金(基監研究(C)(2))研究成果報告書』(179p. 松本 康 非売品)
- 松本 康(編)『都市コミュニティの高齢化と社会的ネットワーク』(77p. 名古屋大学文学部社会学研究室 非売品)
- 松村和則(編)『持続可能な地域とツーリズムを求めて』(268p. 南会津グリーンストッククラブ 2500 円)
- 松村直道『高齢者福祉の創造と地域福祉開発』(251p. 勁草書房 2700 円)
- 松野達雄『差別と平等：阿片戦争～文化大革命』(754p. 無極堂 自費出版)
- 松岡一夫『実践社会学』(230p. 大空社 2000 円)
- 松岡雅裕『パーソンズの社会進化論』(205p. 恒星社厚生閣 2800 円)
- 松谷淑子『アメリカン・クリスマスの誕生：サンタが生まれた背景』(216p. 松谷淑子(丸善出版サービスセンター) 1500 円)
- 松崎 昇『西洋発近代の論理』(512p. 社会評論社 4600 円)
- 三隅一人(編)『社会階層の地域的構造(1995年SSM調査シリーズ4)』(163+10p. 1995年SSM調査研究会 非売品)
- 三田千代子(編)『図説ラテンアメリカの開発』(248p. アジア経済研究所 非売品)
- 三田千代子『ラテンアメリカ：人と社会』(324p. 新評論 3500 円)
- 宮垣 元・佐々木裕一『シェアウェア：もうひとつの経済システム』(241p. NTT出版 1800 円)
- 宮原浩二郎『ことばの臨床社会学』(197+15p. ナカニシヤ出版 2200 円)
- 宮原浩二郎『変身願望』(213p. 筑摩書房 660 円)
- 宮本孝二『ギデンズの社会理論：その全体像と可能性』(253+18p. 八千代出版 2300 円)
- 森岡清志『ガイドブック社会調査』(275p. 日本評論社 2800 円)
- 中垣昌美『仏教社会福祉論考』(186+4p. 法蔵館 2800 円)
- 中桐規碩『社会病理と社会学』(80p. 高文堂出版社 1200 円)
- 中根光敏(編)『差別問題の構成をめぐる社会的ダイナミズム』(136p. 広島修道大学総合研究所)
- 中西茂行『生活と成熟の社会学』(216p. 学文社 2500 円)
- 中西祐子『ジェンダー・トラック：青年期女性の進路形成と教育組織の社会学』(232p. 東洋館出版 4200 円)
- 中田 貢・板倉達文・黒田由彦(編)『地域共同管理の現在』(247+8p. 東信堂 4762 円)
- 名和田是彦『コミュニティの法理論』(159+24p. 創文社 2900 円)
- 新津晃一(編)『ネパール山村における開発と保全：開発社会学コース報告書』(241p. 国際基督教大学アジア文化研究所・国際基督教大学教養学部国際関係学科)
- 西原和久『意味の社会学：現象学的社会学の冒険』(236p. 弘文堂 2800 円)
- 西原和久・張江洋直・井出裕久・佐野正彦(編)『現象学的社会学は何を問うのか』(340+31p. 勁草書房 3200 円)
- 野村総合研究所社会産業研究本部(編)『変わりゆく日本人』(246p. 野村総合研究所 1500 円)
- 野村一夫『社会学感覚(増補版)』(690p. 文化書房博文社 3400 円 旧著に「ブックガイド・九〇年代の社会と社会学」を増補(p. 561-690))
- Ogasawara, Yuko. 'Office Ladies and Salaried Men: Power, Gender and Work in Japanese Companies.' 221+13p. University of California Press. \$16. 95

- 小笠原祐子『OLたちの〈レジスタンス〉』(189+8p. 中央公論社 660円)
- 荻野昌弘『資本主義と他者』(238p. 関西学院大学出版会 2800円)
- Ogino, Masahiro. 'Fissures.' 71p. Ed. de la Villette. 60フラン
- 小木曾道夫『ネットワークングとは何か?』(73p. 夢窓庵 450円)
- 大橋純一『都市化と福祉コミュニティ』(200p. 学文社 2500円)
- 大石 裕『政治コミュニケーション：理論と分析』(248+23p. 勤草書房 3700円)
- 大石 裕『コミュニケーション研究：社会の中のメディア』(225+3p. 慶応義塾大学出版会 3200円)
- 岡田藤太郎『社会福祉学汎論：ソーシャル・ポリシーとソーシャルワーク』(376p. 相川書房 3000円)
- 奥田 均『同和教育と人権教育の豊かな出会いを求めて』(58p. 枚方市教育委員会)
- 奥田 均『人権のステージ：夢とロマンの部落解放』(200p. 解放出版社 1600円)
- 奥田 均・梅田昌彦『これからの同和行政・人権教育』(p. 9-40. 奈良県部落解放研究所 1000円)
- 奥田道大(編)『アジアの新宿・池袋：現地面接調査記録コレクションズ・1997-1998(調査報告書)』(238p. 中央大学文学部社会学科奥田研究室 非市販)
- 奥村 隆『他者という技法：コミュニケーションの社会学』(264p. 日本評論社 2200円)
- 大倉晴男・中津孝司・金森俊樹『現代バルカン半島の変動と再建』(198p. (株)杉山書店 2600円 体制転換以降のバルカン半島地域諸国(アルバニアを中心に)の政治・経済・社会学の複数の社会科学分野から総合的な研究をした先行研究のない本書は、意義深いと考えられる。)
- 小野能文『職業と労働のシステム』(143p. 恒星社厚生閣 2000円)
- 東北大学経営学研究グループ『ケースに学ぶ経営学』(333p. 有斐閣 2500円)
- 左古輝人『秩序問題の解明：恐慌における人間の立場』(250+22p. 法政大学出版局 2800円)
- 桜井哲夫『「自己責任」とは何か』(214p. 講談社 640円)
- 三溝 信『社会学的思考とは何か』(282p. 有信堂 2900円)
- Sasaki, Masamichi (ed.). 'Values and Attitudes Across Nations and Time.' 168p. Leiden, The Netherlands: Brill.
- 佐藤純一・黒田浩一郎(編)『医療神話の社会学』(247p. 世界思想社 2200円)
- 佐藤 誠(編)『南アフリカの政治経済学：ポスト・マンデラとグローバリゼーション』(324p. 明石書店 3300円)
- 佐藤 誠・アナトニー・フィールディング(編)『移動と定住：日欧比較の国際労働移動』(322p. 同文館 3400円)
- 佐藤嘉倫『意図的社会変動の理論：合理的選択理論による分析』(175+8p. 東京大学出版会 3800円)
- 佐藤嘉倫(編)『社会移動とキャリア分析』(viii+158p. 1995年SSM調査研究会)
- 佐藤慶幸『デュルケムとウェーバーの現在』(213p. 早稲田大学出版部 3500円)
- 里深文彦(編)『科学技術と産業用語辞典』(911p. 富士書房 4300円 英和/和英)
- 沢田善太郎(編)『西欧の社会科学の諸概念の日本への移入過程の研究：明治期の翻訳文献を通して』(69p. 大阪府立大学総合科学部社会学教室 非売品 1995-97年度文部書科研費研究報告書)
- 清水 論『甲子園野球のアルケオロジー：スポーツの「物語」・メディア・身体文化』(290p. 新評論 2500円)
- 塩田静雄・高橋秀雄『中小小売業と大型店問題』(272p. 中央経済社 4000円)
- 白倉幸男(編)『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ17)』(324+8p. 1995年SSM調査研究会, 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- 消費者教育支援センター(今井光映・橋本和孝他)(編)『消費者教育事典』(372p. 有斐閣 3990円)
- 庄司洋子・木本喜美子・重川治樹『居場所を取り戻そう, 男たち』(184p. 東京女性財団)
- Suda, Naoyuki, Kazuo Daijo and Anthony Rausch. 'The Birth of Tsugaru Shamisen Music: The Origin and Development of a Japanese Folk Performing Art.' 219p. Aomori University Press. 2300円
- 鈴木 広(編)『災害都市の研究：島原市と普賢岳』(406p. 九州大学出版会 6600円)
- 田口純一・梶山順代『ユーミン：悟りのテクニク』(141p. 椋山女学園大学短期大学部社会学研究室 1000円)
- 田口純一・黒川真紀子・武藤真寿美・吉富あす香・深谷昌代・清水喜子『まるへん：編入体験記』(75p. 椋山女学園大学短期大学部社会学研究室 500円)
- 高橋憲昭『聖と品と俗』(202p. 行路社 3000円)
- 高島秀樹『教育調査：教育の科学的認識をめざして』(222p. 明星大学出版部 3700円)
- 竹下俊郎『メディアの議題設定機能：マスコミ効果研究における理論と実証』(244+28p. 学文社 3000円)
- 竹内郁郎・児島和人・橋元良明(編)『メディア・コミュニケーション論』(289p. 北樹出版 2900円)
- 竹内郁郎・児島和人・竹下俊郎・古川良治・小尾真理子・高橋利枝『メディア環境の変容と視聴者像』(195p. 放送文化基金 非売品)

- 田中 宏『社会と環境の理論』(324p. 新曜社 3600 円)
- 田中 宏・大石 裕『政治・社会理論のフロンティア』(401+8p. 慶応義塾大学出版会 2800 円)
- 田中重好・山下祐介『過疎活性化に果たす地方都市の役割』(132p. (財)第一住宅建設協会)
- 田中豊治『まちづくり型自治体の組織戦略と行政改革』(152p. 非売品 平成 8,9 年度文部省科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書)
- 寺田篤弘『在日外国人に対する行政の対応の研究』(p. 1-61. 文光堂印刷所 非売品)
- 統計数理研究所国民性国際調査委員会(編)・佐々木正道・林知己夫・鈴木達三他(著)『国民性七か国比較』(606p. 出光書店 12000 円)
- 坪内良博『小人口世界の人口誌 : 東南アジアの風土と社会』(312p. 京都大学学術出版会 4000 円)
- 塚田 守『受験体制と教師のライフコース』(408p. 多賀出版 6200 円)
- 堤かなめ・窪田由紀『ジェンダーを学ぶ』(259p. 海鳥社 1800 円)
- 内田青蔵・藤谷陽悦・吉野英岐(編)『近現代都市生活調査 : 同潤会基礎資料 11(全 10 巻)』(3850p. 柏書房 190000 円)
- 上田利男『夜学』(431p. 人間の科学社 2500 円)
- 宇治琢美『史的意味空間論 : 意味空間で把える近代日本』(363p. 青山社 3333 円)
- 梅澤 正『ボランティア活動における市民の余暇行政への要望 : 研究調査報告書』(88p. 全国余暇行政協議会)
- 矢吹邦彦『ケインズに先駆けた日本人 : 山田方谷外伝』(393p. 明德出版社 2800 円)
- 山田信行『階級・国家・世界システム : 産業と変動のマクロ社会学』(241+8p. ミネルヴァ書房 3605 円)
- 山田富秋・好井裕明(編)『エスノメソロジーの想像力』(302p. せりか書房 2500 円)
- 山岸 健・山岸美穂『日常的世界の探究 : 風景/音風景/音楽/絵画/旅/人間/社会学』(慶応義塾大学出版会 5600 円)
- 山岸俊男『信頼の構造 : ところと社会の進化ゲーム』(222p. (財)東京大学出版会 3200 円)
- 山本鎮雄『時評家 新明正道』(236p. 時潮社 2600 円)
- 山本 努・徳野貞雄・加来和典・高野和良『現代農山村の社会分析』(ix+194p. 学文社 2300 円)
- 山根常男『家族と社会 : 社会生態学の理論をめぐって』(336p. 家政教育社 3500 円)
- 山下袈裟男『戦後の社会変動と高齢者問題』(341p. ミネルヴァ書房 5000 円)
- 安田 尚『ブルデュー社会学を読む』(212p. 青木書店 2800 円)
- 善積京子(編)『ビデオサブテキストスウェーデンの葬送と高齢者福祉 : 変わる家族の絆』(96p. M & K メディア文化研究所 26000 円(ビデオ含))
- 鍾 家新『日本型福祉国家の形成と「十五年戦争」』(250p. ミネルヴァ書房 3500 円)

II. 翻訳の部〔日本語訳〕

- アレグザンダー, ジェフリー. C. (若狭清紀訳)「行為とその環境」(アレグザンダー, ジェフリー. C. ; ギーゼン, ベルンハルト; ミュンヒ, リヒャルト; スメルサー, ニール. J)(編)『マイクロ-マクロ-リンクの社会理論』p. 179-221. 新泉社)
- ベック, ウルリヒ(東 廉・伊藤美登里訳)『危険社会 : 新しい近代への道』(472+20p. 法政大学出版局 4700 円)
- ダウイ, マーク(戸田 清訳)『草の根環境主義 : アメリカの新しい萌芽』(334+53p. 日本経済評論社 4400 円)
- エリアーデ, ミルチア(原案)クリアース, I. P. ; ヘルダー社(編)(奥山倫明・木塚隆志・深澤英隆訳)『世界宗教史 IV : 諸世界の邂逅から現代まで』(576+27+6p. 筑摩書房 7200 円)
- フィスク, ジョン(山本雄二訳)『抵抗の快楽 : ポピュラーカルチャーの記号論』(342+13p. 世界思想社 2600 円)
- フリードリヒ, カール J. (宇治琢美訳)『政治の病理学』(313p. 法政大学出版局 3300 円)
- ガーフィンケル, ハロルド(秋吉美都訳)「カラートラブル」(山田富秋・好井裕明(編)『エスノメソロジーの想像力』p. 10-29. せりか書房 2500 円)
- ギデンズ, アンソニー(藤田弘夫監訳・澤井 敦・菅野博史・宮本孝二・草柳千早・小川葉子・今枝法之・竹内治彦・岡田あおい・早川洋行・吉野英岐・清水洋行訳)『社会理論と現代社会学』(390+15p. 青木書店 5800 円)
- ギデンズ, アンソニー(早川洋行訳)「革命なき理性? : ハーバーマスの『コミュニケーションの行為の理論』」(ギデンズ, アンソニー(著)・藤田弘夫(監訳)『社会理論と現代社会学』p. 303-336. 青木書店)

- グラノヴェッター, マーク (渡辺 深訳) 『転職：ネットワークとキャリアの研究』(312+13p. ミネルヴァ書房 4000円)
- 韓 明諒 (星 明訳) 「中国社会学の発展」(『社会学部論集』31 p. 215-225. 佛教大学社会学部)
- ハンター, フロイド (鈴木 広監訳) 『コミュニティの権力構造：政策決定者の研究』(243p. 恒星社厚生閣 3300円)
- ジェソップ, ボブ (山下範久訳) 「グローバリゼーションとその(諸)(非)論理についての考察」(『情況』11 p. 105-129. 情況出版)
- 金 観濤 (橋爪大三郎訳・解説) 「20世紀中国近代化の2つのピーク」(『季刊アステイオン』48 p. 60-83. TBSブリタニカ)
- ラッペ, フランシス ムア; シュアマン, レイチェル (戸田 清訳) 『権力構造としての(人口問題)：女と男のエンパワーメントのために』(152p. 新曜社 1600円)
- 李 強 (李 為訳) 「中国の政治的階層と経済的階層」(『関西学院大学社会学部紀要』81 p. 245-256. 関西学院大学社会学部研究会)
- マーシャル, T.H. (岡田藤太郎・森定玲子訳) 『社会学・社会福祉学論集：「市民資格と社会的階級」他』(427p. 相川書房)
- モッセジョージ L. (植村和秀・大川清丈・城達也・野村耕一訳) 『フェルキッシュ革命：ドイツ民族主義から反ユダヤ主義へ』(409+36p. 柏書房 5200円)
- 中田 實(訳編) 『住民自治組織の比較研究・資料集』(277+4p. 友人社)
- パーキン, H. J. (有本 章・安原義仁編訳) 『イギリス高等教育と専門職社会』(150p. 玉川大学出版部 3000円)
- プラマー, ケン (桜井 厚・好井裕明・小林多寿子訳) 『セクシュアル・ストーリーの時代：語りのポリティクス』(413+94p. 新曜社 4300円)
- シャーピンク, ミヒャエル; ゲルク, クリストフ (西原和久・菅原 謙訳) 「エコロジー危機と社会学」(『情況』II-10(1) p. 61-85. 情況出版)
- シュルツ, ジェームス H. (佐藤隆三・嵯峨座晴夫監訳・佐藤優子訳) 『エイジングの経済学』(384+14p. 勁草書房/オータス研究所 4700円)
- シュッツ, アルフレッド (渡部 光・那須 壽・西原和久訳) 『アルフレッド・シュッツ著作集(第4巻)：現象学的哲学の研究』(277+7p. マルジュ社 5000円)
- ショーハム, ジョラ S.; ラハープ, ジョラ (藤田弘人・神戸博一訳) 『犯罪と逸脱のスティグマ(烙印)理論：カインから現代まで』(389p. 文化書房博文社 5600円)
- ショウ, クリフォード R. (玉井眞理子・池田 寛訳) 『ジャック・ローラー：ある非行少年自身の物語』(348p. 東洋館出版社 3300円)
- スメルサー, ニール J.; ディヴィス, ジェームズ A. 編 (曾良中清司・上野香織訳) 『社会学の諸領域：その進展度を探るための基礎資料』(275+11p. 成文堂 2500円)
- 竹村英樹 「1937年時点における日本の教育社会学：Kazuta Kurauchi Educational Sociology, 1937の翻訳と解題」(『慶応義塾大学教職課程センター年報』9 慶応義塾大学教職課程センター)
- テイラー, ピーター. J. (山下範久訳) 「モダニティとムーヴメント：世界ヘゲモニーに対する反システムの反作用」(『情況』6 p. 104-122. 情況出版)
- トマ, レイモン; シェノー, ジャン-リュック; デュレ, ジェラルール (山下雅之訳) 『フランスのサッカー(文庫クセジュ 804)』(150p. 白水社 951円)
- ウォーラーstein, イマニュエル (山下範久訳) 「科学を追い求める歴史」(『情況』6 p. 123-135. 情況出版)

III. 論文の部

1. 社会哲学・社会思想・社会学史

- 青木章之介 「村島帰之：労働ジャーナリズムの草分け、人生の報告者」(川合隆男・竹村英樹(編) 『近代日本社会学者小伝』 p. 307-312. 勁草書房)
- 青木章之介 「杉森孝次郎：国際的リベラリズム、モラルとプライドの社会学」(川合隆男・竹村英樹(編) 『近代日本社会学者小伝』 p. 191-196. 勁草書房)

- 青木章之介「久留麗子(村島焯之著 友愛会 関西労働同盟小冊子刊行会)」(『日本労働研究機構研究紀要』15 p. 1-29. 日本労働研究機構)
- 千葉芳夫「コミュニケーション的合理性と目的合理性」(『社会学部論集』31 p. 89-103. 佛教大学社会学部)
- 後藤嘉宏「社会科学における書誌作成の意義と根拠 : 杉原四郎における経済思想史の方法論と図書館学的関心の関わり」(『図書館学会年報』44(2)(通巻 134) p. 49-64. 日本図書館学会)
- 浜日出夫「エスノメソドロロジーの原風景 : ガーフィケルの短編小説「カラートラブル」」(山田富秋・好井裕明(編)『エスノメソドロロジーの想像力』p. 30-43. せりか書房)
- 浜日出夫「NON AES SED FIDES」(『ジンメル研究会会報』3 p. 1-4. ジンメル研究会)
- 原田 達「(鶴見俊輔の社交資本)(中間報告) 鶴見俊輔試論 : ある知的マゾヒズムの奇跡(II)」(『追手門学院大学人間学部紀要』7 p. 27-70.)
- 長谷川秀樹「トクヴィルのデモクラシー論における新聞の位置 : ジャーナリズムの自由と分権」(『立命館大学人文科学研究紀要』72 p. 53-71. 立命館大学人文科学研究所)
- 長谷川高生「オルテガ哲学的環境論 : 政治学基礎概念研究のための生環境・現実に関する一考察」(『法政論叢』35(1) p. 80-90. 日本法政学会(啓文社))
- 橋本和孝「島崎稔」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝』p. 708-715. 勁草書房 15000 円)
- 橋本和孝「富田富士雄」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝』p. 664-670. 勁草書房 15000 円)
- 平林創太「マックス・ヴェーバーにおける「伝統的行為」の概念の位置づけに関する一考察」(『現代社会理論研究』8 p. 29-40. 人間の科学社)
- 北條英勝「P. ブルデューの象徴的支配の社会学と「社会-分析」の臨床的機能 : 社会学の現実への再帰性=反省性と認識論的反省性」(『東洋大学大学院紀要(社会学研究科)』34 p. 27-44.)
- 堀川三郎「赤神良譲 : 環境社会学の幻の創始者」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者評伝 : 書誌的考察』p. 329-333. 勁草書房 15000 円)
- 堀川三郎「今和次郎 : 民家研究の第一人者にして考現学・生活学の提唱者」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝 : 書誌的考察』p. 273-278. 勁草書房 15000 円)
- 大飼裕一「市民社会と宮廷社会 : マックス・ウェーバーとノルベルト・エリアス」(『中京大学教養論叢』39(2) p. 1-19.)
- 大飼裕一「歴史の知識社会学 : ノルベルト・エリアスによる展開」(『岐阜経済大学論集』31(4) p. 51-67.)
- 石坂督規「社会的技術」と人間形成 : K. マンハイムの技術論をめぐって」(『年報社会学論集』11 p. 213-224. 関東社会学会)
- 伊藤 勇「シンボリック相互作用論と G. H. ミード : H. ブルーマーと批判者との応酬をめぐって」(『社会学史研究』20 p. 99-111. 日本社会学史学会)
- 景井 充「デュルケム社会学理論における「動的密度」の位置と意義 : 「集会的存在」における発生的動態としての「動的密度」」(『一橋論叢』119(2) p. 50-69. 日本評論社)
- 柿本昭人「構造と自由 : 「サイエンス・ウォーズ」における責任と主体」(『現代思想』26(13) p. 257-269. 青土社)
- 金屋平三「17 世紀イギリスにおける近代家族思想の成立」(中 久郎(編)『現代家族の変貌 : 国際比較による総合的研究』p. 377-397. 行路社 5000 円)
- 片桐雅隆「シンボリック相互行為論をめぐる二つの争点」(『社会学史研究』20 p. 71-83. いなほ書房)
- 交野正芳「社会の経験と社会の思考」(戸塚七郎(編)『懐疑への誘い』p. 139-168. 北樹出版)
- 小林一穂「商品交換と物象化 : 「資本論」「交換過程論」の読解」(北村 寧(編)『現代日本社会の動態分析のための社会学理論の再審と新しい理論的枠組みの構築』p. 28-45. 科学研究費研究成果報告書)
- 小林幸一郎「E. デュルケムの生活史に関する資料と若干のコメント(その 4-ENS とサンス時代)」(『東洋大学社会学部紀要』35(2) p. 141-241.)
- 駒井 洋「柳田民俗学は日本のパラダイムたりうるか」(『社会科学の日本のパラダイム』p. 3-18. 筑波大学大学院社会科学研究所)
- 小松田儀貞「文化資本概念の再検討 : アメリカ文化社会学におけるその展開」(『富士大学紀要』31(1) p. 109-121. 富士大学学術研究会)
- 近藤理恵「P. ブルデューにおける社会問題論の射程」(『立命館産業社会学論集』33(4) p. 89-100. 立命館産業社会学会)
- 近藤理恵「P. ブルデューにおける運命愛と運命憎悪」(『社会学史研究』20 p. 131-143. 日本社会学史学会)

- 牧野友紀「アダム・スミスにおける他我認識の論理：『道徳感情論』における「同感」概念を手がかりとして」(『社会学研究』65 p.199-217. 東北社会学研究会)
- 眞鍋知子「ネットワーク分析からみる「結節機関」の論理：『都市社会学原理』を中心として」(『社会学史研究』20 p.173-185. いなほ書房)
- 眞鍋知子「鈴木栄太郎の学問の世界：『都市社会学原理』を中心として」(『奈良女子大学社会学論集』5 p.182-192.)
- 松岡雅裕「パーソンズ社会進化論と進化の範式」(『社会学論叢』131 p.1-17. 日本大学社会学会)
- 松岡雅裕「タルコット・パーソンズ、その社会進化論構築への道程」(『紀要』29 p.99-120. 日本大学精神文化研究所)
- 三上剛史「新たな公共空間：公共性概念とモダニティ」(『社会学評論』48(4) p.65-85. 日本社会学会)
- 三上剛史「亡命知識人と大衆社会：社会史的背景と知識社会学的考察(一)(二)」(『国際文化学研究』9,10 p.1-28, p.93-115. 神戸大学国際文化学部)
- 三須田善暢「マンハイムにおける真偽判断の問題と「評価的イデオロギー把握」」(『社会学年報』27 p.167-185. 東北社会学会)
- 三浦直子「戸田貞三：家族社会学の創始者」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』 p.235-242. 勁草書房 15000円)
- 三浦直子「鈴木栄太郎：農村・都市社会学研究の開拓者」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』 p.369-376. 勁草書房 15000円)
- 三浦直子「有賀喜左衛門：郷土研究を通じた日本社会の解明」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』 p.422-431. 勁草書房 15000円)
- 三浦直子「小山隆：実証的家族研究の重鎮」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』 p.491-496. 勁草書房 15000円)
- 三浦直子「菊池綾子：米マッキーバー社会学の紹介者」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』 p.516-520. 勁草書房 15000円)
- 三浦直子「黒川純一：ドイツ形式社会学の導入者」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』 p.564-569. 勁草書房 15000円)
- 三浦直子「田原音和：仏社会学理論と実証的農村研究の融合」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』 p.732-737. 勁草書房 15000円)
- 望月哲也「ウェーバーにおける二つの〈Persönlich-keit〉」(沼義昭教授古稀記念論文集編集委員会(編)『宗教と社会生活の諸相』 p.517-546.)
- 森 哲彦「近年の経営経済学史研究」(『会計』154(5) 森山書店)
- 森 哲彦「ニックリッシュ経営学変容の新解明」(経営学史学会(編)『経営学研究のフロンティア』文眞堂)
- 村上文司「近代ドイツの社会調査史」(石川淳志(編)『社会調査史の創造的再発見』 p.19-95. 社会調査史研究会 平成7-8年度科学研究費補助金(基般研究(A)(1))研究成果報告書)
- 中西真知子「再帰性と近代社会：ギデンズの再帰性概念の徹底化を論じる」(『ソシオロジ』43(1) p.21-36. 行路社社会学研究会)
- 中野正大・高山龍太郎「シカゴ・モノグラフの研究(下)：ウォルター・レックレス『シカゴの悪徳』」(『京都工芸繊維大学工芸学部研究報告人文』46 p.1-36.)
- 中野正大・大山小夜「シカゴ社会学の一断面(下)：ルース・S.キャバンとキャサリン・H.ランク『家族と大恐慌』」(『京都工芸繊維大学工芸学部研究報告人文』46 p.37-66.)
- 中野剛充「共和主義における「哲学」と「政治」」(『相關社会科学』7 p.117-121. 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻)
- 中野剛充「チャールズ・テイラーにおける自己：コミュニタリアニズムと個人主義」(『ソシオロギス』22 p.61-79. ソシオロギス編集委員会 1100円)
- 夏川康男「デュルケムの自殺研究」(『社会学論叢』130 p.21-35. 日本大学社会学会)
- 新原道信「境界領域の思想：「辺境」のイタリア知識人ノート」(『現代思想』26(3) p.234-248. 青土社)
- 西原和久「社会学と現象学：近代・身体・発生論」(『情況』11-9(1) p.8-26. 情況出版)
- 西原和久「〈性〉をめぐる世相と思想：「60年代」の問いから」(『武蔵大学総合研究所紀要』8 p.97-109. 武蔵大学総合研究所)
- 小倉康嗣「草間八十雄：都市下層社会の踏査」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』 p.170-177. 勁草書房 15000円)

- 小倉康嗣「志賀志那人：日本におけるセツルメント理論の指導者・実践家」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』p.322-328. 勁草書房 15000円)
- 小倉康嗣「三好豊太郎：米ケースワーク論の先駆的導入と社会事業論の展開」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』p.358-368. 勁草書房 15000円)
- 小倉康嗣「大久保満彦：社会技術としての臨床的社会事業論」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』p.597-605. 勁草書房 15000円)
- 小倉康嗣「岡村重夫：生活主体の視点による社会福祉論の展開」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』p.612-616. 勁草書房 15000円)
- 小倉康嗣「福武直：社会学の現実科学化と農村社会学」(川合隆男・竹村英樹(編)『近代日本社会学者小伝：書誌的考察』p.692-696. 勁草書房 15000円)
- 大原径子「日本における M. ウェーバー宗教社会学研究の動向について」(『社会学雑誌』15 p.122-133.)
- 岡島 穰「言語ゲームと自己確立」(『北陸宗教文化』10 p.31-56. 北陸宗教文化学会)
- 折原 浩「宗教的行為と宗教的ゲマインシャフト形成にかんする理解社会的概念構成(1)：ヴェーバー『経済と社会』の全体像構築に向けて(3)」(『名古屋大学文学部研究論集』132(44) p.41-59. 名古屋大学文学部)
- 大東貢生「パーソンズの主意主義的行為理論について」(『佛大社会学』22 p.56-68. 佛教大学社会学研究会)
- 大東貢生「パーソンズのマックス・ウェーバー解釈について」(『佛教大学大学院紀要』26 佛教大学紀要編集委員会)
- 小澤浩明「ブルデュー社会学における権力論の地平(上)：教育システムと<社会秩序問題>の社会学構想のために」(『中京大学社会学部紀要』13(1) p.35-55.)
- 桜井哲夫「「無責任」とはなんだろうか」(『本』23(6) p.28-30. 講談社)
- 櫻井義秀「新宗教教団の形成と地域社会との葛藤」(『宗教研究』72(2) no.317 p.75-99. 日本宗教学会)
- 櫻井義秀「東北タイの大学教育と地域社会研究：1997年マハサラカム大学の事例」(『現代社会学研究』11 北海道社会学会)
- 白鳥義彦「デュルケームと哲学」(『ソシオロジ』131,42(3) 社会学研究会)
- Shoji, Kokichi. "Institutionalization of Sociology in Japan." Lee, S. H. (ed.) 'Sociology in East Asia and Its Struggle for Creativity.' p.33-43. The International Sociological Association.
- Shoji, Kokichi. "Sociology." The Toho Gakkai (ed.) 'An Introductory Bibliography for Japanese Studies, vol. XI, part 1: Social Sciences 1994-95.' p.179-225. The Japan Foundation.
- 鈴木宗徳「新保守主義、市民的不服従、ドイツ統一：80年代以降のハーバーマスの政治理論」(『現代社会理論研究』8 p.13-28. 現代社会理論研究会)
- 鈴木宗徳「法制化と政治的公共性」(『一橋研究』23(2) p.93-115. (一橋大学大学院)一橋研究編集委員会)
- 鈴木無二「社会的行動主義の構成とその問題」(『社会学史研究』20 p.159-171. 日本社会学史学会)
- 鈴木富久「グラムシ『獄中ノート』における哲学的人間論の展開：マルクス・アンサンブル規定の個人論的再構成へ」(『日本福祉大学研究紀要』98(第2分冊) p.109-146. 日本福祉大学)
- 鈴木富久「史的唯物論の原問題としての「人間性」：グラムシとマルクス」(『季報唯物論研究』20春(64) p.37-53. 季報「唯物論研究」季行会)
- 竹内真澄「現代社会におけるデストピアとユートピア：見田宗介『現代社会の理論-情報化・消費化社会の現在と未来』を読む」(唯物論研究協会(編)『教育・共同・平等』p.341-367. 青木書店 3500円)
- 竹内真澄「物象化と社会権」(『情報問題研究』10 p.31-38. 情報問題研究会)
- 匠 雅音「情報社会への移行と生涯学習」(『学遊園：生涯学習を考える』5 p.4-9. 丸善株式会社)
- 匠 雅音「情報社会と「単家族」」(『遊宇宙』15 p.16-19. 特別正資料室)
- 田村栄一郎「日本市民社会の挫折と社会意識：説く愛国心と湧く愛国心」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『現代市民社会とアイデンティティ：21世紀の市民社会と共同性：理論と展望』p.291, p.74-97. 梓出版社 3200円)
- 田村伊知朗「フランクフルト国民議会とヘーゲル左派：カール・ナワヴェルクの思想と行動を中心にして」(的場昭弘(編)『1848年革命の射程』p.209-230. 御茶の水書房)
- 田中紀行「現代ドイツにおける<文化と社会構造>研究：ライフスタイル研究を中心に」(『社会学雑誌』15 p.34-50. 神戸大学社会学研究会)
- 田野大輔「大衆のモニュメント：「総合芸術作品」としてのナチズム」(『京都社会学年報』6 京都大学文学部社会学研究室)
- 津田真人「<社会心理史>の復位」(『経済系：関東学院大学経済学会研究論集』194 p.109-125. 関東学院大学経済学会)

- 宇城輝人「真理なき誤り：理論と実践のあいだ」（『現代思想』p.149-161. 青土社）
- 薬師院仁志「『自殺論』の問題構成」（『ソシオロジ』43(1) p.73-90. 社会学研究会）
- 薬師院仁志「自殺論の再構成：フィリップ・ベナルによる『自殺論』の解釈について」（『社会学評論』49(1) p.42-59. 日本社会学会）
- 山岸美穂「モース, エドワード・S.：日本人の生活と文化の良き理解者, 大森貝塚の発見者」（川合隆男・竹村英樹（編）『近代日本社会学者小伝 書誌的考察』p.24-30. 勁草書房）
- 山本鎮雄「ドイツ統一と東独社会学の解体と再生」（『日本女子大学人間社会研究科紀要』4 p.1-10. 日本女子大学）
- 山本鎮雄「新明正道と東亜連盟協会」（『日本女子大学紀要人間社会学部』8 p.13-25. 日本女子大学）
- 山崎純一「二つの国家概念」（『創大平和研究』19 p.75-97. 創価大学平和問題研究所）
- 横井敏秀「デュルケームにおける「理想の確定」に関する一考察：フランス中等教育史講義の分析を中心に」（『富山国際大学紀要』8 p.111-129. 富山国際大学）

2. 一般理論

- 赤堀三郎「社会システムの分化と統合」（『ソシオロギス』22 p.1-15. ソシオロギス編集委員会）
- 赤堀三郎「社会システムの二重の閉鎖性」（『年報社会学論集』11 p.225-234. 関東社会学会）
- 土場 学「社会進化のロジック：自然選択と主体選択」（『理論と方法』12(2) p.181-194. 数理社会学会）
- 土場 学・渡辺 勉「一般理論社会学における「行為と構造」の問題：トーマス・J・ファラロ『一般理論社会学の意味』をめぐって」（『理論と方法』12(2) p.197-205. 数理社会学会）
- 長谷川秀樹「ピエール・ブルデュエの国家論」（『日仏社会学会年報』8 p.21-43. 日仏社会学会）
- 橋爪大三郎「意思決定と社会的選択」（志田基与師（編）『社会的選択理論の社会学的展開』第一分冊：文部省科研費補助金基盤研究(A)(1)研究成果報告書』p.1-12. 志田, 基与師）
- 石上文正「社会・文化環境における変化・変換について」（『人間と環境：人間環境学研究所研究報告』1 p.1-15. 人間環境学研究所）
- 神山英紀「非対称・N人「囚人のジレンマ」モデル」（『ソシオロギス』22 p.80-91. ソシオロギス編集委員会）
- 菅野博史「時間の社会学序説」（『帝京社会学』11 p.69-84.）
- 檜村愛子「共有知問題のラカンの解釈」（『ソシオロジ』131 社会学研究会）
- 檜村愛子「言語の成立に関わる「否定」の作用と他者について」（『年報社会学論集』11 関東社会学会）
- 片桐雅隆「自己と役割」（『社会学年誌』39 p.37-52. 早稲田社会学会）
- 加藤正泰「フォークロア論再考」（『人文研紀要』32 p.186-198. 中央大学人文科学研究所 中央大学名誉教授の資格にて寄稿。1998年9月30日発行。）
- 河村 望「日本の資本主義文化：言語・貨幣・精神」（『東京女子大学紀要論集』49(1) 東京女子大学）
- 小林 盾「全員一致の合意の条件：選好形成メカニズムのモデル化を通して」（『ソシオロギス』22 p.92-101. ソシオロギス編集委員会）
- 小松丈晃「〈リスク〉の社会理論：ルーマンの社会学的リスク論の射程」（『社会学年報』27 p.87-106. 東北社会学会）
- 久慈利武「普遍的説明と文化的説明」（濱口恵俊（編）『世界のなかの日本型システム』p.37-51. 新曜社）
- 三隅一人「ブール代数アプローチによる役割概念再考」（鹿又伸夫（編）『ブール代数アプローチによる質的比較』p.129-141. 科研報告書）
- 宮本孝二「構造主義、ポスト構造主義と社会理論：ギデンズの議論の紹介」（『桃山学院大学社会学論集』32(1) p.47-73. 桃山学院大学総合研究所）
- 森 真一「マクドナルド化する行為者：「セルフヘルプ・ガイドブック」にみる心理学的知識・スキルと合理化」（『ソシオロジ』42(3) p.55-71. 社会学研究会）
- 永井 彰「ハーバーマスの生活世界論」（『東北大学文学部研究年報』47 p.133-168. 東北大学文学部）
- 永井 彰「ハーバーマス理論における「パースンズ問題」」（『社会学研究』65 p.69-101. 東北社会学研究会）
- 中村文哉「異文化接触のリアリティ：A. シュッツの「よそ者」論を読む」（『人権教育研究』6 p.39-68. 花園大学人権教育研究室）
- 中村文哉「社会的行為とレリヴァンス：レリヴァンス概念の原像と射程」（西原和久・井出裕久・張江洋直・佐野正彦（編）『現象学的社会学は何を問うのか』p.110-143. 勁草書房 3200円）

- 中筋直哉「群衆論の構図：群衆の社会学理論・序説」(『山梨大学教育学部研究報告』48 p.129-137. 山梨大学教育学部)
- 岡澤憲一郎「貨幣の経済社会学：ゲオルク・ジンメルのばあい(下)」(『名古屋学院大学論集社会科学篇』34(3) p.164-190. 名古屋学院大学産業科学研究所)
- 大岡頼光「福祉を成り立たせる論理：スウェーデンとオランダの老人福祉と児童福祉の比較から」(『ソシオロジ』43(2) p.19-34. 社会学研究会/行路社)
- 櫻井義秀「タイ・アイデンティティと文化研究：チャティップ・ナートスパー氏による共同体文化論の検討を中心に」(『現代社会学研究』11 p.49-69. 北海道社会学会)
- 沢田善太郎「(書評論文) 富永健一著『経済と組織の社会学理論』」(『社会学評論』49(2) p.148-154. 日本社会学会)
- 嶋守さやか「高齢者の自己決定権と成年後見法：家族と高齢者問題における「脱<近代>化」論を批判する」(『現代社会学理論研究』8 p.81-92. 現代社会学理論研究会 2000円)
- 数土直紀「権力構造の発生モデル」(『理論と方法』12(2) p.163-179. 数理社会学会)
- 菅原真枝「J.ハーバーマスにおけるコミュニケーション能力と道徳意識の問題：「コミュニケーション能力論」の展開過程に着目して」(『社会学年報』27 p.127-148. 東北社会学会)
- Suzuki, Yuzuru. "Max Weber and Structural Organization Theory." 'Shikoku Gakuin University Treatises.' 96 p.79-94. Shikoku Gakuin University.
- Todoroki, Makoto. "A Design of Normative Sociology Based on the Rational Choice Paradigm." 'International Journal of Japanese Sociology.' 7 p.85-104.
- 山田佳奈「パーソンズ理論における<モダニティ>の視座：初期パーソンズの「プロフェッション」論を手がかりに」(『社会学研究』65 p.25-48. 東北社会学研究会)
- 安田 尚「P.ブルデューにおける実践の論理」(『上越教育大学研究紀要』17(2) p.805-816. 上越教育大学)
- 安田 尚「P.ブルデューにおける支配の論理」(『上越教育大学研究紀要』18(1) p.259-270. 上越教育大学)
- 矢田部圭介「意味とワーキング：科学と多元的現実の再考」(西原和久・張江洋直・井出裕久・佐野正彦(編)『現象学的社会学は何を問うのか』p.144-166. 勁草書房 3200円)
- 李 晟台「他者と他者性：他者経験の文脈」(西原和久・張江洋直・井出裕久・佐野正彦(編)『現象学的社会学は何を問うのか』p.167-188. 勁草書房)
- 李 晟台「シュツツはシュツツを超え出るのか：自然的態度の構成的現象学の行方」(『情況』1998(1/2) p.43-55. 情況出版)

3. 社会変動論

- 林 彌富「社会変動論としてみた「開発」論の到達点」(池田 修(編)『世界地域学への招待』p.51-62. 嵯峨野書院)
- 伊藤陽一「情報化と個人主義の発達」(『KEIO SFC Review』3 p.107-113. 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス)
- 金子 勇「少子化の社会学」(『学会会報』821 p.43-47. 学会)
- 三橋利光「国際社会学の試みⅠ：国際社会学の誕生」(『人文・社会科学論集』12 東洋英和女学院大学)
- 西山俊彦「J.ガルトゥングによる「構造的暴力」概念の整理化と平和への課題」(『キリスト教文化研究所紀要』13(1) p.71-93. 英知大学キリスト教文化研究所)
- 齊藤昌男「コミュニティ論の社会的背景」(沼義昭博士古希記念論文集編集委員会(編)『宗教と社会生活の諸相：沼義昭博士古希記念論文集』p.697-719. 隆文館 15000円)
- 新保 満「成負の意識と家および家族の変容：第3次豊原村調査のデータを中心に」(『農村生活研究』42(4) p.10-15. 日本農村生活学会)
- 庄司興吉「現代市民社会とアイデンティティ：対抗軸の変容と国際化・情報化をふまえて」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『現代市民社会とアイデンティティ：21世紀の市民社会と共同性・理論と展望』p.3-10. 梓出版社)
- 袖井孝子「日本型高齢社会の特質」(日本家政学会(編)『日本人の生活』p.148-152. 健帛社 12000円)
- 山田信行「福祉国家形成における差異と偏差：類型論の射程と限界」(『社会学評論』49(2) p.85-99. 日本社会学会(有斐閣))

4. 社会集団・組織論

- 船橋晴俊「補助金制度の構造的欠陥：財政支出肥大化についての社会学的視点」(『都市問題』89(4) p.43-54. 東京市政調査会)
- 船橋晴俊「現代の市民的公共圏と行政組織：自在化傾向の諸弊害とその克服」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『現代市民社会とアイデンティティ：21世紀の市民社会と共同性 理論と展望』p.134-160. 梓出版社 3200円)
- 古川秀夫・大東貢生・大山治彦「国際ボランティア団体の行動に関する発見的研究」(『国際文化研究』2 p.160-167. 龍谷大学国際文化学会)
- 岩井紀子「ボランティア：大阪の大学生：大商大ボランティアは留学生の一言から始まった：阪神・淡路大震災の被災地への援助活動に関する大阪商業大学(谷岡学園)の取組み」(被災社会心理学研究者・連(編)『きずな：地震(ない)の傷抱き六甲山眠る』p.83-97. ナカニシヤ出版)
- 岩崎信彦「『国家都市』神戸の悲劇と『市民社会』の苦闘」(『地域社会学会年報』10 p.1-18. ハーベスト社)
- 小林幸一郎(編)「環境変動に伴う造船重工企業の組織構造・組織文化の変化に関する社会学研究」(小林幸一郎(編)『V. 組織文化への認知』p.77-122. 東洋大学社会学部 非売品)
- 増子健一「権力エリートの本質とその組織関係論」(『水戸論叢』31 p.1-39. 水戸短期大学商経学会)
- 松浦さと子「地域情報共同管理主体としての NPO(非営利団体)」(『都留文科大学地域社会研究』8 p.46-54. 都留文科大学地域社会学会)
- 松浦さと子「地域情報共同管理主体としての NPO(非営利団体) 阪神淡路大震災の事例から」(中田 賢・板倉達文・黒田由彦(編)『中田賢先生退官記念論文集 地域共同管理の現在』p.201-214. 東信堂)
- 松浦さと子「パブリック・アクセス・チャンネル(PAC)を支える民間非営利団体(NPO)」(津田正夫・平塚千尋(編)『パブリック・アクセス 市民が作るメディア』p.97-119. リベルタ出版)
- 大坪省三「帯広市に存する集団・組織の諸形態：スポーツ分野」(『東洋大学社会学部紀要』35(3) p.71-106. 東洋大学)
- 田中豊治「組織社会、そして労働・職場生活の実態：組織と個人的人間の新しい関係」(島田知二・田中豊治(編)『現代社会のしくみ』p.135-168. 八千代出版 2600円)
- 田中豊治「政治・行政、そして地方分権の問題：とくに住民参加とまちづくり型住民組織を中心に」(島田知二・田中豊治(編)『現代社会のしくみ』p.179-220. 八千代出版 2600円)
- 田中豊治「住民参加と地方自治体：とくに官民協働型まちづくりシステムについて」(『組織科学』31(3) p.52-60. 白桃書房 1260円)
- 田中豊治「行政組織の変革の可能性」(『地域開発』402 p.23-25. (財)日本地域開発センター 750円)
- 田中豊治「佐賀のまちづくりに関する住民意識調査(II)」(『98年度広域行政研究報告書』p.56-114. (社)佐賀青年会議所 非売品 98年度広域行政研究報告書)
- 田中豊治「住民のパートナーシップづくりと地域の活性化」(『地方議会人』29(5) p.26-29. 中央文化社 560円)
- 塚本成美「経営秩序と忠誠志向」(石坂 巖(編)『経営システムの日本的展開：その現状と課題』p.133-158. 創成社)
- 柳 治男「学校組織の変容過程におけるモニトリアル・システムの位置」(『熊本大学教育学部紀要』47 p.223-243.)

5. 階級・階層・社会移動

- 青木信夫「大正・昭和戦前期の東京府における皇族・華族の居住地の変遷」(『都市計画論文集』33 p.439-444. 日本都市計画学会)
- 青木章之介「過渡期の男女平等と階級・階層 帰属意識」(『日本労働研究機構研究紀要』16 p.27-47. 日本労働研究機構)
- 濱名 篤「明治末期から昭和初期における『女中』の変容」(『社会科学研究』49(6) p.31-87. 東京大学社会科学研究所)
- 濱名 篤「明治期における『武士』から士族への連続性と非連続性：武士身分の解体」(『歴史評論』581 p.97-109. 歴史科学協議会)

- 橋本健二「戦後日本の階級構造：基本構造と変動課程」（石田 浩(編)『社会階層・移動の基礎分析と国際比較(1995年SSMシリーズ1)』p.43-75. 1995年SSM調査委員会)
- 橋本健二「戦後日本の農民層分解」（石田 浩(編)『社会階層・移動の基礎分析と国際比較(1995年SSMシリーズ1)』p.101-130. 1995年SSM調査委員会)
- 石田信義「労働移動における社会的不適応及び逸脱に関する一考察：日本における日系ブラジル人被告事件の事例を通して」（『ラテン・アメリカ論集』32 p.99-121. ラテン・アメリカ政経学会)
- 岩間暁子「社会的不公平感の発現とジェンダー：「分配原理」に関する主観的リアリティとの関連」（宮野 勝(編)『1995年SSM調査シリーズ8：公平感と社会階層』p.133-148. 1995年SSM調査研究会)
- 岩間暁子「産業界と男性の文化：日本経済のサービス化と文化資本の構造」（片岡栄美(編)『1995年SSM調査シリーズ18：文化と社会階層』p.113-132. 1995年SSM調査研究会)
- 岩間暁子「文化資本の蓄積における経済資本の役割：男性の文化活動への参加と経済資本」（片岡栄美(編)『1995年SSM調査シリーズ18：文化と社会階層』p.147-158. 1995年SSM調査研究会)
- 岩本健良「教育機会の不平等の構造と変動：学力による業績主義化は進んだか」（岩本健良(編)『教育機会の構造(1995年SSM調査シリーズ9)』p.47-59. 1995年SSM調査研究会 非売品 科学研究費研究成果報告書)
- 岩本健良「教育とライフスタイル選択：文系進学と理系進学」（白倉幸男(編)『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ17)』p.49-61. 1995年SSM調査研究会 非売品 科学研究費研究成果報告書)
- 上久保達夫「我が国農山村地域における林業従事者の労働と生活に関する一考察：最近の新規参入者の動向を踏まえて」（『労働科学』74(1) p.17-25. 労働科学研究所)
- 鹿又伸夫「資産格差の規定要因」（『北海道大学文学部紀要』95 p.125-150. 北海道大学文学部)
- Kanomata, Nobuo. "Trends in Inequality and Solidification of Socioeconomic Status in Japan." 'International Journal of Sociology.' 28(1) p.11-32. M. E. Sharpe.
- 片岡栄美「教育達成におけるメリトクラシーの構造と家族の教育戦略：文化投資効果と学校外教育投資効果の差容」（近藤博之(編)『教育と世代間移動(1995年SSM調査シリーズ10)』p.35-66. 大阪大学人間科学部近藤研究室)
- 片岡栄美「近代化の終焉と「文化と社会階層」研究および文化的再生産論」（片岡栄美(編)『文化と社会階層(1995年SSM調査シリーズ18)』p.1-13. 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- 片岡栄美「現代日本の文化的消費にみる象徴的境界：エリートからコーポレート優位へ」（片岡栄美(編)『文化と社会階層(1995年SSM調査シリーズ18)』p.15-44. 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- 片岡栄美「家庭の文化環境と文化的再生産過程：正統文化と大衆文化」（片岡栄美(編)『文化と社会階層(1995年SSM調査シリーズ18)』p.45-66. 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- 片岡栄美「文化の構造と文化消費者の社会的特性：文化活動の諸類型と社会的階層の対応関係を中心に」（片岡栄美(編)『文化と社会階層(1995年SSM調査シリーズ18)』p.87-112. 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- 片岡栄美「地位形成に及ぼす読書文化と芸術文化の効果：教育・産業・結婚における文化資本の転換効果と収益」（片岡栄美(編)『文化と社会階層(1995年SSM調査シリーズ18)』p.171-191. 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- 片岡栄美「文化弁別力と文化威信スコア：文化評価の構造と社会階層」（片岡栄美(編)『文化と社会階層(1995年SSM調査シリーズ18)』p.249-261. 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- 川合隆男「変革期における生活機会と生活様式の選択：戦後日本社会における現在の歴史的社会的状況」（田中宏・大石 裕(編)『政治・社会理論のフロンティア』p.143-190. 慶応義塾大学出版会)
- 川崎澄雄「高齢化社会から高齢社会へ」（『金城学院大学人文・社会科学研究所紀要』1 p.1-7. 金城学院大学人文社会科学研究所)
- Kikuzawa, Saeko. "Socioeconomic Status and Mental Illness in Japan." 'International Journal of Japanese Sociology.' 7 p.105-125.
- 三重野卓「脱物質志向と「豊かさ」問題」（鹿又伸夫(編)『豊かさと格差：1995年SSM調査シリーズ』16 p.1-26. 1995年SSM調査研究会)
- 三隅一人「階層地域差と地域移動との関連」（三隅一人(編)『社会階層の地域的構造(1995年SSM調査シリーズ)』4 p.3-25. 1995年SSM調査研究会)
- 三隅一人「女性の地域移動と階層特性」（三隅一人(編)『社会階層の地域的構造(1995年SSM調査シリーズ)』4 p.51-66. 1995年SSM調査研究会)
- 村尾祐美子「雇用者における仕事裁量：仕事の場での事柄決定力とジェンダー」（盛山和夫・今田幸子(編)『女性のキャリア構造とその変化』p.91-108. 1995年SSM調査研究会)
- 永谷 健「近代日本の経済エリートにみる文化戦略：明治期財界人の婚姻関係と社交空間」（『名古屋工業大学紀要』49 p.51-59. 名古屋工業大学)

- 中井美樹「女性の職業階層とライフスタイル：専門職女性のライフイベントのタイミング」（白倉幸男（編）『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ)』17 p. 83-100. 1995年SSM調査研究会)
- 中井美樹「女性の社会的地位とライフスタイル」（白倉幸男（編）『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ)』17 p. 63-80. 1995年SSM調査研究会)
- 中井美樹「既婚女性の社会階層と文化的活動および文化的環境：ライフコースアプローチによる文化資本の蓄積パターン析出」（片岡栄美（編）『文化と社会階層(1995年SSM調査シリーズ)』18 p. 217-234. 1995年SSM調査研究会)
- 中井美樹「女性の家庭文化と社会参加」（片岡栄美（編）『文化と社会階層(1995年SSM調査シリーズ)』18 p. 235-248. 1995年SSM調査研究会)
- 中西祐子「教育間移動類型と社会階層：トーナメント型社会移動規範が隠すもの」（荻谷剛彦（編）『教育と職業：構造と意識の分析(1995年SSM調査シリーズ11)』p. 161-178. 1995年SSM調査研究会)
- 日戸浩之・塩崎潤一「個人化・階層化で変わる日本人：生活者1万人にみる意識と行動」（『知的資産創造』6(2) p. 108-121. 野村総合研究所)
- Nitto, Hiroyuki and Junichi Shiozaki. "The Changing Face of Japanese Society in an Age of Individualism and Social Stratification." 'NRI Quarterly,' 1998(7) p. 2-19. Nomura Research Institute.
- 佐藤嘉倫「地位達成と社会構造：制度的連結理論の批判的再検討」（『日本労働研究雑誌』40(7) p. 27-40.）
- 佐藤嘉倫「戦後日本社会における職業移動パターンの変遷」（佐藤嘉倫（編）『社会移動とキャリア分析』p. 45-64. 1995年SSM調査研究会)
- 白倉幸男「社会階層とライフスタイルおよび生活満足：自営業、ホワイトカラー、ブルーカラーを対比して」（『大阪大学人間科学部紀要』24 p. 1-24. 大阪大学人間科学部)
- 白倉幸男「ライフスタイルと社会階層」（白倉幸男（編）『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ17)』p. 3-12. 1995年SSM調査研究会, 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- 白倉幸男「社会階層とライフスタイルおよび生活満足：自営業、ホワイトカラー、ブルーカラーを対比して」（白倉幸男（編）『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ17)』p. 13-31. 1995年SSM調査研究会, 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- 白倉幸男「文化的再生産とライフスタイル」（白倉幸男（編）『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ17)』p. 33-47. 1995年SSM調査研究会, 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- Shirakura, Yukio. "Status Attainment, Lifestyle and Participation in High Cultural Activities: Cultural Reproduction and Lifestyle in Japan." Kataoka, Emi (ed.) 'Social Stratification and Cultural Reproduction.' p. 67-86. Osaka University, Faculty of Human Sciences, Shirakura Laboratory.
- 白倉幸男「学歴資本と夫婦の文化活動：現代家族と文化」（片岡栄美（編）『文化と社会階層』p. 205-216. 1995年SSM調査研究会, 大阪大学人間科学部白倉研究室)
- 高田 洋「世代間職業移動とライフスタイル」（白倉幸男（編）『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ17)』p. 245-254. 1995年SSM調査研究会)
- 高田 洋「職業生活のイメージとライフスタイル」（白倉幸男（編）『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ17)』p. 191-204. 1995年SSM調査研究会)
- 高田 洋「主観的豊かさとライフスタイル」（白倉幸男（編）『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ17)』p. 157-174. 1995年SSM調査研究会)
- 高田 洋「住宅とライフスタイル」（白倉幸男（編）『社会階層とライフスタイル(1995年SSM調査シリーズ17)』p. 219-232. 1995年SSM調査研究会)
- 高田 洋「職業のライフスタイル=イメージ」（『年報 人間科学』19 p. 89-100. 大阪大学人間科学部 社会学・人間学・人類学研究室)
- 渡辺 深「ジョブ・マッチングとキャリア・ネットワーク：転職過程の事例研究」（富永健一・宮本光晴（編）『モビリティ社会への展望：変動する日本型雇用システム』p. 103-139. 慶應義塾大学出版会 3500円)
- 大和礼子「女性の労働市場再参入に関するコーホート比較：家族と個人による調整から家族と産業による調整へ」（岩井八郎（編）『ジェンダーとライフコース(1995年SSM調査シリーズ13)』p. 47-70. 1995年SSM調査研究会)
- 安田 雪「職業アスピレーション・教育かネットワークか」（岩本健良（編）『教育機会の構造(1995年SSM調査シリーズ9)』p. 95-112. 1995年SSM調査研究会)

6. 家 族

- 天木志保美「現代市民社会と家族：家族の境界と友人関係」（青井和夫・高橋 徹・庄司興吉（編）『福祉社会の家族と共同意識』p. 105-117. 梓出版社 3200 円）
- 青井和夫「家族の来し方、行く末を考える」（中 久郎（編）『現代家族の変貌：国際比較による総合的研究』p. 425-459. 行路社 5000 円）
- 蘭由岐子「アサイラムにおける「結婚」と「家族的世帯」の形成：ハンセン病療養所を事例として」（『家族研究論叢』4 p. 21-42. 奈良女子大学生生活環境学部）
- 江原由美子「家族のコミュニケーション」（佐伯 胖・黒崎 勲・佐藤 学・田中孝彦・浜田寿美男・藤田英典（編）『ゆらぐ家族と地域』岩波講座「現代の教育危機と改革」7』p. 97-124. 岩波書店）
- 遠藤恵子「高齢者のサポートシステムにみる地域社会情報化と住民の対応」（齋藤吉雄（編）『地域における社会情報のシステム化に関する社会学的研究』32p. 文部省科学研究費補助金成果報告書）
- Fauve-Chamoux, Antoinette and Emiko Ochiai. "Introduction." Fauve-Chamoux, Antoinette and Emiko Ochiai (eds.) 'House and the Stem Family in EurAsian Perspective.' p. 1-19. EurAsian Project on Population and Family History.
- 藤本信子「家族生活に与える職業の影響(1)：Work Spillover 尺度による測定」（『金蘭短期大学研究誌』29 p. 1-27. 金蘭短期大学）
- 藤本哲史「アメリカにおける企業の家族支援制度の展開」（『日本労働研究雑誌』459 p. 63-72. 日本労働研究機構）
- 藤崎宏子「現代社会における家族」（精神保健福祉士養成セミナー編集委員会（編）『社会学』p. 105-130. へるす出版 2600 円）
- 船橋恵子「変貌する家族と子育て」（佐伯 胖・黒崎 勲・佐藤 学・田中孝彦・浜田寿美男・藤田英典（編）『岩波講座現代の教育 7 ゆらぐ家族と地域』p. 28-49. 岩波書店）
- 船橋恵子「子育てから「子育て」へ」（『論座』9月号 p. 26-35. 朝日新聞社）
- 船橋恵子「現代父親役割の比較社会学的検討」（黒柳晴夫・山本正和・若尾祐司（編）『父親と家族：父性を問う（シリーズ比較家族 第II期-2）』p. 136-168. 早稲田大学出版部）
- 橋爪大三郎「加藤秀一氏の書評に答える」（『社会学評論』48(3) p. 371-374. 日本社会学会）
- 橋爪大三郎「近代家族」は家族をどこまでもはみ出してゆく」（『AERA Mook 家族学のみかた』p. 80-86. 朝日新聞社）
- 畠中宗一「家族関係学のアイデンティティ：家族関係学の固有の準拠点を志向して」（『家族関係学』17 p. 63-70. 日本家政学会家族関係部会）
- 畠中宗一「家族への国家の介入と保護のジレンマ：英国におけるチャイルドマインディングの立法史を手掛かりにして」（『現代の社会病理』13 p. 47-58. 日本社会病理学会）
- 樋口晟子「高齢社会と女性」（日仏社会学会（編）『高齢社会における生活の質』p. 99-111. 日仏社会学会）
- 平賀明子・鈴木克典・三谷鉄夫「札幌市における老親の子どもとの距離と接触頻度」（『都市学研究』35 p. 1-6. 北海道都市学会）
- 平井晶子「近世における嫁姑の居住形態：二本松藩仁井田村の事例より」（『家族研究論叢』4 p. 3-20. 奈良女子大学生生活環境学部生活文化学研究室（家族研究部門））
- 平井晶子「近世における家族観の一試論：「宗門人別改帳」の記載分析を通じて」（『社会学雑誌』15 p. 184-199. 神戸大学社会学研究会）
- 平野順子「都市居住高齢者のソーシャルサポート授受：家族類型別モラルへの影響」（『家族社会学研究』10(2) p. 95-110. 日本家族社会学会）
- 廣嶋清志「高齢者の世帯状態変化の要因分解：1975-1990年」（『経済科学論集』24 p. 1-41. 島根大学法文学部）
- 廣嶋清志「日本の家族人口学 20年」（『人口学研究』22 p. 31-37. 日本人口学会）
- 本間康平「日本市民社会と家族意識：その基底部分について」（青井和夫・高橋 徹・庄司興吉（編）『福祉社会の家族と共同意識』p. 89-104. 梓出版社 3200 円）
- 稲葉昭英「どんな男性が家事・育児をするのか？：社会階層と男性の家事・育児参加」（渡辺秀樹・志田基与師（編）『階層と結婚・家族』p. 1-42. 1995年SSM調査研究会「現代日本の社会階層に関する全国調査」成果報告書）
- 井上真理子「ファミリーズム」概念の再検討とその現代日本の家族に対するインプリケーション」（『現代の社会病理』13 p. 1-15. 日本社会病理学会）

- 石原豊美「島嶼部果樹作農家の実態：広島県江田島町の事例」(『農総研季報』40 p. 59-74. 農業総合研究所)
- 石原豊美「農村女性の生活記録」(『農総研季報』38 p. 101-145. 農業総合研究所)
- 岩井紀子「少子化と子どもをもつことの意味」(『刑政』109(5) p. 92-100. (財)矯正協会)
- 岩井紀子「日本における家事労働の分担：性による時間の不平等と家事分担に影響を与える要因」(『大阪商業大学論集』110 p. 107-134. 大阪商業大学商経学会)
- 岩井紀子「子どもをもつことの意味の変化と少子化」(『教育と医学』46(1) p. 11-19. 慶應義塾大学出版会)
- 岩井紀子「高齢層の夫婦における夫の家事参加：夫婦の就業、世帯構成、性別役割分業観に関する分析」(渡辺秀樹・志田基与師(編)『科学研究費報告書(1995年SSM調査シリーズ15)『階層と結婚・家族』』p. 43-69. 1995年SSM調査研究会)
- 岩上真珠「オランダのパートタイム就労」(『家族社会学研究』10(2) p. 43-54. 日本家族社会学会)
- 嘉本伊都子「明治期「国際結婚」観」(『明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻紀要創設三十周年記念論文集』21 p. 235-254.)
- 春日井典子「ライフコースにおける高齢者介護」(『社会学・社会福祉学フォーラム』8 p. 1-16. 神戸女学院大学大学院文学研究科社会学専攻院生会)
- 片岡佳美「現代における夫婦の勢力：測定方法の検討」(日本家族社会学会全国家族調査(NFR)研究会(編)『夫婦・親子関係の測定と方法：NFR 予備調査データを用いた検討』p. 21-34. 日本家族社会学会全国家族調査(NFR)研究会)
- 川崎澄雄「父親と子ども：名古屋市中区事例」(『金城学院大学論集社会科学編』40 p. 67-87. 金城学院大学)
- 木戸 功「相互行為を通じた「家族」の構築と知識のダイナミクス」(『人間科学研究』11(1) p. 87-99. 早稲田大学人間科学部)
- 木脇奈智子・大山治彦「地域における子育て支援：大阪府K市における行政と市民ネットワークの事例研究から」(『家庭教育研究所紀要』20 p. 137-147. 財団法人小平記念会家庭教育研究所)
- 小島 宏「フランスにおける家族政策の変化と女子の労働供給：わが国にとっての含意」(2025年の日本システム研究会(編)『2025年の日本システム』p. 151-167. 年金総合研究センター)
- 小島 宏「家族政策と家族戦略：母親の就業と保育方法をめぐって」(丸山 茂・橘川俊忠・小馬 徹(編)『家族のオートノミー』p. 76-105. 早稲田大学出版部 3400円+税)
- 小島 宏「フランスにおける家族政策の雇用政策化とその影響」(『家族社会学研究』10(2) p. 7-18. 日本家族社会学会)
- 小島 宏「先進諸国における家族政策と雇用政策の関係」について」(『家族社会学研究』10(2) p. 3-5. 日本家族社会学会)
- 小島 宏「先進諸国における家族政策変動の出生力に対する影響」(長寿社会開発センター(編)『高齢化社会における社会保障体制の再構築に関する理論研究事業の調査研究報告書(11)』p. 5-26. 長寿社会開発センター)
- 小島 茂「高学歴女性のキャリアと職業意識」(『日本労務学会大会研究報告』p. 205-210. 日本労務学会)
- 小島 茂「地域情報誌から大学まちづくりへ」(『日本都市学会年報』31 p. 75-82. 日本都市学会)
- 菰渕 緑「ひとり親家族」(四方壽雄(編)『家族の崩壊』p. 203-220. ミネルヴァ書房 3000円)
- 熊谷文枝「アジアの家族：近代性と伝統性の共存」(中 久郎(編)『現代家族の変貌』行路社)
- 熊谷文枝「21世紀社会に期待される人間像」(押谷由夫(編)『教職研修・新教育課程の論点徹底理解 No. 2「豊かな人間性・社会性の育成」』p. 42-53.)
- 熊谷文枝「今日のアメリカの家族」(『宇宙人』15 p. 20-30.)
- 李 環媛「現代韓国社会の性別役割分業体制の規定要因：性別による役割の振り分けを正当化する二つの要素：義務と愛情」(『季刊家計経済研究』38 家計経済研究所)
- 李 環媛「韓国における性別役割分業に関する研究：1970年以降の実証研究を中心に」(『季刊家計経済研究』39 家計経済研究所)
- 前田信彦「高齢者の家族とソーシャル・ネットワーク」(『季刊家計経済研究』40 p. 35-43. 家計経済研究所)
- 前田信彦「家族のライフサイクルと女性の就業：同居親の有無とその年齢効果」(『日本労働研究雑誌』459 p. 25-38. 日本労働研究機構)
- 森岡清美「家族社会学のパラダイム転換をめざして」(『家族社会学研究』10(1) p. 139-143. 日本家族社会学会)
- 森岡清美「勲功華族における妻と妾：男爵尾崎三良の場合」(『淑徳大学社会学部研究紀要』32 p. 107-127. 淑徳大学社会学部)
- 永井広克「主婦の家族観：45才の場合」(『富山女子短期大学紀要』33 p. 42-54. 富山女子短期大学)

- 長沢孝司「出産の前後における夫婦関係の形成」(『日本福祉大学研究紀要(第2分冊・文化領域)』99(2) p. 91-135. 日本福祉大学)
- 仲野 誠「「外国人妻」と地域社会：山形県における「ムラの国際結婚」を事例として」(『移民研究年報』4 p. 92-109. 日本移民学会)
- 西野理子「「家族戦略」研究の意義と可能性」(丸山 茂・橋川俊忠・小馬 徹(編)『家族のオートノミー』p. 54-75. 早稲田大学出版部)
- Nonoyama, Hisaya and Yoshimi Kataoka. "Changing Marital Relationships in Japanese Society : Through Some Findings of Surveys by Hyogo Research Institute for Family Issues and Related Data." 'Konan University Kiyo : Bungaku Version.' 105 p. 44-69. Konan University.
- Ochiai, Emiko. "Two Types of Stem Household System in Japan : the Ie in Global Perspective." Fauve-Chamoux, Antoinette and Emiko Ochiai (eds.) 'House and the Stem Family in EurAsian Perspective.' p. 215-244. EurAsian Project on Population and Family History.
- 落合恵美子「日本家族の変動とその分析枠組：比較アジア家族変動論へ向けて」(竹沢尚一郎(編)『アジアの社会と近代化：日本・タイ・ベトナム』p. 19-51. 日本エディタースクール出版部 2800円)
- 岡本晴行「学生の望む結婚観と家族像」(『龍谷大学社会学論集』18 p. 143-159. 龍谷大学社会学会)
- 大山治彦「専業主婦に対する子育て支援：子育てボランティアのあり方について」(中 久郎・桑原洋子(編)『現代社会と社会福祉』p. 163-178. 信山社 2900円)
- 佐藤宏子「農村中高年女性の老後意識の追跡研究：家族周期移行パターンによる差異」(『老年社会科学』20(2) p. 97-108. 日本老年社会科学会)
- 四方壽雄「離婚原因について」(中 久郎(編)『現代家族の変貌：国際比較による総合的研究』p. 136-162. 行路社 5000円 龍谷大学地域研究所叢書3)
- 塩月亮子「「Publicなケガレ」から「Privateなケガレ」へ：マイクロネシア・ヤップ島における女性に関するケガレ観の動態的研究」(『日本女子大学紀要人間社会学部』8 p. 161-174.)
- 鈴木一代・片寄美恵子「国際家族の生活・適応状態と子どもの精神発達に関する研究：インドネシア-日本国際家族の場合について」(『安田生命社会事業団研究助成論文集』第33号(1997年度) p. 151-159.)
- 田淵六郎「ペットは「家族」か」(田中 宏(編)『社会学の視線』p. 31-59. 八千代出版)
- 田淵六郎「家族構造とエスニシティ」(『人文学報(社会福祉学)』291 p. 69-108. 東京都立大学人文学部)
- 田淵六郎「「家族」へのレトリカル・アプローチ：探索的研究」(『家族研究年報』23 p. 71-83. 家族問題研究会)
- 田房由起子「「難民性」の変容：難民政策から見る日本におけるインドシナ出身家族の現状」(庄司洋子(編)『在日外国人の人権と家族問題』p. 93-107. 立教大学社会学部 庄司洋子)
- 高橋 泉「地域社会と保健医療福祉」(星野貞一郎(編)『保健医療福祉の社会学』p. 62-77. 中央法規出版 2800円)
- 竹下修子「国際結婚に対する社会の寛容度」(『家族社会学研究』10(2) p. 71-82. 日本家族社会学会)
- 竹下修子「日本人女性の国際結婚に関する研究：明治時代を中心に」(『女性史学』8 p. 56-70. 女性史総合研究会)
- 竹下修子「内鮮婚姻：社会的・法的背景を中心に」(『歴史民俗学』12 p. 62-79. 批評社)
- 竹下修子「外国人男性と日本人女性の関係の歴史：らしゃめんとオンリーの比較から」(『歴史民俗学』11 p. 178-195. 批評社)
- 田中理絵「養護施設における子どものスティグマに関する研究」(『教育社会学研究』63 p. 199-217. 東洋館出版社)
- 田中理絵「「家族崩壊」下の子どもの社会化過程に関する一考察」(『九州教育学会研究紀要』25 p. 75-82. 九州教育学会)
- 戸島信一「低成長、経済の国際化過程での家族経営と生活様式の変容」(『九州大学農学部農芸雑誌』52(3/4) p. 193-210. 九州大学農学部)
- 坪内玲子「大名における家系継承と人口学的要因：10萬石以上の大名家の場合」(『龍谷紀要』20(1) p. 15-22. 龍谷大学紀要編集委員会)
- 坪内玲子「近世における家系継承と人口学的要因：会津藩藩士の場合」(『比較家族史研究』12 p. 47-64. 比較家族史学会)
- 坪内玲子「萩藩藩士における家系継承：主として加賀前田藩、鹿兒島島津藩と比較して」(『龍谷紀要』19(2) p. 1-10. 龍谷大学紀要編集委員会)
- 坪内玲子「あるポンドックにおける家族生活：半島マレーシアの事例から」(中 久郎(編) p. 256-277. 行路社)
- 坪内良博「双系社会における父親」(黒柳晴夫・山本正和・若尾祐司(編)『父親と家族：父性を問う』p. 257-278. 早稲田大学出版部 3800円)

- 土屋 葉「〈家族のきずな〉とケアに関する一考察：全身性障害者の「語り」を読み解く」（『国立婦人教育会館研究紀要』2 p. 47-56. 国立婦人教育会館）
- 渡辺弘之「骨と日本人：日本の家族と死生観」（『新潟県立看護短期大学紀要』4 p. 111-125.）
- 蕭 紅燕「中国四川農村の擬制的親族：「拜乾老輩子」慣行を中心に」（清水浩昭・芳賀正明・松本誠一（編）『性と年齢の人類学：高橋統一先生古希記念論文集』p. 215-241. 岩田書院 7900 円）
- 矢島正見「ドヤ街」（四方壽雄（編）『家族の崩壊』p. 270-284. ミネルヴァ書房）
- 山本正和「家族構成の変動についてのノート：愛知県の動向から」（椋山女学園大学人間関係学部（編）『人間の探究』椋山女学園大学人間関係学部 10 周年記念論集』p. 143-162. 椋山女学園大学人間関係学部）
- 山根真理「家族社会学におけるジェンダー研究の展開：1970 年代以降のレビュー」（『家族社会学研究』10(1) p. 5-29. 日本家族社会学会）
- 山根真理・木下由美子・関野幸恵「1980 年代アメリカの女性・家族と保守主義プロファミリーフェミニズム：J. Stacey, Are Feminists Afraid to Leave Home? を手がかりに」（『愛知教育大学家政学教室研究紀要』29 p. 83-95. 愛知教育大学家政学教室）
- 山下美紀「啓蒙概説書としての百科事典における「家族」記述に関する研究」（『生活文化研究所年報』11 p. 103-130. ノートルダム清心女子大学生活文化研究所）
- 米村千代「資本家の婚姻戦略と「家」の存続：明治大正期における婚姻、養子の事例を通して」（『人文研究』27 p. 31-60. 千葉大学文学部）
- 吉田啓子「子供の養育問題からみた地域共同の課題」（中田 實・板倉達文・黒田由彦（編）『地域共同管理の現在』p. 163-174. 東信堂）
- 善積京子「家事分担のプロセスと夫妻の対立」（日本・スウェーデン家族比較研究会（編）『家庭生活と仕事に関する調査研究第一次報告書：常勤共働き夫妻を対象に』p. 36-45. 日本・スウェーデン家族比較研究会 非売品）
- 善積京子「非法律婚カップルの意識と生活」（『家族学のみかた（AERA Mook）』39 p. 142-146. 朝日新聞社）
- 善積京子「新しい家族規範のパラダイム」（善積京子（編）『ビデオサブテキストスウェーデンの葬送と高齢者福祉：変わる家族の絆』p. 63-91. M & K メディア文化研究所 26000 円（ビデオ含））

7. 農漁山村・地域社会

- 相川良彦「村落の封鎖性の測定方法」（『農村生活研究』42(4) p. 2-9. 日本農村生活学会）
- 相川良彦「村落の学説系譜と展開過程：農村環境整備における農村地域組織の役割と課題」（農村地域組織研究会（編）『農村環境整備における農村地域組織の役割と課題』p. 1-12. （社）農村環境整備センター）
- 秋葉節夫・石坂督規・桐村拓治「山村における家族と地域生活：広島県双三郡作木村の事例」（『社会文化研究』24 p. 137-195. 広島大学総合科学部）
- 藤井和佐「地域自治組織と主体形成：政治文化論アプローチによる試論」（中田 實・板倉達文・黒田由彦（編）『地域共同管理の現在』p. 175-186. 東信堂 4762 円）
- 藤井和佐「女性地域リーダー育成施策の意義：「漁業士」認定制度を手がかりとして」（『奈良女子大学社会学論集』5 p. 112-128. 奈良女子大学文学部社会学科）
- 後藤一蔵「若者契約における消防機能の展開過程」（『村落社会研究』4(2) p. 34-43. 農山漁村文化協会 1200 円）
- 原 聖「国民形成と地域文化」（福井憲彦（編）『工業化と国民形成（岩波講座「世界歴史」18）』p. 217-239. 岩波書店）
- Hashimoto, Kazutaka. "The Central City versus a Local City in East Japan." 'Bulletin of Kanto Gakuin University.' 82 p. 127-145. Society of Humanities Kanto Gakuin University.
- 早川洋行「官治から住民自治へ：広聴制度の改革を提言する」（滋賀自治体問題研究所（編）『県民が拓く 21 世紀の湖国』p. 308-328. 自治体研究社 1800 円）
- 平野順子「地域における高齢者のソーシャル・サポート：東京都台東区を事例として」（『家族関係学』17 p. 93-103. 日本家政学会家族関係部会）
- 細辻恵子「都市の生活と地方文化」（間場寿一（編）『地方文化の社会学』p. 2-23. 世界思想社 2300 円）
- 細谷 昂「地域リーダーとしての地主：山形県西田川郡京田村土門父子の「履歴書」から」（丹野清秋（編）『地域社会の歴史と構造』p. 107-130. 御茶の水書房）
- 入佐英紀・戸島信一・横川 洋「有機農業運動から環境保全型農業への展開条件」（『農業経済論集』49(2) p. 11-18. 九州農業経済学会）

- 石川雅典・菅野 正「大館市の農業集落の構造変化とその地域的特性」(『秋田桂城短期大学地域総合研究所「研究
所報」』2 p.13-47.)
- 石坂督規「干拓地農村における家族と農民意識：岡山県児島郡灘崎町の事例」(『社会文化論集』5 p.231-270. 広
島大学大学院社会科学研究所)
- 伊藤順啓「地方自治と地域住民《補遺》：『地域社会論』講義ノート(二)」(『研究紀要』12(2) p.1-12. 静岡県
立大学短期大学部)
- ケオモノータム, マリー・牧田 実「バンコクにおける地域社会開発政策の展開と地域住民組織」(中田 實・板倉
達文・黒田由彦(編)『地域共同管理の現在』p.232-245. 東信堂 4762円)
- ケオモノータム, マリー・牧田 実「バンコク郊外部の地域住民組織：カナカマカーン・チュムチョン・ベッサヤ
ームの事例」(『宇都宮大学国際学部研究論集』5 p.1-15. 宇都宮大学国際学部)
- 上久保達夫「現代我が国農山村地域における林業労働者の生活と人間に関する一考察：岐阜県下の一林業山村にお
ける聞き取り調査結果に基づいて」(『労働科学』74(6) p.229-236. 労働科学研究所)
- 金子雅彦「全国からみた静岡県」(中野正大(編)『静岡県の地域イメージ』p.13-62. 静岡新聞社 1456円)
- 金子雅彦「静岡県内お国比較」(中野正大(編)『静岡県の地域イメージ』p.63-104. 静岡新聞社 1456円)
- 木下謙治・室井研二・中村晋介「コミュニティと地域福祉」(『人間科学』1998(4) p.67-85. 九州大学文学部人間
科学科)
- 北原 淳「東南アジア農業農村研究の成果と課題」(『アジア研ワールド・トレンド』34 p.16-20. アジア経済研究所)
- 木脇奈智子「子育てネットワークに関する考察：子育てサークルの類型と今日的課題」(『家族関係学』17 p.13-22.
日本家政学会家族関係学部会)
- 小林多寿子「ライフストーリーのなかの地域：移民送出の地方文化」(間場寿一(編)『地方文化の社会学』p.244-266.
世界思想社)
- 小松田儀貞「保健・医療・福祉の地域的総合化：岩手県藤沢町における高齢者ケアシステムの形成と展開」(『研究
年報』6 p.22-38. 富士大学地域経済文化研究所)
- 熊谷苑子「農村の高齢者福祉への取り組み」(『農村生活研究』43(1))
- 前田武彦「歴史と水：西上州のノスタルジー観光」(『神戸国際大学紀要』55 p.29-41. 神戸国際大学学術研究会)
- 前田武彦「地域観光の光と影：四万十川を事例として」(『日本観光研究会全国大会研究発表論文集』13 p.133-138.
日本観光研究会)
- 柗瀉俊子「山村の観光開発による生業と生活の変容：福島県下郷町大内・中山地区を事例として」(『淑徳大学社会
学部研究紀要』32 p.149-177. 淑徳大学社会学部)
- 松浦さと子「サンフランシスコで出会った市民のための市民のチャンネルを創る人々」(『放送レポート』155 p.54-
59. メディア総合研究所)
- 森川美絵「福祉の市場化」の行方：ホームヘルプサービス事業の民間委託運営からみえる課題」(高橋正樹・西野
淑美・森川美絵(編)『東京都目黒区におけるコミュニティと福祉社会』579p. 非売品)
- 長濱一夫「出稼ぎと過疎：肝属郡佐多町のその後」(『同朋大学論叢』78 p.77-95. 同朋学会)
- 永井 彰「農村地域における地域医療・福祉システムの形成と展開：長野県小県郡武石村の事例」(『東北文化研究
室紀要』39 p.1-19. 東北大学文学部東北文化研究室)
- 長坂 格「フィリピンにおけるバランガイの形成：フィリピン地域社会研究の一視点」(『社会学雑誌』15 p.88-106.
神戸大学社会学研究会)
- 中田 實「地域共同管理の主体と対象」(中田 實・板倉達文・黒田由彦(編)『地域共同管理の現在』p.17-28. 東
信堂)
- 中澤秀雄「戦後の地域開発と「民主主義」再考：地方政治論における「巻町」の意味」(『地域社会学会年報』10 p.75-90.
ハーベスト社)
- 新原道信「横浜・金沢における複合的な地域社会発展を考える」(『経済と貿易』176 p.65-77. 横浜市立大学経済
研究所)
- 新原道信・メルレル, A「地域形成に寄与する大学のあり方を考える」(『経済と貿易』176 p.79-88. 横浜市立大学
経済研究所)
- 野宮大志郎「総和町の社会組織・親族組織の研究」(『そうわ町史研究』4 p.25-38. 総和町教育委員会)
- 小川全夫「中山間地域の農的暮らしで「生涯現役」の高齢化社会」(『現代農業』39 p.88-91. (社)農山漁村文化協
会)
- 小川全夫「多面的活動集落論」(農政調査委員会(編)『農村集落の混住化と多面的活動』p.62-72. 農政調査委員会)

- 小川全夫「広域的中山間地域振興の模索」(農政調査委員会(編)『農政の展開が中山間地域の農業に与える影響についての調査研究報告書』9 p.1-22. 農政調査委員会)
- 大石 裕「情報化と地方文化」(間場寿一(編)『地方文化の社会学』p.201-220. 世界思想社 2300円)
- 大山信義「持続可能な開発と地域づくり」(『REC Technical Report』23 p.1-21. 札幌国際大学)
- 大山信義「持続可能な観光とまちづくり」(『日本観光学会誌』32 p.1-9. 日本観光学会)
- 大山信義「持続可能な開発とコミュニティ：大分県湯布院町の事例に即して」(『札幌国際大学紀要』5 p.19-28. 札幌国際大学)
- 大山信義・妹尾淳子「持続可能な発展と地域戦略：地方発展計画の検証」(『REC Technical Report』22 p.1-24. 札幌国際大学)
- Rausch, Anthony S. “Hirosaki City Social Welfare Related Volunteer Activity Survey Research Findings.” ‘Regional Studies.’ 6,7 青森大学地域問題研究所.
- 西光義秀「地域社会における精神障害者の理解と授産施設の受容」(『龍谷大学社会学部紀要』12 p.38-46. 龍谷大学社会学部学会)
- 酒井俊二「韓国漁村の近代化に関する事例考察：韓国慶尚北道蔚珍郡厚浦邑金音四里の事例」(『中京学院大学研究紀要』6(1) p.65-78.)
- 酒井俊二「水産社会学への道」(『中京学院大学研究紀要』5(2) p.47-60.)
- 菅 康弘「交わることと混じること：地域活性化と移り住む者」(間場寿一(編)『地方文化の社会学』p.150-175. 世界思想社)
- 高田知和「茨城県にみる産業組合運動の側面：産組教育指導者の産業組合論」(『年報社会学論集』11 p.167-178. 関東社会学会)
- 高田知和「農村青年の自己教育活動：農民日記にみられるその一端」(『ヒューマンサイエンス』11(1) p.45-54. 早稲田大学人間総合研究センター)
- 高橋博子「アメリカの高齢者と生きがい」(高橋勇悦(編)『高齢者の生きがいに関する国際比較研究』p.83-98. 高齢者能力開発研究会)
- 武田尚子「「移民」をめぐる言説：大正年間の地方改良運動との関連から」(『年報社会学論集』11 p.155-166. 関東社会学会)
- 武田尚子「明治20年代の移民問題と地方問題：植民協会の設立と移民保護規則制定の過程から」(『社会学論考』19 p.47-68. 東京都立大学社会学研究会)
- 徳川直人「「自由化」と稲作農家の論理および意味世界：北海道深川市ムム地区での探究事例より」(『村落社会研究』4(2) p.22-23. 日本村落研究学会)
- 徳川直人・田村真広「大規模酪農地帯における暮らしと農の意識と論理：別海町における探究事例から」(『環境教育研究』1(1) p.37-62. 北海道教育大学環境教育情報センター)
- 徳川直人「酪農家の営農意欲・充足度・営農論理に関する基礎調査から：別海町西春別地区を対象として」(『鉏路論集』30 p.235-258. 北海道教育大学鉏路校)
- 富吉素子「沖縄の地割制度と無家格型村落」(『麻生福岡短期大学研究紀要』8 p.111-122. 麻生福岡短期大学)
- 鳥越皓之「韓国における住民自治の可能性」(『関西学院大学社会学部紀要』81 p.175-184. 関西学院大学社会学部研究会)
- 戸谷 修「近郊農村における高齢者の生活と意識：愛知県西加茂郡三好町を事例として」(『椋山女学園大学研究論集』29(社会科学篇) p.65-96. 椋山女学園大学)
- 戸谷 修「三好町における人口構造とその変化」(ふるさと三好調査研究委員会(編)『三好町調査報告書』p.33-130. 三好町, 愛知県)
- 戸谷 修「三好町における産業構造・就業構造とその変化」(ふるさと三好調査研究委員会(編)『三好町調査報告書』p.99-130. 三好町, 愛知県)
- 轟理恵子「農家の「嫁」から農家の「女性」へ」(『順正短期大学研究紀要』26 p.115-130. 順正短期大学)
- 轟理恵子「家庭菜園と農家の女性」(『女性と経験』23 p.32-38. 女性民俗学研究会)
- 上杉孝賢「地域の抱える課題と解決への道」(『地域同和』211 p.3-11. (財)滋賀県解放県民センター)
- 若林良和「沖縄県におけるカツオ漁業の展開と漁船乗組員の海上生活」(『高知大学教育学部研究報告』2(55) p.35-30. 高知大学教育学部)
- 若林良和「沖縄県・伊良部町における漁業の動向とその特質」(『がくむに』3 p.138-151. 松山東雲女子大学)
- 若林良和「鹿児島県におけるカツオ漁業の展開と漁船乗組員の海上生活」(『高知大学教育学部研究報告』2(56) p.39-51. 高知大学教育学部)

- 劉 文静・細谷 昂「法人化協業組織における個と集団：農事組合法人上小松生産組合の35年」(『村落社会研究』5(1) p. 33-44. 日本村落研究学会)
- 山本剛郎「西宮市における住宅地の形成過程」(高坂健次(編)『地域都市の肖像』p. 3-33. 関西学院出版会)
- 山本剛郎「明治期における豊中のむら」(豊中市市史編さん委員会(編)『新修豊中市史 9』9 豊中市市史編さん委員会)
- 山本 努「過疎農山村研究の新しい課題と生活構造分析」(山本 努・徳野貞雄・加来和典・高野和良(編)『現代農山村の社会分析』p. 2-28. 学文社 2300 円)
- 山本 努「過疎農山村における人口還流と生活選択論の課題」(山本 努・徳野貞雄・加来和典・高野和良(編)『現代農山村の社会分析』p. 29-50. 学文社 2300 円)
- 山本 努「過疎問題の変容と過疎研究の新しい問題構図」(『社会分析』25 p. 157-164. 日本社会分析学会)
- 山本 努「過疎問題の変貌と過疎地域をみる新しい視角」(『季刊中国総研』2(1), 2 p. 29-34. 中国地方総合研究センター)
- 山崎仁朗「地域コミュニティと公共性」(中田 實・板倉達文・黒田由彦(編)『地域共同管理の現在』p. 67-79. 東信堂)

8. 都 市

- 鯉坂 学「京都市の地域社会の動態と現状(覚書) : 1975~1995 年の行政区及び小地域=(元)学区別データ分析を中心に」(『評論・社会科学』58 p. 1-30. 同志社大学人文学会)
- 鯉坂 学「現代都市の動態と危機」(『地域福祉研究』26 p. 1-10. 日本生命済生会福祉事業部)
- 阿久津昌三「祭りとイベント：特に、長野の祇園祭とびんずるを中心として」(『信濃』50(1) p. 1-25. 信濃史学会)
- 浅川達人「現代社会における地域社会」(岡上和雄・新保祐元・寺谷隆子(編)『精神保健福祉士の基礎知識』p. 241-246. 中央法規)
- 藤田弘夫「都市の共同性と町並み」(歴史と方法編集委員会(編)『都市と言語』27p. 青木書店 3000 円)
- 藤田弘夫「都市と町並み」(『人文科学研究所報』21 11p. 関東学院大学)
- 藤田弘夫「都市と人間の発展」(『市政』47(2) 5p. 全国市長会 300 円)
- 藤田弘夫「奥井復太郎と都市社会学」(『地域社会学会年報』10 ハーベスト社)
- 藤田弘夫「奥井復太郎と『現代大都市論』」(日本都市学会(編)『日本都市学会年報』31 6p. 名古屋市都市調査室)
- 後藤範章「大都市圏居住者の生活構造と生活意識：「豊かさ指標」との関連で」(『TRI-VIEW』12(7) p. 16-22. 東急総合研究所)
- Hashimoto, Kazutaka. "A Comparative Study of Two Big Cities : Yokohama and Singapore." 'Transaction of the Institute of Humanities.' 21 p. 53-70. The Institute of Humanities Kanto Gakuin University.
- 平松道夫「ノーマリゼーションのコミュニティづくり：共生社会の実現をめざして」(『日本都市学会年報 1997』31 p. 83-90. 日本都市学会)
- 平野順子・工藤由貴子・袖井孝子「高齢者と都市の生活環境(第 2 報)：地域特性とソーシャルネットワーク」(『日本家政学会誌』49(11) p. 1209-1216. 日本家政学会)
- 堀川三郎「都市空間と生活者のまなざし」(石川淳志・佐藤健二・山田一成(編)『見えないものを見る力：社会調査という認識』p. 133-149. 八千代出版 2800 円)
- 今西一男「住民運動による普遍的公共性の構築：区画整理住民運動による「まちづくり」を事例に」(日本社会学会(編)『社会学評論』49(2) p. 51-67.)
- 今西一男「密集既成市街地再整備を目的とした小規模区画整理に関する研究：和歌山県田辺市の商業系土地利用を主とした地区における事例研究」(日本都市計画学会(編)『都市計画論文集(都市計画別冊)』33 p. 151-156.)
- 岩永真治「シティズンシップの歴史社会学：都市の成立と発展との関連で」(『明治学院論叢 社会学・社会福祉学研究』103 p. 59-148. 明治学院大学社会学会)
- 岩永真治「アーバニズムの生誕と市民社会の発展：斎藤・岩永共著『都市の美学』における主題と方法」(『Socially』6 p. 5-17. 明治学院大学社会学・社会福祉学会)
- 柿本昭人「都市の傷痕と Re=publik 1：病理的なものの転倒」(『10+1 (Ten Plus One)』14 p. 32-33. INAX 出版)
- 柿本昭人「都市の傷痕と Re=publik 2：建築唯我論」(『10+1 (Ten Plus One)』15 p. 42-44. INAX 出版)

- 金子 勇「高齢者と地域社会」(『The Gerontology』10(4) p.53-58. メディカルレビュー社)
- 金子 勇「高齢者と地域福祉活動」(『都市問題研究』50(5) p.81-93. 都市問題研究会)
- 金子 勇「都市化の音楽社会学」(倉沢進先生退官記念論集刊行会(編)『都市の社会的な世界』p.405-425. 倉沢進先生退官記念論集刊行会)
- 片岡佳美「阪神・淡路大震災が非被災地に与えた影響：横浜市民にみる、家族・親族・地域関係における影響を中心として」(『長寿社会研究所・家庭問題研究所研究年報』3 p.103-110. (財)兵庫県長寿社会研究機構 1997年度刊行となっている雑誌であるが、1998年3月に発行されたもの)
- 菊池哲彦「写真のなかの都市：19世紀写真における視覚の編成と都市のモダニティ」(『ソシオロギス』22 p.241-256. ソシオロギス編集委員会)
- 小林多寿子「要不要の循環：フリーマーケットの都市風俗誌」(『現代風俗学研究』4 p.58-70. 現代風俗研究会東京の会)
- 小浜ふみ子「町内社会と地域的リーダーシップ：その社会史」(『一般教員論集』14 p.31-44. 愛知大学教養部)
- 工藤由貴子・平野順子・袖井孝子「高齢者と都市の生活環境(第1報)：地域特性と生活行動」(『日本家政学会誌』49(11) p.1199-1208. 日本家政学会)
- Machimura, Takashi. "Symbolic Use of Globalization in Urban Politics in Tokyo." 'International Journal of Urban and Regional Research.' 22(2) p.183-194. Blackwell.
- 眞鍋知子「コミュニティ測定のための理論的考察」(『ソシオロギ』42(3) p.127-142. 行路社)
- 眞鍋知子「コミュニティ指標の試論的構成：奈良市奈良町の事例をめぐって」(『奈良女子大学社会学論集』5 p.164-181.)
- 松本 康「サンフランシスコの社会地図：アメリカ合衆国の都市と郊外」(『中部開発センター』125 p.60-71. 中部開発センター)
- 松本 康「都市への定住とパーソナル・ネットワーク」(倉沢進先生退官記念論集刊行会(編)『都市の社会的な世界』p.169-203. UTP制作センター)
- 松本 康「戦後シカゴ学派のコミュニティ論」(中田 賢・板倉達文・黒田由彦(編)『地域共同管理の現在』p.54-66. 東信堂)
- 森 元孝「巨大都市の民主主義：東京都臨海副都市開発問題の調査研究のために」(『社会科学討究』43(3) p.207-236. 早稲田大学アジア太平洋研究センター)
- 森岡清志「パーソナルネットワーク研究の方法的問題：標本調査と事例調査の検討」(倉沢進先生退官記念論集刊行会(編)『都市の社会的な世界』p.205-225. 倉沢進先生退官記念論集刊行会)
- 中根光敏「釜ヶ崎」(青木秀男(編)『場所をあける!：寄せ場/ホームレスの社会学』p.96-98. 松籟社)
- 中筋直哉「東京論の断層：「見えない都市」の十有余年」(『10+1(テンプラスワン)』12 p.168-177. INAX出版)
- 中筋直哉「磯村都市社会学の揺籃：東京帝大セツルメントと戸田社会学」(『日本都市社会学年報』16 p.29-47. 日本都市社会学会)
- 新津晃一「スラムの形成過程と政策的対応」(田坂敏雄(編)『アジアの大都市：バンコク』p.257-278. 日本評論社)
- 西村雄郎「札幌市のコミュニティ変容と地域住民組織」(『社会文化研究』23 p.57-87. 広島大学総合科学部)
- 西下彰俊「高蔵寺ニュータウンにおける中高年集合住宅居住者の生活意識調査」(『アーバン・アドバンス』10 p.89-98. 名古屋都市センター)
- 西下彰俊「高蔵寺ニュータウンにおける中高年集合住宅居住者の生活意識調査」(p.1-52. 名古屋都市センター 報告書)
- 野沢慎司「職人の生活史と東京下町の変貌：時代と磁場と自我のジレンマ」(倉沢進先生退官記念論集刊行会(編)『都市の社会的な世界』p.327-354. UTP制作センター 8400円)
- 奥田道大「日本都市社会学の行く末：講座『21世紀の都市社会学』の刊行に寄せて」(倉沢進先生退官記念論集刊行会(編) p.21-29. (株)UTP制作センター 8400円)
- 奥田道大「同時代と未来の都市への未完の問い：磯村英一先生追悼」(『日本都市社会学年報』16 p.3-11. 日本都市社会学年報編集委員会)
- 大倉健宏「大都市再生の文脈と21世紀型コミュニティイメージのために」(『福島女子短期大学「研究紀要」』29 p.75-83. 福島女子短期大学)
- Otani, Shinsuke. "Personal Community Networks in Contemporary Japan." Barry, Wellman(ed.) 'Networks in the Global Village : Life in Contemporary Communities.' Westview Press.
- 齋藤昌男「人口変動と都市」(『市政』47(6) p.112-117. 全国市長会)

- 鈴木 広「都市社会学の現代的課題」(『久留米大学文学部紀要人間科学編』11 p. 21-34. 久留米大学文学会)
- 高木正朗「歴史的都心の商家と家族」(佛教大学総合研究所(編)『成熟都市の研究 : 京都のくらしと町』p. 123-147. 法律文化社 3800 円)
- 高橋英博「コミュニティ形成における都市ボランティアリズムと地域団体 : 大阪市平野区平野地区の事例より」(『宮城学院女子大学研究論文集』88 p. 33-56. 宮城学院女子大学文化学会)
- 高橋博子「都市における生涯学習と高齢者の地域社会参加」(『エイジング(高齢社会対策の情報誌)1998-春号』15(4) p. 18-23. エイジング総合研究センター)
- 高橋勇悦「1.5 次関係、多重人格、ネットワーク」(倉沢進先生退官記念論集刊行会(編)『都市の社会的世界』p. 133-147. UTP 制作センター)
- 竹内彰啓「都市における中高年男性のネットワーキング : 「男の料理」言説と共に」(『人間情報学研究』3 p. 43-66.)
- 玉野和志「地域の世代的再生産と都市祭礼の復興」(『人文学報』290 p. 65-138. 東京都立大学人文学部)
- 玉野和志「コミュニティ行政と住民自治」(『都市問題』89(6) p. 41-52. 東京市政調査会)
- 田中重好「奥井復太郎の都市論」(『三田社会学』3 p. 34-38. 三田社会学会)
- 立山徳子「構造転換期の〈伝統消費型都市〉と社会層 : 岐阜県高山市における社会移動とパーソナル・コミュニティの分析から」(『明治学院大学研究所年報』28 p. 45-59. 明治学院大学社会学部附属研究所)
- 立山徳子「大館市市民調査の概要と集計結果」(水谷史男(編)『「地方都市における職業選択と就業移動の研究」文部省科学研究費補助金研究成果報告書』)
- 立山徳子「岐阜県高山市における社会移動とパーソナル・コミュニティの分析」(水谷史男(編)『「地方都市における職業選択と就業移動の研究」文部省科学研究費補助金研究成果報告書』)
- 牛山久仁彦「地方政府による市民セクター支援政策の現状と課題 : NPO 活動と行政の協働を進めるための自治体政策」(『愛知大学法経論集』148 愛知大学法学会)
- 渡戸一郎「グローバル化による新たなローカル化の位相と意味 : 都市コミュニティ論からの中間総括の試み」(地域社会学会(編)『シティズンシップと再生する地域社会(地域社会学会年報)』10 p. 91-110. ハーベスト社)
- 渡戸一郎「地方広域都市におけるコミュニティ意識と集団参加 : 福島県いわき市調査から」(『明星大学社会学研究紀要』18 p. 47-66. 明星大学人文学部社会学科)
- 渡戸一郎「90 年代後期東京におけるコミュニティ施策の転換 : 「コミュニティ」と「市民活動」の交錯を超えて」(『都市問題』89(6) p. 15-27. 東京市政調査会)
- 渡戸一郎「「多文化共生」のまちづくりへ」(川村千鶴子(編)『多民族共生の街・新宿の底力』p. 225-254. 明石書店)
- 山口恵子「新宿における野宿者の生きぬき戦略 : 野宿者間の社会関係を中心に」(『日本都市社会学会年報』16 p. 119-134. 日本都市社会学会)
- 山口恵子「「こじき」と「こつじき」の間にて : 新宿における野宿者のアイデンティティ構築過程」(『社会学論考』19 p. 1-20. 東京都立大学社会学研究会)
- 吉原直樹「20 世紀・東京・磯村都市社会学 : 一つの覚書」(『日本都市社会学会年報』16 p. 13-28. 日本都市社会学会)
- 吉原直樹「奥井都市論における内生思考 : 奥井復太郎都市経営論の検討に向けて」(『三田社会学』3 p. 28-33. 三田社会学会)
- 吉原直樹「頼母子講の存続形態と機能に関する一事例研究 : アリサンとの比較で」(『東北文化研究室紀要』39 p. 39-54. 東北大学文学部)
- 吉原直樹「ジャカルタ特別州におけるグラス・ルーツの一構造的特性 : PKK の活動を中心として」(『現代社会学研究』11 p. 1-25. 北海道社会学会)
- 吉原直樹・ラファエラ, D. ドウイアント「ジャカルタ特別区におけるグラス・ルーツの一存在形態 : アリサンについての素描」(『東北大学文学部研究年報』47 p. 169-193. 東北大学文学部)
- 吉野英岐「同潤会の生計費調査について」(内田青蔵・藤谷陽悦・吉野英岐(編)『近現代都市生活調査同潤会基礎資料』11 第 1 巻) 1 p. 70-113. 柏書房 190000 円)

9. 生活構造

- 秋山憲治「生活研究方法における個人と主観的意味」(内田 健(編)『「生活の質」研究の基礎 II』p. 61-75. 早稲田大学人間総合研究センター)

- 荒岡作之「青年労働者生活の変容とニューライフスタイル」(『大阪経済法科大学論集』70)
- 有吉広介「郊外都市の高齢者における生活意識の研究」(『獨協大学諸学研究』1(2) p. 26-58. 獨協大学外国語学部)
- 永藤清子・井上えり子・水島かな江・佐々木和子・清瀬尚子・朴木佳緒留「ジェンダー視点からみた阪神・淡路大震災後の家族・労働・家事分担の実態」(『日本家政学会誌』49(2) p. 173-186. 日本家政学会)
- 近藤義忠「日本人の健康意識と行動：「健康づくりの社会学」序説」(『宮城教育大学紀要』32 p. 175-188. 宮城教育大学)
- 三善勝代「海外派遣勤務者の配偶者の生活と意識：クアラルンプールでの1993年調査を基に」(『和洋女子大学紀要』38 p. 67-76. 和洋女子大学)
- 水島かな江「在宅酸素療法患者にみる生活の変化」(『日本家政学会誌』49(11) p. 1173-1184. 日本家政学会)
- 長濱あかし・水島かな江「在宅酸素療法患者のQOLについて」(『日本胸部臨床』57(11) p. 873-883. 克誠堂出版株式会社)
- 中山ちなみ「若者の地域移動と居住志向：生活意識に関する計量分析」(『京都社会学年報』6 p. 81-112. 京都大学文学部社会学研究室)

10. 政治・国際関係

- 駄場裕司「「国策通信社」設立課程にみる日本の特権階級」(『政治経済史学』377 p. 1-24. 政治経済史学会)
- 古城利明「世界システムとヨーロッパ統合」(高柳先男(編)『ヨーロッパ統合と日欧関係：国際共同研究1』p. 11-26. 中央大学出版部 5000円 英訳あり. European Integration and World-System, ISSCU(institute of Social Sciences, Chuo University) Occasional Papers No. 3(1998))
- 古城利明「ヨーロッパ連合とイタリア」(高柳先男(編)『ヨーロッパ統合と日欧関係：国際共同研究1』p. 277-310. 中央大学出版部 5000円)
- 橋爪大三郎・金 観濤・鄭 敦仁・劉 求賢「21世紀は「アジアの世紀」か」(『正論』307 p. 102-113. 産経新聞社)
- 橋爪大三郎・加藤典洋・竹田青嗣・小浜逸郎・瀬尾育夫・大澤真幸「『敗戦後論』をめぐる」(『樹が陣営』18 p. 74-98. 飢餓陣営発行所)
- 橋爪大三郎・中村敦夫他「抜本的な改革の政党とその支持基盤をどこからどのようにつくっていくのか」(『がんばろう!日本!10.10シンポジウム報告集』p. 45-77. 民主統一同盟)
- 平野 浩「選挙研究における「業績評価・経済状況」の現状と課題」(『選挙研究』13 p. 28-38. 木鐸社)
- 廣瀬和子「核兵器使用の違法性」と「核抑止の論理」：法社会的分析」(『国際法外交雑誌』97(1, 2) p. 1-31, p. 34-57. 国際法学会)
- 茨木正治「政治・メディア・政治漫画(5)」(『北陸法学』5(4) p. 29-50. 北陸大学法学会)
- 茨木正治「政治・メディア・政治漫画(6)」(『北陸法学』6(3) p. 25-47. 北陸大学法学会)
- 飯塚 深「ファシズム体制の崩壊と民主化過程：スペイン、ポルトガル両国を事例として」(『北陸法学』6(1) 126+26p. 北陸大学法学部法学会)
- 石田勝利「「核」による人権の蹂躪：核軍産複合体と人権の関係について」(『明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻紀要』21 p. 169-189.)
- 石丸 博「バトロニッジとしての官僚制：比較社会的試論(下)」(『社会科学論集』37 p. 173-210. 愛知教育大学社会科学会)
- 梶田孝道「R. ブルーベイカーのナショナリズム理解をめぐる」(『一橋論叢』120(2) p. 185-194. 日本評論社)
- Kajita, Takamichi. "The Challenge of Incorporating Foreigners in Japan: 'Ethnic Japanese' and 'Sociological Japanese'." Myron, Weiner and Tadashi Hanami (eds.) 'Temporary Workers or Future Citizens?: Japanese and U. S. Migration Policies.' p. 120-148. Macmillan Press.
- Kashiwazaki, Chikako. "Jus Sanguinis in Japan: The Origin of Citizenship in a Comparative Perspective." 'International Journal of Comparative Sociology.' 39(3) p. 278-300. Brill.
- Kashiwazaki, Chikako. "Citizenship, State Membership, and Nationhood: Association or Dissociation?." 'Research in Political Sociology.' 8 p. 81-101. JAI Press.
- Kitahara, Atsushi. "Development and Asian Culture in the Context of Globalization." 'The Annual Reports of Humanities & Social Sciences.' 17 p. 1-21. Graduate School of Humanities & Social Sciences Kobe University.

- Kono, Makoto. "A Theoretical Approach to the Political Factors behind Japanese Welfare Development." 'Hyogo University Journal.' 3 p. 101-128. Hyogo University.
- Kono, Makoto. "A Classification of Political Ideologies : Ideological Perspective on Welfare Production." 'The Journal of Hyogo Women's College.' 31 p. 66-72. Hyogo Women's College.
- 小山雄一郎「道路交通事故・安全に関する施策/言説の展開過程 : リスクと帰責の観点から」(『社会学論考』19 p. 89-110. 東京都立大学社会学研究会)
- 栗田宣義「現代日本における左翼主義の衰退」(片瀬一男(編)『政治意識の現在』p. 65-85. 1995年SSM調査研究会)
- 松永信一「政治の儀礼性 : M. エーデルマン『政治言語』を中心に」(『摂南法学』20 p. 153-202. 摂南大学法学部)
- 松岡一夫「戦後沖縄と国民意識」(『国際政経論集』6 p. 55-114. 二松学舎大学)
- 森 俊太「国際社会の社会学理論 : 国際開発論概説(その1)」(『いわき明星大学人文学部研究紀要』11 p. 57-66. いわき明星大学)
- 西平重喜「各国の混合制選挙法」(『選挙研究(日本選挙学会年報)』13 p. 149-158. 木鐸社)
- 西平重喜「国民投票の実情」(『日本世論調査協会報「よろん」』82 p. 30-38. 日本世論調査協会)
- 小川賢治「イギリス君主制の神話」(『滋賀文化短期大学研究紀要』7 p. 11-23. 滋賀文化短期大学)
- 荻野達史「抗議行動と「政治体」 : ある地域社会の Polity を記述する」(東京都立大学社会学研究会(編)『社会学論考』19 p. 143-177.)
- 大石 裕「政治社会学から見たモデニティ : 社会運動論の展開を中心に」(『三田社会学』3 p. 10-16. 三田社会学会)
- 鈴木規之「政策科学・国際関係論専攻における社会学的フィールドワークの可能性」(『政策科学・国際関係論集』1 p. 109-150. 琉球大学法文学部)
- 高田峰夫「バングラデシュ : 民主性は定着するのか」(佐藤 宏・岩崎育夫(編)『アジア政治続本』p. 255-268. 東洋経済新報社)
- 高橋博子「老朋友」(『エストレーラ(統計と情報の専門誌)』1998(9) p. 24-25. 統計情報研究開発センター(しんぷおにか))
- 薬師院仁志「ソフトな社会と悪 : 表現の自由という観点から」(『研究紀要』6 p. 47-62. 帝塚山学院大学教養課程)
- 吉沢四郎「開発援助をめぐる日欧関係 : スロバキアとハンガリーを事例として」(高柳先男(編)『ヨーロッパ統合と日欧関係 : 国際共同研究 I』p. 433-45. 中央大学出版部)

11. 社会運動・集合行動

- 足立重和「あいつはここに住んでいない : 環境保護運動における住民のカテゴリー化実践の研究」(山田富秋・好井裕明(編)『エスノメソドロジーの想像力』p. 159-169. せりか書房 2500円)
- 橋本梁司「癒しと美術にかかわる地域共同性」(河原 宏(編)『日本思想の地平と水脈』p. 367-393. ぺりかん社)
- 木村邦博「政治的抗議運動のパラドックス」(『数理科学』420 p. 69-74. サイエンス社)
- 栗田宣義「政治的暴力の計量分析」(『数理科学』36(1) p. 75-80. サイエンス社)
- 黒田宣代「ヤマギシ会(Y会)をめぐる人々のマインド」(『現代の社会病理』13 p. 135, p. 115-128. 日本社会病理学会 1500円)
- 黒田宣代「共同体運動のアイロニー ヤマギシ会を事例に」(『社会分析』25 p. 169, p. 101-114. 日本社会分析学会 1800円)
- 中根光敏「暴動」(青木秀男(編)『場所をあける! : 寄せ場/ホームレスの社会学』p. 224-226. 松籟社)
- 西城戸誠「日本における環境運動の組織構造と運動戦略 : 1960年-1990年代の環境運動を事例として」(『現代社会学研究』11 p. 70-86. 北海道社会学会)
- 野宮大志郎「政治的機会構造・経済構造・イデオロギー : 幕末日本の農民運動」(『理論と方法』13(1) p. 23-40. 数理社会学会・ハーベスト社(埼玉))
- Nomiya, Daishiro. "Comparing Protest and Conflict : A Time-Series Analysis of Peasant Unrest in Japan : 1800-1877." 'International Journal of Japanese Sociology.' 7 p. 65-83. The Japan Sociological Society.
- 荻野達史「離脱と浸透 : 社会運動のコミュニケーション原理と事例研究」(関東社会学会(編)『年報社会学論集』11 p. 119-130.)
- 荻野達史「集合行為フレームの動員潜在力分析 : コードの歴史的記述分析とその含意」(日本社会学会(編)『社会学評論』49(2) p. 206-220.)

- 大橋照枝「デモクラシーを支える多様なNPO：日米環境NPO比較」（『世界』5 p. 211-223. 岩波書店）
- 志村明子「戦前期における女性運動（上）：婦選獲得同盟と市川房枝を中心に」（『中京大学社会学部紀要』13(1) p. 1-26. 中京大学社会学部紀要編集委員会）
- 高田昭彦「現代市民社会における市民運動の変容：ネットワークの導入から「市民活動」・NPOへ」（青井和夫・高橋 徹・庄司興吉（編）『現代市民社会とアイデンティティ』p. 160-185. 梓出版社 3200円）
- 土屋淳二「災害ボランティア行動に関する社会学的研究の視角」（『ボランティアセンター研究年報』東京ボランティアセンター）
- 渡邊洋之「社会運動における「我々」の形成と展開」（『ソシオロジ』43(1) p. 55-72. 社会学研究会）

12. 経営・産業・労働

- 秋山憲治「“新しい労働”の位置：職業労働と非職業労働の再考のために」（『社会学評論』49(2) p. 68-84. 日本社会学会）
- 秋山憲治「大衆長寿時代の高齢者の働き方」（宮内孝知（編）『大衆長寿時代の楽しみ方(2)』p. 27-44. 早稲田大学人間総合研究センター）
- 青木章之介「タイ国における海外出稼ぎの規定要因」（『日本労働研究機構研究紀要』15 p. 31-67. 日本労働研究機構）
- 藤本哲史「企業の女性従業員訓練制度に関する研究」（『日本労務学会誌』1(1) p. 32-41. 日本労務学会）
- 古田隆彦「市場が縮小する時代」（『THE21』1998(3) p. 33-35. PHP 研究所）
- 古田隆彦「21世紀を先取りするメタフィジカル・マーケティング」（『商品開発研究』1998(11) p. 1-24. 販売実務協会）
- 樋口晟子「看護婦の労働条件と平等意識」（『東北福祉大学研究紀要』23 p. 179-186. 東北福祉大学）
- 平沢和司「大卒理系就職と学校推薦」（岩内亮一・荻谷剛彦・平沢和司（編）『大学から職業へ II：就職協定廃止直後の大卒労働市場』p. 65-76. 広島大学大学教育研究センター）
- 堀内圭子「「個々の消費者が認識する商品価値」の概念に関する論考：経済学理論を導入して」（『成城大学大学院コミュニケーション紀要』12 p. 117-140.）
- 堀内圭子「ショッピングを楽しむ消費者の心理」（『繊維製品消費科学』39(5) p. 34-40.）
- 堀内圭子「快樂の質：哲学および経済思想における快樂論の消費者行動研究への応用」（『成城文藝（成城大学文芸学部紀要）』164 p. 82-96.）
- 堀内圭子「商品快樂価値の規定因と尺度に関する研究枠組の提案」（『産業・組織心理学研究』11(2) p. 135-146.）
- 石田信義「国際労働力移動に関する社会・文化的考察：日系ブラジル人の事例を通して」（『奈良史学』16 p. 115-137. 奈良大学史学会）
- 片田江綾子「高校生の職業観とその影響要因：長崎県立1高校における聞き取り調査をもとに」（『子ども社会研究』4 p. 93-105.）
- Kawanishi, Hirotsuke and Ross Mouer. “Le mouvement syndical au Japon.” ‘Sociologie et Sociétés.’ 15(2) p. 95-112. Les Presses de l’Université de Montréal.
- 河西宏祐「新型労働組合の動向」（『日本労働社会学会年報』9 p. 73-90. 東信堂）
- 木村清司「文化と経営に関する一研究」（『愛国学園短期大学紀要』15(1) p. 1-22. 愛国学園短期大学）
- 北嶋 守「異文化社会における日本のモノづくりの特質」（『機械経済研究』29 100p. p. 31-56. (財)機械振興協会 経済研究所）
- Kumagai, Fumie. “From Friction to Friendship: Alleviating Intercultural Communication Problems under Japanese Foreign Direct Investment.” ‘Journal of Kyorin University Faculty of Foreign Studies.’ p. 1-21. Kyorin University.
- 黒田英一「トヨタ生産方式の変容：製造現場での観察による一考察」（『研究紀要』21(2) p. 69-93. 青森大学・青森短期大学学術研究会）
- 前田信彦「オランダにおけるパートタイム労働の動向と家庭生活の変化」（『海外社会保障情報』124 p. 89-102. 国立社会保障・人口問題研究所）
- 前田信彦「中高年期の生活設計と就業意欲」（日本労働研究機構（編）『中高年の働き方と生活設計に関する調査報告書』p. 14-27. 日本労働研究機構）

- 牧 正英「高齢化社会の雇用保障について：日本人事行政研究所「高齢化社会にふさわしい人事管理制度の在り方と移行道程」の調査資料との比較研究」(『関西学院大学社会学部紀要』80 p.159-166. 関西学院大学社会学部研究会)
- 三善勝代「海外派遣者の配偶者におけるキャリア開発」(『産業・組織心理学会第14回大会発表論文集』p.187-189. 産業・組織心理学会第14回大会準備委員会)
- 小川賢治「日本企業の変容とセクシャル・ハラスメントの将来」(中 久郎(編)『社会学論集 持続と変容』p.246-259. ナカニシヤ出版)
- 大橋照枝「スモールビジネスとしてのNPO(民間非営利組織)」(『2001～2005年のニーズと成長産業・有望商品』p.360-364. 日本ビジネスレポート)
- 大橋照枝「欧米のエコビジネス」(『2001～2005年のニーズと成長事業・有望商品』p.216-220. 日本ビジネスレポート)
- 大野 威「日本企業と生産制限」(田中 宏(編)『社会学の視線(まなざし)』p.171-193. 八千代出版)
- Okada, Akinori and Ayako Miyachi. "Predicting the Amount of Purchase by a Procedure Using Multidimensional Scaling: An Application to Scanner Data on Beer." Balderjahn, Ingo, Rudolf Mather and Martin Schada(eds.) 'Classification, Data Analysis, and Data Highways.' p.401-408. Springer.
- Okada, Akinori. "Effects of End-Aisle Display and Flier on the Brand-switching of Instant Coffee." Hayashi, Chikio, Noboru Ohsumi, Keiji Yajima, Yutaka Tanaka and Hans-Hermann Bock(eds.) 'Data Science, Classification, and Related Methods.' p.716-727. Springer.
- 大黒 聡「産業構造の転換と労働市場の変化：名古屋市における日系外国人労働者の就労状況を通じて」(北川隆吉(編)『現代日本の社会変動と地域社会の変容・再編：グローバルゼーション、イノベーション、インフォメーションシステム、コミュニティ・ストラクチャーII』p.22-27. 専修大学文学部北川隆吉研究室)
- 大黒 聡「企業のリストラクチャリングと日系外国人労働者の就労実態：名古屋市」(北川隆吉(編)『現代日本の社会変動と地域社会の変容・再編：グローバルゼーション、イノベーション、インフォメーションシステム、コミュニティ・ストラクチャーII』p.205-207. 専修大学文学部北川隆吉研究室)
- 大黒 聡「品川区における外国人(労働者)の現状と問題」(東京都区職員労働組合品川支部東京自治問題研究所(編)『新しい区政の展開と確立を目指して：品川区・社会・生活構造の総合調査中間報告書』p.29-38. 東京都区職員労働組合品川支部)
- 尾上正人「「クローズIV社会主義」の顛末：トニー・ブレアが否定したもの」(『大原社会問題研究所雑誌』470 p.1-13. 大原社会問題研究所)
- 尾上正人「中小製造業経営者のキャリア形成パターン」(『吉備国際大学社会学部研究紀要』8 p.119-28. 吉備国際大学)
- 尾上正人「都市社会主義から公社へ：英国労働党産業国有化政策の源流」(『地域社会学会年報』10 p.132-49. ハーベスト社)
- 尾上正人「中小サービス業従業員のモビリティ」(富永健一・宮本光晴(編)『モビリティ社会への展望』p.229-57. 慶応義塾大学出版会 3500円)
- 坂口桂子「企業における秘書および秘書的業務担当者の実態：大分県内の企業調査より」(『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』35 p.117-127.)
- 佐々木武夫・豊田謙二(編)「転換期の東アジア：グローバル化とサービス化の動向」(坂口桂子(編)『テクノポリスと情報サービス産業：大分県における就業構造と産業戦略』p.102-117. ナカニシヤ出版 2400円)
- 鈴木 玲「戦後日本の鉄鋼産業における協調的企業別労働組合の成立：組合内政治を通じての分析」(『レヴァイアサン』1998冬 p.95-103. 木鐸社)
- Suzuki, Akira. "Toward an Alternative Analytic Approach to the Internal Politics of Unions." 'International Journal of Japanese Sociology.' 7 p.45-63. The Japan Sociological Society.
- Takegawa, Shogo. "Privatisation in Social Policy: 1980's Britain." 'Journal of the Faculty of Literature, Department of Sociology.' 8, 通巻174 p.139-151. The Faculty of Literature, Chuo University.
- Tanaka, Sigeto. "Dynamic of Occupational Segregation and the Sexual Division of Labor: A Consequence of Feminization of White-Collar Work." Sato, Yoshimichi(ed.) '1995 SSM Research Series Vol. 3 Social Mobility and Career Analysis.' p.85-122. 1995 SSM Research Group(Seiyama's Office, Faculty of Letters, University of Tokyo).
- 丹野清人「創り出される労働市場」(『大原社会問題研究所雑誌』478 p.1-14. 法政大学大原社会問題研究所)

- 梅澤 正「新しい企業文化をつくる」(『Fuji Business Review』15 p. 24-30. 富士短期大学経営研究所)
- 山田信行「市場と組織とを媒介するもの：日本におけるインフォーマル化の具体的把握に向けて」(『帝京社会学』11 p. 223-249. 帝京大学)
- 横山勝英「シカゴにおける日系企業の社員意識：職業意識、生活意識について」(『龍谷大学経営学論集』38(2) p. 43-65. 龍谷大学経営学会)
- 吉原直樹「日本の経営システムの行方」(『トレードピア』328 p. 24-27. 日商岩井株式会社)
- 湯本 誠「トヨタの職場と企業社会」(『札幌学院大学人文学会紀要』62 p. 235-258. 札幌学院大学人文学会)
- Zaiki, Kazuo. "A Comparative Analysis of Privatization: A Chinese Way and a Polish Way." Zloch-Christy, Liana (ed.) 'Eastern Europe and the World Economy.' p. 131-141. Edward, Elgar.
- Zaiki, Kazuo. "Labour Market and Labour Management in China." Gate, L. Carolyn and Kumssa Asfaw (eds.) 'Transition of Asian, African and European Economies to the Market and Socioeconomic Dislocations.' p. 97-106. United Nations Centre for Regional Development.

13. 人 口

- 古田隆彦「逆転の発想が築く高齢化社会の明るい未来」(『三樹』1998年新春号 p. 3-9. フランスベット株式会社)
- 古田隆彦「人口動態で読む2005年の新市場」(日本ビジネスレポート編(編)『ニーズと成長事業・有望商品』p. 7-13. 日本ビジネスレポート株式会社)
- 古田隆彦「人口動態にみるこれからの新商売・新商品」(『先見経済』1998年7月第4週号～8月第1週号 p. 10-13, 56-60. 清話会)
- 廣嶋清志「人口移動統計と地域人口推計」(『統計』49(12) p. 37-40. 日本統計協会)
- Kojima, Hiroshi and Jean-Louis Rallu. "La Jécondité au Japon et en France." 'Population.' 52(5) p. 1143-1172. INED.
- 嵯峨座晴夫「国勢調査の改革をめざして」(『統計』49(10) p. 17-20. 日本統計協会)
- 嵯峨座晴夫「上手な年のとり方」(『市政』47(9) p. 10-15. 全国市長会)
- 嵯峨座晴夫「人口高齢化と世代間扶養」(濱 英彦・河野綱果(編)『世界の人口問題』270+8p. 大明堂 3400円)
- 巽 健一「消費社会論批判：消費社会のソフトランディング(資源・環境問題の克服)を目指して」(『金城学院大学論集社会科学編』40 p. 107-120. 金城学院大学)
- 若林敬子「人口爆発と民族問題」(山内昌之(編)『開発と文化(第4巻)：開発と民族問題』p. 29-53. 岩波書店)
- 若林敬子「母系家族・ロコ湖モリ人の村」(『世界と人口』1998(2) 家族計画国際協力財団(JOICEF))
- 若林敬子「人口爆発と民族問題」(アジア人口開発協会(APDA)(編)『人口と開発』63 p. 52-63. アジア人口開発協会)
- 若林敬子「人口、人口問題」(中国研究所(編)『中国年鑑』1998 p. 202-203, p. 229-230. 中国研究所)
- 若林敬子「上海市の人口高齢化問題」(『アジア太平洋世界と中国：開発の中の人間：シリーズ中国領域研究』10 p. 62-67.)
- 若林敬子「21世紀の人口・環境・食糧」(東京農工大学地域生態システム学編集委員会(編)『地域生態システム学』p. 138-142. 朝倉書店)
- 若林敬子「人口問題」(霞山会(編)『中国総覧』p. 283-291. 霞山会)
- 若林敬子「東アジアと中国・北朝鮮の人口予測」(日本経済調査協議会(編)『東アジア経済の持続的発展とエネルギー・食糧・環境』p. 63-79.)
- 若林敬子「馬寅初：新人口論を発表」(講談社(編)『クロニック・人物20世紀』615p. 講談社)
- 若林敬子「中国の人口問題と食糧政策」(『国際資源』1998(11) p. 23-29. 国際資源問題研究会)
- 矢内 諭「山間地域における地域政策としての生涯学習振興に関する事例研究」(『東北工業大学紀要 II：人文社会科学編』18 p. 1-25. 東北工業大学)

14. 教 育

- 秋葉昌樹「制度的場面として見た「保健室の相談」」(志水宏吉(編)『教育のエスノグラフィー』p. 251-273. 嵯峨野書院)

- 天野正子「子どもを映す「文化と社会」」(佐伯 胖他(編)『ゆらぐ家族と地域(岩波講座『現代の教育』7』p. 3-27. 岩波書店)
- 安保則夫・領家 穰「人権教育研究の探起と展望 : 同和教育研究プロジェクト・チームから人権教育研究室へ」(『関西学院大学人権研究』1 p. 1-18. 関西学院大学人権教育研究室)
- 有本 章「学術研究と大学教授職 : 米国の大学改革の一断面」(『大学論集』28 p. 1-22. 広島大学大学教育研究センター)
- 有本 章「学部教育とファカルティ・ディベロプメント」(『高等教育ジャーナル(北大)』3 p. 76-82. 北海道大学高等教育機能開発総合センター)
- 有本 章「学部教育の理念と現状 : 理念, カリキュラム, 学生, 教員」(有本 章(編)『教養的教育から見た学部教育改革』p. 1-13. 広島大学大学教育研究センター)
- 有本 章「学部教育改革の現在 : 中間的総括」(有本 章(編)『教養的教育から見た学部教育改革』p. 116-118. 広島大学大学教育研究センター)
- 有本 章「大学教員の研究 : 大学教授の使命と市場」(『高等教育研究(日本高等教育学会紀要)』1 p. 141-162. 玉川大学出版部)
- 有本 章「大学改革の軌跡 : 変わる大学キャンパス」(佐伯 胖・黒崎 勲・佐藤 学・田中孝彦・浜田寿美男・藤田英典(編)『変貌する高等教育』p. 87-110. 岩波書店)
- Arimoto, Akira and Akihiro Asonuma. "Japan." Tong-In, Wongsotom and Yibing Wang(eds.). 'Handbook on Diplomas, Degrees and Other Certificates in Higher Education in Asia and Pacific.' p. 161-177. SEAMEO Regional Centre for Higher Education and Development.
- 有本 章「現代学生像と大学(4)」(『学研・進学情報』30(14) p. 18-21. 学習研究社)
- 有本 章「授業の改善と教官の課題 : FD の視点から」(『教授方法の調査・研究中間報告』p. 11-38.)
- 有本 章「現代学生像と大学(3)」(『学研・進学情報』30(13) p. 16-19. 学習研究社)
- 土肥 豊「調査の目的と概要」(大阪教育大学社会学研究会(編)『モスクワ日本人学校調査報告』p. 1-4. 大阪教育大学比較社会研究室)
- 土肥 豊「モスクワ生活と子供の異文化体験」(大阪教育大学社会学研究会(編)『モスクワ日本人学校調査報告』p. 39-58. 大阪教育大学比較社会研究室)
- 土井隆義「学校文化とアスピレーション : 同和地区に居住する児童・生徒の長多欠問題に関する一考察」(『社会学ジャーナル』23 p. 125-150. 筑波大学社会学研究室)
- Ehara, Takekazu. "Faculty Perceptions of University Governance in Japan and the United States." 'Comparative Education Review.' 42(1) p. 61-72. the Comparative and International Education Society.
- Ehara, Takekazu. "Research and Teaching the Dilemma : from an International Comparative Perspective." 'Research in Higher Education : Daigaku Ronsyu.' 28 p. 131-155. Research Institute for Higher Education, Hiroshima University.
- 江原武一「高等教育改革の方向性」(『比較教育学研究』24 p. 43-54. 日本比較教育学会)
- 江原武一「大学で何が出来るか : アメリカとの比較」(『大学進学研究』108 p. 13-17. 大学進学研究会)
- 濱名 篤「政府と大学 : 私学の立場から」(『大学研究』18 p. 29-50. 筑波大学大学研究センター)
- 長谷川裕「いじめ論の状況 : いじめの本質的性格をめぐる議論を中心に」(『教育』48(9)(10) p. 95-104, p. 92-101. 国土社)
- 橋爪大三郎「大きく学んで大きく遊べ」(ゆまに書房編集部(編)『後悔しない学生時代の過ごし方』p. 117-122. ゆまに書房)
- 橋爪大三郎「学校教育の敗北」(『Voice』252 p. 84-87. PHP 研究所)
- 橋爪大三郎「めざせ選択・責任・連帯の教育改革」(『季刊アステイオン』50 p. 110-120. TBS プリタニカ)
- 橋爪大三郎「大学の自己改革は可能か」(広島大学教育研究センター(編)『大学のアカウントビリティとオートノミー(高等教育研究叢書 50)』p. 12-26. 広島大学大学教育センター)
- 橋爪大三郎「教育が変われば、日本が変わる」: 社会経済生産性本部中間報告を踏まえて」(『社会の教壇』37 p. 97-117. 千葉県高等学校教育研究会社会部会)
- 平沢和司「大卒者の出身階層と学校歴・初職 : A 県 1995 年以降生まれの男性を対象として」(佐藤嘉倫(編)『社会移動とキャリア分析 : 1995 年 SSM 調査シリーズ』3 p. 31-44. 1995 年 SSM 調査研究会)
- 稲継 尚「英米高等教育の比較的展望」(『芦屋大学論叢』28 p. 25-44. 芦屋大学)

- 上久保達夫「モスクワの日本人子女教育の現状」(大阪教育大学社会学研究会(編)『モスクワ日本人学校調査報告』 p. 30-38. 大阪教育大学比較社会研究室)
- 上久保達夫「異文化間教育を考える：最近のマレーシア・中国・オーストラリア 3 国における海外子女教育調査より」(『論叢』29(1) p. 73-83. 中京短期大学)
- 神原文子「今、保育所は何に取り組むべきか」(中村拓三(監修)・(財)解放教育研究所(編)『解放の学力とエンパワメント(シリーズ解放教育の争点4)』 p. 82-96. 明治図書)
- 片桐新自「現代学生気質：アンケート調査から見るこの十年」(『関西大学社会学部紀要』30(1) p. 1-46.)
- 加藤千恵「ジェンダーの視点からみた学校教育理念の分析」(『東京女学館短期大学紀要』20 p. 49-64. 東京女学館短期大学)
- 河野銀子「教育学部における学生の多様性」(『山形大学紀要(教育科学)』12(1) p. 11-27. 山形大学)
- 河野銀子「修士課程に学ぶ教員の現状」(『山形大学教育実践研究』7 p. 13-22. 山形大学教育学部附属教育実践研究指導センター)
- Kikkawa, Toru and Makoto Todoroki. "School Education and Democratization of Social Consciousness in Postwar Japan." 'International Journal of Sociology.' Spring 1998 p. 92-108.
- 木村邦博「教育、学歴社会イメージと不公平感」(『理論と方法』13(1) p. 107-126. 数理社会学会)
- 小高良友「社会学的センスを学生に伝える方法」(『東海女子大学紀要』17 p. 159-167. 東海女子大学)
- 工藤保則「子どもの関係性の変化に関する一考察：10歳前後の遊びを手がかりにして」(『ソシオロジ』43(1))
- 黒柳晴夫「近代化の担い手としてのジャワ農村の小学校(2)：インドネシア・ヨグヤカルタ特別州の事例研究」(『富山大学教育学部紀要A(文化系)』52 p. 49-58. 富山大学教育学部)
- 牧野暢男「社会変動下の韓国の女子大学：動向と現状」(『人間研究』34 p. 57-68. 日本女子大学教育学科の会)
- 牧野暢男「女子の大学進学意識の変化と女子大学の対応」(『日本女子大学総合研究所ニュース』4 p. 34-43. 日本女子大学)
- ましこひでのり「クレオール化装置としての国民教育：「市民的素養」と地域/少数派文化の変質」(『大人と子供の関係史』3 p. 17-36. 大人と子供の関係史研究会)
- 南 保輔「日本の学校への帰還：海外家族の帰国戦略」(『コミュニケーション紀要』12 p. 141-171. 成城大学大学院文学研究科)
- 宮内 洋「「韓国・朝鮮」籍の子どもが通う日本の幼稚園：エスノグラフィーの記述におけるひとつの試みとして」(志水宏吉(編)『教育のエスノグラフィー』 p. 151-171. 嵯峨野書院)
- 森 重雄「学校と教育の「考古学」のために」(『社会臨床雑誌』6(2) p. 71-87. 日本社会臨床学会)
- 森 重雄「学校の空間性と神話性」(『季刊子ども学』18 p. 64-73. ベネッセコーポレーション 1000円)
- 中嶋明勲「フランスにおける「第三期世代大学」の展開：P. Vellas の思想」(『金城学院大学人文・社会科学研究所紀要』1 p. 8-17. 金城学院大学)
- 中島勝住「オーストラリアにおける「反差別法」と多文化教育」(中島智子(編)『多文化教育』 p. 219-248. 明石書店 2000円)
- 西根和雄「M. ウェーバーの教育社会学(XIV)：「儒教とピューリタニズム」を中心として」(『広島大学学校教育学部紀要』1(20) p. 137-149. 広島大学学校教育学部)
- Ojima, Fumiaki. "Inequality of Educational Opportunity in Japan: How Gender and Class Produced Educational Inequality?." Iwamoto, Takeyoshi (ed.) 'Structure of Educational Opportunity (The 1995 SSM Research Series/Vol. 9).' p. 1-14. The 1995 SSM Research Group.
- 小野能文「現代日本の短期大学の現状と短大生の意識」(『夙川学院短期大学研究紀要』22 p. 47-65. 夙川学院短期大学)
- 長田五郎「長田新の平和教育論(I)」(『戦後教育史研究』12 p. 1-18. 明星大学戦後教育史研究センター)
- 島津俊之「師範学校による絵はがきの収集と郷土教育：和歌山県の師範学校を例に」(『紀州経済史文化史研究所紀要』18 p. 1-24. 和歌山大学紀州経済史文化史研究所)
- 篠原清夫「日本とドイツにおける教員養成制度の比較研究」(『人間科学論究』6 p. 65-79. 常盤大学大学院人間科学研究科)
- 白鳥義彦「フランス第三共和政下の高等教育における外国への関心：『国際教育評論』を中心に」(『日仏教育学会年報』4, 通巻 26 日仏教育学会)
- 鈴木智之「学校における暴力の循環と「いじめ」：大学生を対象にした回想形式の調査を起点として」(『社会労働研究』45(2) p. 155-192. 法政大学社会学部)

- 田房由起子「バイリンガル教育における「平等」の意味：アメリカ合衆国の言語政策に関する一考察」（『社会学研究論集』5 p. 51-60. 立教大学大学院）
- 多賀 太「ジェンダー形成における多様性と主体性」（『九州大学教育学部紀要（教育学部門）』43 p. 129-142.）
- 高橋浩二・中根光敏「大学生の講義に対する意識と授業改革の課題(2)」（『広島修大論集：人文編』38(2) p. 407-440.）
- 高島秀樹「桜井庄太郎博士の「日本青年史」研究」（『明星大学社会学研究紀要』18 p. 67-79. 明星大学人文学部社会学科）
- 田中義章「現代教員の社会的交流関係の分析：東北六県の公立小学校を中心に」（『社会学論叢』132 p. 1-4. 日本大学社会学会）
- 田中義章「教員の「就職動機別」と「準拠集団別」の関係：平成6年山形県、平成8年東北六県の場合」（『山形県立米沢女子短期大学紀要』33 p. 73-83. 山形県立米沢女子短期大学）
- 轟 亮「高校生の職業意識の持続と変容」（『北海道大学文学部紀要』47(2) p. 151-187.）
- 坪井 健「国際比較から見た日本の学生：アジア・オーストラリアの学生と比較して」（『NEWSLETTER』90 外国人留学生問題研究会）
- Tsuboi, Tsuyoshi. “Japanese Youth Culture : Patterns of Thinking and Behaviour of Japanese High School Students.” ‘KOMAZAWA JOURNAL OF SOCIOLOGY.’ 30 p. 25-51. Department of Sociology, Komazawa University.
- 坪井 健・鐘清 漢「日本及び豪州に於ける華人留学生の特徴と問題点」（輔仁大学法学院社会学系（編）『1998年亜太地区華人社会青少年及其相關問題研討會論文集』p. 220-225. 輔仁大学法学院 非売品）
- 塚田 守「高校教師のライフヒストリー研究(2)：組合活動を中心に」（『椋山女学園大学研究論集』29 p. 149-166. 椋山女学園大学）
- 恒吉僚子「「集団主義対個人主義」を超えて」（小林康夫・船曳建夫（編）『新・知の技法』p. 1-13. 東京大学出版会）
- 恒吉僚子「日本型学校モデルの現状と課題」（濱口恵俊（編）『世界の中の日本型システム』新曜社）
- 上杉孝寛「教育と男女共同参画社会」（『都市問題研究』50(9) p. 44-55. 都市問題研究会）
- 渡部晃正「欧州統合とエラスムス・プログラム：「市民のヨーロッパ」形成のシナリオ」（『豊田短期大学研究紀要』8 p. 59-81. 豊田短期大学）
- 薬師院仁志「学歴についての諸言説：学生答案の質的考察」（『研究紀要教育・社会・文化』5 p. 85-97. 京都大学大学院教育学研究科教育社会学・臨床教育学・生涯教育学・図書館学研究室）
- 山内乾史「教養原論におけるビデオ学習の効果と問題点(1)：神戸大学の研究(その2)」（『大学教育研究』6 p. 11-26. 神戸大学・大学教育研究センター）
- 安田 尚「リセにおける哲学教育」（『上越社会研究』13 p. 1-10. 上越教育大学社会学科教育学会）
- 由谷裕哉「プロゼミナールにおける新聞記事を利用した授業の試み：エスノグラフィックな記録」（『小松短期大学論集』10 p. 101-125. 小松短期大学）

15. 文化・宗教・道徳

- 阿久津昌三「ポストコロナルとポストモダン：文化人類学と文化研究」（『三田社会学』3 p. 17-23. 三田社会学会）
- 青井和夫「共同意識をめぐる欺瞞の克服：オウム真理教と悪の社会学」（青井和夫・高橋 徹・庄司興吉（編）『福祉社会の家族と共同意識：21世紀の市民社会と共同性：実践への指針』p. 289-312. 梓出版社 3200円）
- 土井隆義「近代的自我の陥穽と仏教的宿命論の地平：飽和社会における「自由の憂鬱」から解放されるために」（駒井 洋（編）『脱オリエンタリズムとしての社会知：社会科学の非西歐的パラダイムの可能性』p. 217-261. ミネルヴァ書房）
- 浜日出夫「歴史はいかにして作られるか：博物館の文法・博物館のリテラシー」（『社会学ジャーナル』23 p. 151-162. 筑波大学社会学研究室）
- 原 聖「島の文化的自立：マン島の言語文化復権運動」（宮島 喬（編）『現代ヨーロッパ社会論：統合のなかの変容と葛藤』p. 217-233. 人文書院）
- 長谷川高生「大衆社会における『人格の発展段階論』：『こころの教育』のための一試論」（『姫路学院女子短期大学紀要』26 p. 27-48. 姫路学院女子短期大学）
- 橋爪大三郎「宗教を研究するということ（〈総特集〉中村元と現代）」（『春秋』400 p. 6-12. 春秋社）
- 橋爪大三郎「有害図書を通して道徳の存在を示すのはいいことだ」（『有害図書の世界』p. 201-205. メディアワークス）

- 林 弘幹「蓮如上人と現代」(林 弘幹(編)『蓮如の労働観：後生の一大事と労働』p. 232-252. 真宗大谷派出版部 5714 円)
- 平山満紀「母権制とはいかなる概念か」(『情報と社会(江戸川大学紀要)』9 p. 73-88. 江戸川大学)
- 平山満紀「現代市民社会における病と癒し：社会的リアリティの地殻変動と病の解放：癒しの可能性」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『福祉社会の家族と共同意識：21 世紀の市民社会と共同性：実践への指針』p. 210-229. 梓出版 3200 円)
- Hoffmann, John and Alan S. Miller. "Denominational Influences on Socially Divisive Issues: Polarization or Continuity?." 'Journal for the Scientific Study of Religion.' 37 p. 528-546.
- 井上 俊「現代文化のとらえ方」(井上 俊(編)『新版現代文化を学ぶ人のために』p. 2-20. 世界思想社)
- 石川 実・井上忠司「生活文化を学ぶ人のために」(細辻恵子(編)『子ども文化と遊び』p. 120-143. 世界思想社 2300 円)
- Ito, Masayuki. "The Status of the Individual in Japanese Religions: implications for Japan's Collectivistic Social Values." 'Social Compass.' 45(4) p. 619-633.
- 伊藤雅之「ニューエイジと精神世界：概念的整理を中心として」(『宗教と社会』別冊(1997 年度ワークショップ報告書) p. 22-29.)
- 岩井阿礼「宗教はアイデンティティの係留点になりうるか：宗教がアイデンティティ形成に果たす役割に関する経験的研究」(『平和と宗教』17 p. 106-116. 財団法人庭野平和財団)
- 川又俊則「教会墓地にみるキリスト教受容の問題：日本基督教団信夫教会の事例を中心に」(『年報社会学論集』11 関東社会学会)
- 河村 望「近江商人と浄土真宗」(『東京女子大学社会学会紀要：経済と社会』26 p. 1-18. 東京女子大学社会学会)
- 小林多寿子「書く実践と書く共同体の生成：初期「ふだん記」運動の場合」(『生活学論叢』3 p. 59-70. 日本生活学会)
- 小林多寿子「自己をつづる文化：日記と自分史の誕生」(石川 実・井上忠司(編)『生活文化を学ぶ人のために』p. 209-228. 世界思想社)
- 小池 靖「ポジティブ・シンキングからニューエイジまで：ネットワーク・ダイレクトセリングと自己啓発セミナーの宗教社会学」(『宗教と社会』4 p. 49-77.)
- 口羽益生・古賀和則「総論五個荘町域村落のエコロジー、人口、家族、社会組織、宗教」(口羽益生(編)『近江商人の里・五個荘：その伝統と現在』p. 5-25. 行路社 3000 円)
- 久木元真吾「相互扶助の共同体」と「国家による運営」：保険論にみる日本の公共社会像」(山脇直司・大沢真理・大森 彌・松原隆一郎(編)『現代日本のパブリック・フィロソフィ』p. 351-374. 新世社 2800 円)
- 真鍋祐子「ジンメル宗教社会学よりみた韓国民衆運動の理念：民衆神学の形成と展開を中心に」(『ジンメル研究会会報』4 p. 10-17. ジンメル研究会)
- 圓田浩二「オタク的コミュニケーション」(『ソシオロジ』43(2), (133) p. 67-79. 社会学研究会 2000 円 研究ノート)
- ましこひでのり「障がい者文化の社会学的意味」(『解放社会学研究』12 p. 6-30. 日本解放社会学会)
- 松田美佐・富田英典・藤本憲一・羽瀨一代・岡田朋之「移動体メディアの普及と変容」(『東京大学社会情報研究所紀要』56 p. 89-104. 東京大学社会情報研究所)
- 三浦耕吉郎「儀礼のメタ規範と暴力の政治：シャリヴァリ儀礼の転用をめぐる」(田中雅一(編)『暴力の文化人類学』p. 139-163. 京都大学学術出版会 6300 円)
- 百瀬靖子「俳句歳時記における五節句のソシオマトリックス」(『東京家政大学博物館紀要』3 p. 35-40. 東京家政大学博物館)
- Morioka, Kiyomi. "An Inquiry into the Social Basis of Postive Attitudes Towards Religion: The Significance of Age-graded Parish Organizations as Adult Socialization Agents." 'Bulletin of the Center for Regional Studies.' 7 p. 1-10. Socio-cultural Research Institute, Ryukoku University.
- 村田充八「キリスト教の社会倫理(I)：キリスト教と社会倫理学」(『阪南論集(人文・自然科学編)』34(2) p. 1-11. 阪南大学学会)
- 中泉 啓「日本社会の近代化と伝統工芸を巡る考察」(『社会学論叢』133 p. 35-52. 日本大学社会学会)
- 沼田健哉「共同意識の模索：宮沢賢治における宗教と科学」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『福祉社会の家族と共同意識：21 世紀の市民社会と共同性実践への指針』p. 268-288. 梓出版社 3200 円)

- 沼田健哉「宗教集団における支配と暴力：オウム真理教を中心として」(『桃山学院大学社会学論集』31(2) p. 49-82. 桃山学院大学総合研究所)
- 小川文弥「若者の宗教・生活・コミュニケーション：イギリスのある多文化・多民族校を事例として」(『東京国際大学論叢(人間社会学部編)』4 p. 15-31. 東京国際大学)
- 岡田朋之「情報文化としての現代文化」(井上 俊(編)『現代文化を学ぶ人のために(新版)』p. 63-81. 世界思想社)
- 奥山倫明「エリアード」(山本誠作・長谷正富(編)『現代宗教思想を学ぶ人のために』p. 293-307. 世界思想社)
- 奥山倫明「比較宗教史の再考に向けて：日本からの理論的貢献(1)」(『春秋』404 p. 9-12. 春秋社)
- 奥山倫明「比較宗教史の再考に向けて：日本からの理論的貢献(2)」(『春秋』405 p. 26-29. 春秋社)
- 折原 浩「宗教的行為と宗教的ゲマインシャフト形成にかんする理解社会学的概念構成(2)：ヴェーバー『経済と社会』の全体像構築に向けて(4)」(『名古屋大学社会学論集』19 p. 17-37. 名古屋大学文学部社会学研究室)
- Rausch, Anthony S. "Anthropological Interpretation of The Birth of Tsugaru Shamisen : The Origin and Development of a Japanese Folk Performing Art." 'Studies in Comparative Culture.' 37 The Japan Association of Comparative Culture.
- 坂田貞二・金子量重・鈴木正崇(編)「ラーマヤナの宇宙：伝承と民族造形」(鈴木正崇(編)『スリランカのラーマヤナ』p. 221-251. 春秋社 2800 円)
- Sato, Rika Sakuma. "What are girls made of ? : Exploring the Symbolic Boundaries of femininity in Two Cultures." Inness, Sherrie A. (ed.) 'Millenium Girls : Today's Girls Around the World.' p. 15-44. Rowman & Littlefield.
- 鈴木無二「四国遍路における「正統性」の特質」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』43(1) p. 113-121. 早稲田大学大学院文学研究科)
- 鈴木智之「探偵小説の形成とその文脈：E. ガポリオにおける物語の組織化と過去の表象」(『帝京社会学』11 p. 173-204. 帝京大学文学部社会学科)
- 高田峰夫「ムスリムである/ムスリムになる：バングラデシュにおけるアイデンティティの表出・確認・(再)創造」(『広島修大論集(人文編)』38(2) p. 441-491.)
- 高橋憲昭「品位」と資本主義」(『浄土宗学研究』24 p. 157-173. 知恩院浄土宗学研究所)
- 武山 智「異文化要素を導き入れるもの：乳と日本食文化」(『人文研紀要』32 p. 199-230. 中央大学人文学部社会学科)
- 田中重好「祭りのある地域と「地域への意味賦与」」(『三色旗』601 p. 2-6. 慶應義塾大学出版会)
- 谷 富夫「宗教観光都市の共同規制：宮島の人と社会」(『人文研究』49(11) p. 123-171. 大阪市立大学文学部)
- 若狭清紀「感覚的世界と社会の編成」(『帝京社会学』11 p. 205-222. 帝京大学文学部社会学科)
- 渡辺雅子「ブラジル霊友会における非日本人の信仰受容：カンボグランデ市のブラジル人支部長の事例」(『明治学院論叢 社会学・社会学部研究』103 p. 1-60. 明治学院大学社会学会)
- 山下雅之「美術館との対話：社会学」(並木・吉中他(編)『現代美術館学』p. 269-283. 昭和堂 3500 円)
- 横田理博「ヴェーバーのエートス論と日本思想」(『電気通信大学紀要』11(1)(通巻 21) p. 51-83. 電気通信大学)
- 横田理博「西田幾多郎と和辻哲郎における「個人」の生き方」(『電気通信大学紀要』11(2)(通巻 22) p. 175-195. 電気通信大学)

16. 社会心理・社会意識

- 船津 衛「自我のゆくえ」(『社会学評論』48(4) p. 407-418. 日本社会学会)
- 古田隆彦「世紀末ムードは来世紀まで続く」(『ホームエコノミカ』1998(1) p. 8-11. アコム経済研究所)
- 古田隆彦「消費動向で見る 90 年代末期の心理」(『中央公論』1998(6) p. 112-119. 中央公論社)
- 古田隆彦「消費動向で見る 90 年代末期の社会心理」(『SRI 生活起点』7 p. 17-20. セゾン総合研究所)
- 古田隆彦「消費動向で見る日本人のミーズム」(『真理と創造』38 p. 58-63. 佼正出版社)
- 原田 達「社会意識の現在」(池井 望・仲村祥一(編)『社会意識論を学ぶ人のために』p. 55-74. 世界思想社 2300 円)
- 島山弘文「動員史観へのご招待(全 4 回)」(『マスコミ市民』7, 8, 9, 10, 11 マスコミ市民)
- Hayashi, Nahoko and Toshio Yamagishi. "Selective Play : Choosing Partners in an Uncertain World." 'Personality and Social Psychology Review.' 2(4) p. 276-289. Lawrence Erlbaum Associates, Inc.
- 平塚千尋「東海地震グレー情報と報道」(『放送研究と調査』48(9) p. 58-65. 日本放送出版協会)

- 稲葉昭英「ソーシャル・サポートの理論モデル」(松井 豊・浦 光博(編)『人を支える心の科学』p.151-175. 誠信書房 2500円)
- 石川 准「市民社会の電子化とアイデンティティ」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『福祉社会の家族と共同意識 : 21世紀の市民社会と共同性:実践への指針』p.159-178. 梓出版社 3200円)
- 鎌田大資「自己欺瞞とダブル・バインド : 論理階型論による概念の整理と事例解釈」(『椋山女学園大学研究論集』29 椋山女学園大学)
- 木村邦博「既婚女性の学歴・就業形態と性別役割意識」(尾嶋史章(編)『ジェンダーと階層意識』p.23-48. 1995年SSM調査研究会)
- 桐田克利「勤勉と快楽」(池井 望・仲村祥一(編)『社会意識論を学ぶ人のために』p.113-129. 世界思想社)
- 小杉素子・山岸俊男「一般的信頼と信頼性判断」(『心理学研究』69(5) p.349-357. (社)日本心理学会)
- 久慈利武「欧米人は果たして「間人主義」といえるか」(濱口恵俊(編)『日本社会とは何か』p.297-305. 日本放送出版協会)
- Manabe, Kazufumi. "The Various Aspects of Contemporary Japanese Society." 'Kwansei Gakuin University Social Sciences Review.' 2 p.1-13. Kwansei Gakuin University.
- Manabe, Kazufumi and Harumi Befu. "Japanese Identity Statistically Profiled." 'Kwansei Gakuin Sociology Department Studies.' 79 p.133-145. Kwansei Gakuin University.
- 南 保輔「「日本人」という公的社会的アイデンティティ : 帰国子女の「日本人」意識を考えるために」(『成城文芸』161 p.160-148. 成城大学文学部)
- 中西茂行「マンガ版ビルドゥングスロマンの形成とその変容」(『金沢学院大学文学部紀要』3 p.10-33. 金沢学院大学)
- 仲尾唯治「若者と規範意識」(安藤喜久雄(編)『若者のライフスタイル』p.149-166. 学文社 2300円)
- 西山哲郎「脳内革命」(池井 望・仲村祥一(編)『社会意識論を学ぶ人のために』p.94-95. 世界思想社 2300円)
- Ohashi, Terue. "The Change in the Japanese Consumption Society and the Issues for the 21st Century." 'Reitaku International Journal of Economic Studies.' 6(2) p.97-115. The Reitaku International Society of Economic Studies.
- Okada, Akinori and Yumi Asahi. "Predicting the Development of Friendship Ties among a Group of Students via Multidimensional Scaling : An Analysis Nordlie's Fraternity Data." 'Behavior Metrika.' 25(2) p.165-179.
- Rausch, Anthony S. "The Emerging Consciousness of Japanese Voluntarism." 'International Journal of Japanese Sociology.' 7 p.1-21. The Japan Sociological Society.
- 末田清子・蔡 小瑛「華人の面子・日本人の面子 : PAC 分析技法による日本人を対象とした調査の報告」(『北星論集(文学部)』35 p.51-67. 北星学園大学文学部)
- 末田清子・蔡 小瑛「在日台湾人の親族意識 : 日本人親戚との関わりにおける面子の意識」(『台湾史研究』15 p.44-54. 台湾史研究会)
- 田所承己「自己の構築と「衝動強迫性」」(『ソシオロジカル・ペーパーズ』7 p.59-68. 早稲田大学大学院社会学院生研究会)
- 武川正吾「住環境」(平岡公一(研究代表者)(編)『社会政策と社会的不平等の再生産の関連性に関する総合的研究 平成8年度科学研究費補助金報告書』p.57-70. 平成8年度科学研究費補助金基盤研究(A)(1)研究成果報告書)
- 津田真人「日本近代と自殺 : 社会心理史のために」(『桐朋学園大学短期大学部紀要』16 p.281-378. 桐朋学園大学)
- Yamagishi, Toshio, Karen S. Cook and Motoki Watabe. "Uncertainty, Trust, and Commitment Formation in the United States and Japan." 'American Journal of Sociology.' 104(1) p.165-194. The University of Chicago.
- Yamagishi, Toshio, Nobuhito Jin and Alan S. Miller. "In-Group Bias and Culture of Collectivism." 'Asian Journal of Social Psychology.' 1(3) p.315-328.

17. コミュニケーション・情報・シンボル

- 阿部汎克「社会とコミュニケーション」(中森 強(編)『コミュニケーション論(新現代図書館学講座15)』p.11-37. 東京書籍 2000円)

- 油川 洋「軍事政権下の社会構造とマス・メディア：ミャンマー連邦にみる実態」（『尚桐女学院短期大学研究報告』45 p. 63-74. 尚桐女学院短期大学）
- 安達正嗣「コミュニケーションとしての贈答行動：中元・歳暮を中心に」（石川 実・井上忠司（編）『生活文化を学ぶ人のために』p. 168-183. 世界思想社 2300 円）
- 粟谷佳司「レイモンド・ウィリアムズと文化研究の理論的遺産について」（『同志社社会学研究』2 p. 47-60. 同志社社会学研究学会）
- 粟谷佳司「ロックの「時代精神」からオーディエンスへ：文化研究とポピュラー音楽」（『ポピュラー音楽研究』2 日本ポピュラー音楽学会）
- 邱 取雯「外労族群媒体研究初操：以台湾泰語廣播節目為例」（『台湾社会研究季刊』31 p. 169-193. 台湾社会研究雜誌社）
- 藤村正之「メディア環境と子ども・若者たちの身体」（『教育社会学研究』63 p. 39-57. 東洋館出版社）
- 藤村正之「中高齢と情報環境の近くて遠い関係」（栗原 孝（編）『情報文化と生活世界』p. 89-121. 福村出版）
- 藤竹 暁「コミュニケーションとしての広報」（『広報研究』p. 5-16. 日本広報学会）
- 藤竹 暁「欧米市民社会の現代化」（青井和夫・高橋 徹・庄司興吉（編）『現代市民社会とアイデンティティ』p. 13-33. 梓出版社 3200 円）
- 福永英雄「情報化と物象化：コミュニケーション・経済・文化」（比較文明学会（編）『比較文明』14 p. 141-152. 刀水書房）
- 後藤嘉宏「情報媒体と資料」（『社会情報学研究』2 日本社会情報学会）
- 後藤嘉宏「官公庁資料論の可能性に関する方法論的一考察」（『帝京社会学』p. 1-45. 帝京大学文学部社会学科）
- 花田達朗「都市・公共圏・メディアのトリプレクス：可能性の歴史」（歴史と方法編集委員会（編）『都市と言語（歴史と方法 2）』p. 17-50. 青木書店）
- 花田達朗「公共圏のポリティクスへ」（河原 宏（編）『日本思想の地平と水脈』p. 415-433. ぺりかん社）
- 花田達朗「欧州統合にみるメディア空間政策と空間矛盾」（嶋田 厚・柏木 博・吉見俊哉（編）『デザイン・テクノロジー・市場』p. 175-197. 東京大学出版会）
- 花田達朗「情報メディアの国際化と教育の多元性」（佐伯 胖・黒田 勲・佐藤 勇・田中孝彦・浜田寿美男・藤田英典（編）『国際化時代の教育（岩波講座・現代の教育）』11 p. 224-240. 岩波書店）
- 花田達朗「複製の復讐とくパブリックなるもの」の行方：デジタル放送環境における葛藤」（『放送学研究』48 p. 7-39. NHK 放送文化研究所）
- 平塚千尋「マルチメディア・サービスの検証(1)：インタラクティブ型テレビの行方」（『放送研究と調査』48(7) p. 8-17. 日本放送出版協会）
- 石上文正「日・英語の新聞記事の一比較考察」（『時事英語学研究』37 p. 23-35. 社団法人日本時事英語学会）
- 伊藤陽一「英語支配」の統計的評価：世界と日本との翻訳市場における各国語のシェアと対策（津田幸男（編）『日本人と英語』p. 77-86. 国際日本文化研究センター）
- Ito, Youichi. "Information Flows to and among Asian and Pacific Countries." Anura, Goonasekera and Holaday Duncan (eds.) 'Asian Communication Handbook.' p. 209-229. Asian Media Information and Communication Centre (AMIC).
- 伊藤陽一「住専問題に見る政府・マスコミ・世論の三極関係」（SFC フォーラム（編）『コラボレーション：21 世紀の社会科学を見据える（SFC フォーラム・ファイル 1）』p. 193-208. 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス）
- 金田福男「親密性の商品化」に関する一論考」（『神戸山手女子短期大学紀要』41 p. 79-92. 神戸山手女子短期大学）
- 加藤裕治「新聞報道の誕生：西南戦争をめぐる報道からの考察」（『社会学評論』49(2) p. 100-115. 日本社会学会）
- 河原和枝「消費意識の変容：「通販」をめぐる」（池井 望・仲村祥一（編）『社会意識論を学ぶ人のために』p. 96-112. 世界思想社 2300 円）
- 河原和枝「「私らしさ」の神話：ファッションという制度」（井上 俊（編）『現代文化を学ぶ人のために（新版）』p. 231-251. 世界思想社 2000 円）
- 城戸秀之「地域情報ネットワークのなかのコミュニティと生活者：ネットワークとコミュニケーションの公共性について」（『経済学論集』49 p. 71-90. 鹿児島大学経済学会）
- 小浜ふみ子「コミュニケーション・情報・メディア」（安藤喜久雄（編）『若者のライフスタイル』190p. 学文社 2300 円）

- 小松楠緒子「Deep-Value-Pairing モデルの形成とその論争点」(『保健医療社会学論集』9 p. 52-59. 日本保健医療社会学会)
- 栗原 孝「生活世界と情報文化」(『情報文化と生活世界』p. 11-26. 福村出版)
- 栗原 孝「情報化と格闘する大人たち」(『情報文化と生活世界』p. 59-87. 福村出版)
- 黒田浩一郎「大衆薬広告は何を語るか：医療の言説の政治学」(内田隆三(編)『イメージのなかの社会』p. 109-145. 東京大学出版会)
- 四田浩二「「援助交際」というコミュニケーション」(『関西学院大学社会学部紀要』81 p. 117-128. 関西学院大学社会学部研究会)
- 三重野卓「高度情報化における「生活の質」問題」(『社会・経済システム』17 p. 75-80. 社会・経済システム学会)
- 三浦恵次「最近の米国 PR の動向」(『政経研究』34(3) 日本大学)
- 大橋照枝「ISO 規格で変革を迫られる日本企業のあいまい環境広告」(『論座』4 p. 196-203. 朝日新聞社)
- 大橋照枝「デジタル時代に即応するパーソナル・マーケティング」(『2001～2005 年のニーズと成長事業・有望商品』p. 111-116. 日本ビジネスレポート)
- 大石 裕「日本のジャーナリズム論の理論的課題」(田中 宏・大石 裕(編)『政治・社会理論のフロンティア』p. 371-398. 慶応義塾大学出版会)
- 岡田朋之「もうひとつのマルチメディア：電話網の中のサイバースペース」(『木野評論』29 p. 44-48. 京都精華大学情報館)
- 岡田朋之「ヴァーチャル・リアリティ」(伊藤公雄・橋本 満(編)『はじめて出会う社会学：社会学はカルチャー・スタディ』p. 238-250. 有斐閣)
- 奥村 隆「大阪のシンボリック・マネジメント：「大阪 21 世紀協会」という装置をめぐる」(『千葉大学人文研究』27 p. 1-30. 千葉大学文学部)
- 斉藤正美「敗戦直後の新聞にみる「女性参政」：ディスコースとジェンダー」(『日本女性学会学会誌女性学』6 p. 94-115. 新水社)
- 斉藤正美「クリティカル・ディスコース・アナリシス：ニュースの知/権力を読み解く方法論：新聞の「ウーマン・リブ運動」(1970)を事例として」(『マス・コミュニケーション研究』52 p. 88-103. 日本マス・コミュニケーション学会)
- 斉藤正美「新聞の「国際家族年」ディスコースとジェンダー」(村松泰子・ゴスマン、ヒラリア(編)『メディアがつくるジェンダー：日独の男女・家族像を読みとく』p. 163-189. 新曜社)
- 桜井哲夫「キーワードを疑う：自己責任」(『新聞研究』566 p. 47-49. 日本新聞協会)
- Sharrock, Wes and Nozomi Ikeya. "The Practical Management of Visual Orientation." 'Communication & Cognition.' 31 p. 229-241. Rijksuniversiteit te Gent.
- 竹下俊郎「マスメディアの利用と効果」(竹内郁郎・児島和人・橋元良明(編)『メディア・コミュニケーション論』p. 159-175. 北樹出版)
- 竹内郁郎「マスメディアと社会をめぐる理論の成果と展開」(竹内郁郎・児島和人・橋元良明(編)『メディア・コミュニケーション論』p. 140-158. 北樹出版)
- 竹内郁郎「戦後日本のマス・コミュニケーション理論の系譜」(『マス・コミュニケーション研究』53 p. 5-17. 日本マス・コミュニケーション学会)
- 土屋礼子「戦前期新聞研究における読売瓦版・錦絵新聞・小新聞：新聞の大衆性をめぐって」(『大阪市立大学社会学部紀要、人文研究』50 p. 1-20. 大阪市立大学)
- 土屋礼子「日本広告史概説」(山本武利(編)『現代広告学を学ぶ人のために』p. 2-21. 世界思想社)
- 土屋礼子「ふりがな論の視座：近代日本における文字とリテラシー」(『現代思想』26(10) p. 106-115. 青土社)
- 浦野 茂「「口承の伝統」の分析可能性：物語の相互行為分析」(『社会学評論』49(1) p. 60-76. 日本社会学会)
- 渡辺弘之「「ボランティア」活動におけるコミュニケーション概念」(『人間科学研究』1 p. 75-106.)
- 山田一成「メディア・イベントとしての「無党派層」現象」(『マス・コミュニケーション研究』53 p. 153-166. 三嶺書房(日本マス・コミュニケーション学会?))
- 安田 雪「内容分析 ネットワーク分析とビジネスへの応用：リサーチ実験の分析を兼ねて」(『Net City ビジネススクール 97 報告書』p. 42-50. 未来編集株式会社)

18. 社会病理・社会問題

- 土井隆義「加害者としての少年、被害者としての少年：ある対教師暴力事件をめぐる記述の政治学」(『犯罪社会学研究』23 p.90-. 日本犯罪学会)
- Hoffmann, John and Alan S. Miller. "A Latent Variable Analysis of General Strain Theory." 'Journal of Quantitative Criminology.' 14 p.83-110.
- 星野周弘「少年非行防止のための警察活動」(『警察政策』1(1) p.90-109. 警察政策学会)
- 石川義之「インセスト的虐待のトラウマ(II)」(『社会システム論集』2 p.1-40. 島根大学法文学部)
- 石川義之「インセスト的虐待のトラウマ(III)」(『社会システム論集』3 p.21-52. 島根大学法文学部)
- 岩井阿礼「アイデンティティ産業に関する一考察：『〈本当の私〉探し』の背景」(『現代の社会病理』13 p.101-113. 日本社会病理学会)
- 菰淵 緑「在宅福祉とファミリーズム」(『現代の社会病理』13 p.17-30. 日本社会病理学会 1500円)
- 近藤 論「交錯する都市住民と野宿生活者：意識調査に見る野宿生活者イメージの構成」(『現代の社会病理』13 p.75-85. 日本社会病理学会)
- 草柳千早「問題経験」の語られ方：クレーム申し立て研究の歴史的性格と現代」(『社会学年誌』39 p.19-36. 早稲田学会)
- 間庭充幸「青少年犯罪の質的变化とその要因連関」(『犯罪と非行』116 p.116-135. 青少年更生福祉センター, 他)
- 間庭充幸「分かりにくい若者の犯罪：その理解のために」(『健康教室』49(6) p.10-12. 東山書房)
- 松本寿昭「自殺の学説的研究」(『自殺予防と危機介入』19(1) p.5-13. 日本自殺予防学会)
- 松下武志「逸脱者についての主観的イメージに関する比較研究」(『京都教育大学紀要 A』92 p.59-72. 京都教育大学)
- 中河伸俊「悩む一個人の悩みと社会問題」(伊藤公雄・牟田和恵(編)『ジェンダーで学ぶ社会学』p.126-141. 世界思想社)
- 中河伸俊「レイベリングからトラブルの自然史へ：逸脱と社会問題の研究へのエスノメソドロジーの影響」(山田富秋・好井裕明(編)『エスノメソドロジーの想像力』p.105-120. せりか書房)
- 中根光敏「アンダークラスとしての寄せ場：釜ヶ崎を中心として」(青木秀男(編)『場所をあけろ!：寄せ場/ホームレスの社会学』p.199-223. 松籟社)
- 中根光敏「排除と抵抗の現代社会論：寄せ場と「ホームレス」の社会学にむけて」(青木秀男(編)『場所をあけろ!：寄せ場/ホームレスの社会学』p.75-95. 松籟社)
- 中根光敏「都市空間に於けるストリートをめぐるポリティックス：野宿者問題の再構成にむけて」(中根光敏(編)『差別問題の構成をめぐる社会的ダイナミズム』p.1-39. 広島修道大学総合研究所)
- 酒井俊二「日本における高齢者の自殺について」(斎藤悦則(編)『高齢社会における生活の質』p.147-159. 日仏社会学会)
- 佐藤 恵「社会的相互作用過程における脱自己レイベリング」(『年報社会学論集』11 p.1-12. 関東社会学会)
- 佐藤 恵「解放的レイベリング：レイベリング機能の再検討」(『現代社会理論研究』8 p.105-118. 現代社会理論研究会)
- 高橋良彰「悪質商法の被害事例」(『犯罪と非行』118 p.4-24. 矯正福祉会)
- 谷口重徳「野宿生活問題の新局面：「あいりんシステム」の限界と大阪における野宿生活」(『現代の社会病理』13 p.87-99. 日本社会病理学会)
- 戸田 清「神戸小学生惨殺事件への疑問」(『技術と人間』27(8) p.52-60. 技術と人間)
- 時岡 新「「同和問題」の構築：「同和对策審議会答申」による」(『現代社会理論研究』8 p.119-130. 現代社会理論研究会)
- 所 一彦・星野周弘・田村雅幸・山上 皓「日本の犯罪学7,8」(所 一彦・星野周弘・田村雅幸・山上 皓(編)『法執行の社会的影響』p.160-163, 355p. 東京大学出版会 7800円)
- 矢島正見「犯罪・非行事件についての識者の見解に思う」(『季刊社会安全』29 p.10-17. 社会安全研究財団)
- 矢島正見「ムカついたらプツン」(『季刊社会安全』30 p.45-51. 社会安全研究財団)
- 山本 功「援助交際」の語り方：逸脱創出言説における「子ども」と「性」(『紀要』174(社会学科 8) 中央大学文学部)
- 山本 努「旧産炭地域筑豊の自殺問題」(平元元章・大橋 薫・内海洋一(編)『旧産炭地の都市問題：筑豊・飯塚市の場合』p.387-397. 多賀出版 9200円)

- 米川茂信「社会変動との関連からみた実証的社会病理研究の戦後 50 年間の総括」(『淑徳大学大学院研究紀要』5 p.147-172. 淑徳大学大学院)
- 米川茂信「中・高生の逸脱観」(『犯罪社会学研究』23 p.113-133. 日本犯罪社会学会)
- 湯浅良之助・孫 偉徳「中国大気汚染の現状及其対策(11)」(『広島修大論集』39(1) p.67-100. 広島修道大学人文学会)
- 湯浅良之助・孫 偉徳「中国大気汚染の現状及其対策(1)」(『広島修大論集』38(2) p.221-256. 広島修道大学人文学会)

19. 社会福祉・医療

- 安立清史・園田浩之・福井祐介「過疎高齢化地域の福祉を中心とした村おこし：福岡県星野村を事例として」(『人間科学』4 p.87-120. 九州大学文学部人間科学科)
- 秋山薊二「ゲジェネラル・ソーシャルワークの基本的立場と方法」(『ソーシャルワーク研究』24(1) p.11-16. 相川書房)
- 藤澤三佳「医療社会学におけるエスノグラフィー」(『文化とところ：多文化間精神医学研究』2,3 p.23-33. 相川書房, 多文化間精神医学会編集委員会)
- 浜口晴彦「日本社会の高齢化にともなう介護問題」(『日仏社会学会共同報告書』p.79-97. 日仏社会学会)
- 浜口晴彦「社会学における高齢化研究の動向」(日本思想の地平と水脈(編) p.343-363. べりかん社)
- 橋本和孝・小平廣子「横浜市大病院における看護の労働と社会的地位」(『人文科学研究所報』21 p.71-128. 関東学院大学文学部)
- 池田光徳・野村一夫・佐藤純一「病気と健康の日常的概念の構築主義的理解」(『健康文化』4 p.21-30. 財団法人明治生命厚生事業団)
- 石沢真貴「定住外国人の社会的権利とコミュニティ」(『社会学年報』27 p.69-86. 東北社会学会)
- 鎌田大資「調査課程でのアブダクションとエピファニー」(『ソシオロジ』42(3) p.143-148. 社会学研究会)
- 金子 勇「支え合う福祉社会」(『生きがい研究』4 p.34-55. 長寿社会開発センター)
- 金子雅彦「医療保障とは何か」(医療倫理 Q&A 刊行委員会(編)『医療倫理 Q&A』p.164-167. 太陽出版 2000 円)
- 小高良友「社会福祉士国家試験受験論：受験を体験した教員として」(『社会福祉士』5 p.54-61. 日本社会福祉士会)
- 河野 真「福祉多元主義のゆくえ：利用者主体の福祉改革と新自由主義的改革の動向をめぐって」(『季刊社会保障研究』34(3) p.268-280. 国立社会保障・人口問題研究所)
- 河野 真「ウェルフェアミックス理論：ウェルフェアミックスの概念規定と主要福祉セクターの特徴に関する検討」(『経済学論集』38(2) p.35-51. 龍谷大学経済学会)
- 黒田浩一郎「赤ひげ」(佐藤純一・黒田浩一郎(編)『医療神話の社会学』p.61-96. 世界思想社)
- 黒田浩一郎「ホスピス」(佐藤純一・黒田浩一郎(編)『医療神話の社会学』p.191-216. 世界思想社)
- 儘田 徹「家族ストレス論再考」(『愛知県立看護大学紀要』4 p.67-72. 愛知県立看護大学)
- 松本和良「ウタリ社会における生活の質(1)」(『ソシオロジカ』23(1) p.1-22.)
- 三重野卓「福祉社会の論理：「生活の質」(QOL)と共生の論理」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『福祉社会の家族と共同意識』p.41-59. 梓出版社)
- 三重野卓「「生活の質」の統合モデルを目指して」(『山梨大学教育学部研究報告』48 p.120-128. 山梨大学教育学部)
- 宮垣 元「ボランティア活動にみるダイナミズムの源泉：その行為論的アプローチの試み」(『年報社会学論集』11 p.107-118. 関東社会学会)
- 森川美絵「参加型」福祉社会における在宅介護労働の認知構造：ジェンダー、二重労働市場、専門化の観点から」(山脇直司・大沢真理・大森 彌・松原隆一郎(編)『ライブラリ相関社会学 5 現代日本のパブリック・フィロソフィ』p.396-418. 新世社 2800 円)
- 武藤香織「ハンチントン病の発症前遺伝子検査と医療福祉的サポートの現状」(『医療と社会』8(3) p.67-82. 財団法人医療科学研究所)
- 中垣昌美「社会福祉の歴史性と社会福祉教育」(一番ヶ瀬康子・大友信勝・日本社会事業学校連盟(編)『戦後社会福祉教育の五十年』ミネルヴァ書房)

- 新原道信「THE BODY SILENT : 身体の奥の眼から社会を見る」(『現代思想』26(2) p.243-257. 青土社)
- 小川全夫「社会サービスをめぐる登録ヘルパー・家族介護者・住民の意識」(前田大作(編)『社会サービスの利用に対する高齢者の意識と行動の研究』2 p.161-184. 立正大学)
- 小澤千穂子「有償ボランティアの参加動機と活動継続意志の維持要因・阻害要因 : 世田谷ふれあい公社協力員へのケーススタディによる検討」(『大妻女子大学紀要 : 家政系』34 p.221-237. 大妻女子大学)
- 三本松政之「ボランティア活動と福祉コミュニティ」(古川孝順(編)『社会福祉 21 世紀のパラダイム I』p.231-248. 誠信書房)
- 佐藤純一「人間ドック」(佐藤純一・黒田浩一郎(編)『医療神話の社会学』p.1-29. 世界思想社)
- 庄司興吉「福祉社会の家族と共同意識 : 市民共和の福祉社会のために」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『福祉社会の家族と共同意識 : 21 世紀の市民社会と共同性・実践への指針』p.3-10. 梓出版社)
- 周藤真也「反精神医学と家族、あるいは人間へのまなざし」(『現代社会理論研究』p.65-80. 現代社会理論研究会(発売:人間の科学社))
- 高島昌二「スカンジナビア型福祉モデルとスカンジナビア諸国の社会経済構造の発展 : 長期的視点から見た」(『龍谷大学社会学部紀要』12 p.47-70. 龍谷大学社会学部学会)
- 高島昌二「スカンジナビア諸国における政治システムと福祉国家の発展 : 比較福祉の視点から」(『龍谷大学社会学論集』18 p.39-60. 龍谷大学社会学部学会)
- 武川正吾「一社会学者の見た皆保険・皆年金」(『季刊社会保障研究』33(3) p.260-271.)
- 武川正吾「福祉社会と社会保障」(地主重美・堀 勝洋(編)『社会保障読本(第2版)』p.3-31. 東洋経済新報社)
- 武川正吾「福祉社会における参加」(『社会福祉研究』71 p.26-32. 鉄道弘済会)
- 武川正吾「転換期の社会政策学」(『社会政策叢書』編集委員会(編)『社会政策学会 100 年 : 百年の歩みと来世紀に向かって(社会政策叢書第22集)』p.71-106. 啓文社)
- 武川正吾「多様化するNPO」(『月刊福祉』81(9) p.28-31. 全国社会福祉協議会)
- 戸田 清「トリプトファン事件」(生命操作事典編集委員会(編)『生命操作事典』p.393-398. 緑風出版)
- 時岡 新「患者と医療のあいだに立って : 医療にたいする満足感の形成過程」(『母子研究』19 p.19-34. 社会福祉法人真生会社会福祉研究所)
- Tsutsumi, Akizumi, Kaname Tsutsumi, Kazunor Kayaba and Masahiro Igarashi. "Health-Related Behaviours, Social Support, and Community Morale." 'International Journal of Behavioral Medicine.' 5(2) p.166-182.
- 渡辺 満・高橋 弘・鳥谷部 茂「1997年イギリスNHS白書『新しいNHS』(1)」(『広島法学』22(1) p.374-406. 広島大学法学会)
- 山森 亮「福祉国家の規範理論に向けて : 再分配と承認」(『大原社会問題研究所雑誌』473 p.1-17. 法政大学大原社会問題研究所)
- 山森 亮「必要と福祉 : 福祉のミクロ理論のために(1)」(『季刊家計経済研究』38 p.56-62. 家計経済研究所)
- 山森 亮「必要と経済学 : 福祉のミクロ理論のために(2)」(『季刊家計経済研究』39 p.57-62. 家計経済研究所)
- 米田頼司「専門職の社会学 : 保健婦の場合(4)」(『和歌山大学教育学部紀要・人文科学編』48 p.17-50. 和歌山大学教育学部)

20. 計画・開発

- 飯島伸子「大規模開発下の地域社会の変容」(船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子(編)『巨大地域開発の構想と帰結 : むつ小川原開発と核燃料サイクル施設』p.191-204. 東京大学出版会)
- 松村和則「レジャー・スポーツの開発と地方文化」(間場寿一(編)『地方文化の社会学』p.82-103. 世界思想社 2300円)
- 恩田守雄「市民による国際協力と参加型社会開発」(『社会学部論叢』9(1) p.1-23. 流通経済大学)
- 塩田静雄「大店法廃止と中小小売業の対応について(1),(2),(完)」(『あいち産業情報』160,161,162 p.16-17. 愛知県産業情報センター)
- 若林良和「南太平洋地域における島嶼経済と漁業開発」(『地域漁業研究』38(2) p.1-18. 地域漁業学会)

21. 社会学研究法

- 浅川達人「統計情報の二次的分析に伴う障壁」(『ESTRELA』48 p. 58-62. 統計情報研究開発センター)
- 藤村正之「公表の方法と報告書作成の要領」(森岡清志(編)『ガイドブック社会調査』p. 237-264. 日本評論社)
- 橋本和孝「社会調査方法論研究：石川淳志教授の方法」(石川淳志(編)『社会調査史の創造的再発見：平成7年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(1)〕研究成果報告書』p. 177-193. 社会調査史研究会)
- 池谷のぞみ「ビデオデータ分析がもたらしたもの」(『現代社会理論研究』8 p. 266-269. 現代社会理論研究会 山崎敬一・西阪仰編『語る身体・見る身体』の書評論文)
- 稲葉昭英「素データを用いた社会調査実習の方法と問題」(『社会情報』8(1) p. 155-167. 札幌学院大学社会情報学部)
- 稲葉昭英「データの整理とチェック：分析の前にすべきこと」(森岡清志(編)『ガイドブック社会調査』p. 167-198. 日本評論社 2800円)
- 稲葉昭英「メタ分析へのブール代数の応用」(鹿又伸夫(編)『ブール代数アプローチによる質的比較』p. 43-59. 科研費報告書)
- 鹿又伸夫「ブール代数分析における简单化」(『北海道大学文学部紀要』96 p. 89-104. 北海道大学文学部)
- 儘田 徹「社会学の質的調査研究法としてのグラウンデッド・セオリー・アプローチ」(『保健医療社会学論集』9 p. 44-51. 日本保健医療社会学会)
- 真鍋一史「価値観の研究の視座」(田中 宏・大石 裕(編)『政治・社会理論のフロンティア』p. 191-215. 慶應義塾大学出版会 2800円)
- 松本 康「社会調査で何がわかるか」(森岡清志(編)『ガイドブック社会調査』p. 53-84. 日本評論社)
- 三隅一人「クロス表のブール代数分析：携帯電話に対する不快感の論理」(鹿又伸夫(編)『ブール代数アプローチによる質的比較』p. 61-72. 科研報告書)
- 三隅一人「地域紛争事例のデキゴトバナシ比較分析」(『比較社会文化』4 p. 37-47. 九州大学大学院比較社会文化研究科)
- 三浦直子「手法としての社会学理論：いかにしてプラティク理論は構築されたか」(『年報社会学論集』11 p. 203-212. 関東社会学会)
- 宮内 洋「外国籍園児のカテゴリー化実践」(山田富秋・好井裕明(編)『エスノメソドロジーの想像力』p. 187-202. せりか書房)
- 元濱涼一郎「経済のイメージ：連想・情報源・属性」(前田 稷他(編)『経済意識と経済の社会的評価に関する理論的実証的研究』p. 37-59. 平成7年度～平成9年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(1)〕研究成果報告書)
- 村田貞雄「人生の何が語られるに値するか」(『情報と社会』8 p. 1-10. 江戸川大学)
- 中筋直哉「都市社会調査法：一つの社会学入門」(田中 宏(編)『社会学の視線：探究の諸相』p. 1-29. 八千代出版 2000円)
- 西平重喜「ランダム・サンプリングを考える その1 アテネの民主制とくじ引き」(『市場調査』236 p. 20-21. 輿論科学協会)
- 西平重喜「ランダム・サンプリングを考える その2 選挙予想の失敗記録」(『市場調査』237 p. 13-14. 輿論科学協会)
- 佐藤嘉倫「合理的選択理論批判の論理構造とその問題点」(『社会学評論』49(2) p. 188-205. 日本社会学会)
- 玉井真理子「初期シカゴ学派モノグラフ クリフォード・ショウ『ジャック・ローラー』の生活史法」(『大阪大学教育学年報』3 p. 91-104. 大阪大学人間科学部教育学年報)
- 玉野和志「調査の企画を具体化しよう」(森岡清志(編)『ガイドブック社会調査』p. 85-98. 日本評論社 2800円)
- 山田一成「社会調査と社会認識」(石川淳志・佐藤健二・山田一成(編)『見えないものを見る力：社会調査という認識』p. 3-29. 八千代出版 2800円)
- 山田一成「具体的な知・抽象的な知」(石川淳志・佐藤健二・山田一成(編)『見えないものを見る力：社会調査という認識』p. 31-50. 八千代出版 2800円)
- 山田一成「仮説が生まれるとき」(石川淳志・佐藤健二・山田一成(編)『見えないものを見る力：社会調査という認識』p. 51-75. 八千代出版 2800円)
- 山田一成「社会調査がつくる『現実』」(石川淳志・佐藤健二・山田一成(編)『見えないものを見る力：社会調査という認識』p. 77-96. 八千代出版 2800円)

- 山田一成「世論調査の政治力」(石川淳志・佐藤健二・山田一成(編)『見えないものを見る力：社会調査という認識』 p. 189-204. 八千代出版 2800 円)
- 山田一成「視聴率調査の「過剰」と「貧困」」(石川淳志・佐藤健二・山田一成(編)『見えないものを見る力：社会調査という認識』 p. 205-220. 八千代出版 2800 円)

22. 経 済

- 橋爪大三郎「「格付け社会」を生き抜けるか」(『This is 読売』9(8)(通巻 107) p. 188-189. 読売新聞社)
- 前田 稔「経済意識(経済的態度)の視点」(前田 稔(編)『経済意識と経済の社会的評価に関する理論的実証的研究』 p. 1-9.)
- 前田 稔「経済の社会的評価の過程」(前田 稔(編)『経済意識と経済の社会的評価に関する理論的実証的研究』 p. 10-15.)
- 前田 稔「経済意識の構造：経済見通しと主体・メカニズム期待」(前田 稔(編)『経済意識と経済の社会的評価に関する理論的実証的研究』 p. 17-36.)
- 松岡一夫「日本のコーポレートガバナンスの展望」(『国際政経』4 p. 19-34. 二松学舎大学)
- 佐藤 誠「南ア民主化とロメ協定加入問題」(平野克己(編)『南アフリカの衝撃：ポスト・マンデラ期の政治経済』 p. 87-103. アジア経済研究所)

23. 社会史・民俗・生活史

- 赤田光男・香月洋一郎・小松和彦・野本寛一・福田アジオ(編)「民俗学の方法(講座日本の民俗学 1)」(鈴木正崇(編)『日本民俗学の現状と課題』 p. 268-284. 雄山閣出版 4800 円)
- 赤田光男・香月洋一郎・小松和彦・野本寛一・福田アジオ(編)「時間の民俗(講座日本の民俗学 6)」(鈴木正崇(編)『通過儀礼』 p. 205-224. 雄山閣出版 4800 円)
- 安藤由美「職業キャリアにおける安定段階への移行タイミング：昭和期をきた日本人男性の場合」(『琉球大学法文学部人間科学科紀要(人間科学)』2 p. 121-144. 琉球大学法文学部)
- 蘭 信三・中里英樹「計量的歴史社会学の展開と可能性：家族史研究を中心として」(『理論と方法』13(1) p. 41-57. 数理社会学会)
- 飯島伸子「日本の地域開発史における六ヶ所村開発の位置づけ」(船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子(編)『巨大地域開発の構想と帰結：むつ小川原開発と核燃料サイクル施設』 p. 301-313. 東京大学出版会)
- Inoue, Shun. "The Invention of the Martial Arts." Vlastos, Stephen(ed.) 'Mirror of Modernity: Invented Traditions of Modern Japan.' p. 163-173. University of California Press.
- 井上孝夫「安房地域の基層文化：海人と修験道を中心に」(『千葉大学教育学部研究紀要(人文・社会科学編)』46(2) p. 19-27. 千葉大学)
- 板橋春夫「急病人搬送の民俗：生死の狭間における対応」(『都市民俗研究』4 p. 36-49. 都市民俗研究会)
- 板橋春夫「ヒノエウマの俗信と出産：群馬県粕川村の事例を中心に」(『群馬歴史民俗』18 p. 49-68. 群馬歴史民俗研究会)
- 板橋春夫「長寿銭の習俗：長寿観の一側面」(『群馬文化』256 p. 31-48. 群馬県地域文化連絡協議会)
- 板橋春夫「ふたご誕生の民俗：双生児観の捉え方とその変容」(『民俗学論叢』13 p. 19-40. 相模民俗学会)
- 川又俊則「〈信徒周辺〉の信仰生活：キリスト教信徒の自分史を資料として」(『ソシオロジ』132 社会学研究会)
- 小林多寿子「戦争体験と自分史：「記憶の共同体」をもとめて」(『日本女子大学紀要 人間社会学部』8 p. 127-140. 日本女子大学)
- 久木元真吾「死と金銭の交換の隠蔽と露呈*：19 世紀アメリカ合衆国における生命保険」(『関連社会科学』7 p. 2-21. 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻)
- 水嶋陽子「現代日本社会における高齢女性のライフコース論的研究」(『女性学研究所年報』8 p. 9. 東京女子大学女性学研究所「青山なを研究奨励金」助成研究報告)
- 中筋由紀子「都市空間における墓地：生者と死者の関係史」(『大人と子供の関係史』3 p. 54-70. 大人と子供の関係史研究会)

- 西脇和彦「マス・サバービア考」(『学苑』704 p.121-133. 昭和女子大学近代文化研究所)
- Thompson, Lee. "The Invention of the Yokozuna and the Championship System, or, Futahaguro's Revenge." Viastos, Stephen(ed.) 'Mirror of Modernity: Invented Traditions of Modern Japan.' p.174-187. University of California Press.
- 上田喜三郎「ハワイ日系人の生活史(29)ハワイの日本語学校:立川冨氏の生活史(1)」(『太平洋学会誌』21(1/2) 太平洋学会)
- 上田喜三郎「ハワイ日系人の生活史(30)ハワイの日本語学校:立川冨氏の生活史(2)」(『太平洋学会誌』21(3/4) 太平洋学会)
- 若林良和「日本の魚食文化考」(地域漁業学会(編)『漁業考現学』p.313-329. 農林統計協会 3500円)
- 渡邊洋之「近代日本捕鯨業における技術導入と労働者」(『科学史研究』37 p.1-16. 日本科学史学会)

25. 民族問題・ナショナリズム

- 浅野慎一「労働観・人間関係観・世界社会観をめぐる異文化接触と文化変容:日本で学ぶアジア系研修生・留学生・就学生と受入側日本人に関する事例研究」(『日本労働社会学会年報』9 p.93-125.)
- 浅野慎一「単一民族神話の変遷と終焉」(社会環境論研究会(編)『社会環境と人間発達』p.103-118. 大学教育出版)
- 中力えり「アルガスにおける言語教育運動の展開と変容:現代的文脈におけるエスニック運動の視点の再考」(『相關社会科学』7 p.41-52. 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻)
- 藤沼敏子「年表:中国帰国者問題の歴史と援護政策の展開」(『中国帰国者定着促進センター紀要』6 p.234-277. (財)中国残留孤児援護基金)
- 長谷川秀樹「生成される「少数言語」:「コルシカ語」の形成と知識人の関係についての社会言語学的分析」(『立命館言語文化研究』9(4) p.5-24. 立命館大学国際言語文化研究所)
- 長谷川秀樹「戦間期フランスの自治主義運動:コルシカを事例に」(『立命館言語文化研究』9(5/6) 立命館大学国際言語文化研究所)
- 長谷川秀樹「現代フランスの地域主義:1960年代コルシカを中心に」(『立命館国際研究』11(1) p.118-132. 立命館大学国際関係学会)
- 樋口直人「エスニシティと経済的連帯:金融講の形成を事例として」(『一橋研究』23(3) p.93-103. 一橋研究編集委員会)
- 樋口直人「在日ブラジル人と日系新宗教:ニューカマー外国人と宗教I」(『一橋研究』23(1) p.161-173. 一橋研究編集委員会)
- 樋口直人・高橋幸恵「在日ブラジル出身者のエスニック・ビジネス:企業家供給システムの形成と市場の広がりを中心に」(『イベロアメリカ研究』20(1) p.1-15. 上智大学イベロアメリカ研究所)
- 樋口直人・高橋幸恵「エスニック・サブカルチャーから市民参加へ?:ニューカマー外国人による政治参加の条件」(『年報社会学論集』11 p.83-94. 関東社会学会)
- 樋口直人・丹野清人・樋口里華「越境する食文化と移民ネットワーク:在日ムスリム移民の増加とハラール食品産業の展開」(『食生活研究』19(3) p.4-12. 食生活研究会)
- Ito, Youichi. "Theories on the Mass Media and Ethnicity: How Do the Mass Media Affect Ethnicity and Related Problems?." Anura, Goonasekera and Youichi Ito(eds.) 'Ethnicity in the Global Village.' p.12-25. Asian Media Information and Communication Centre(AMIC).
- 解放教育研究所(編)・金 泰泳(著)「「在日」の学力保障の条件」(『解放教育』28(9) p.60-69. 明治図書出版)
- 梶田孝道「凝縮された移住サイクル:日系人における「デカセギ」の変容」(『比較文明』14 p.51-65. 刀水書房)
- 梶田孝道「ナショナル・マルチナショナル・トランスナショナル」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『現代市民社会とアイデンティティ』p.214-222. 梓出版社)
- 鎌田真弓「ATSIC:オーストラリア先住民族自治の試み」(『オーストラリア研究』11)
- 可児弘明・国分良成・鈴木正崇・関根政美(編)「民俗で読む中国」(鈴木正崇(編) p.143-182. 朝日新聞社 1900円)
- 金 泰泳「在日韓国・朝鮮人教育における「アイデンティティ」と「学力」」(長尾彰夫・池田 寛・森 実(編)・中村弘三(監修)『在日韓国・朝鮮人教育における「アイデンティティ」と「学力」』p.178-192. 明治図書出版 2200円)

- 金 泰泳「アイデンティティ・ポリティクス超克の〈戦術〉：在日朝鮮人子ども会活動の事例から」（『ソシオロジ』42(3) p. 37-54. 社会学研究会）
- 金 泰泳(著)・解放教育研究所(編)「「在日」のはざまを生きる子どもたち」（『解放教育』28(8) p. 63-71. 明治図書出版）
- 駒井 洋「外国人労働者問題の現段階」（『寄せ場』11 p. 176-192.）
- Mashiko, Hidenori. "The Creation of Okinawans and the Formation of the Japanese Nation State." 'Social Science Japan.' 14 p. 11-13. The Institute of Social Science, University of Tokyo.
- Miller, Alan S. and John Hoffmann. "Race-Specific Predictors of Trust in the Federal Government." 'Sociological Focus.' 31 p. 79-89.
- 三田千代子「ラテンアメリカの人種民族構成とその社会関係」（『地理月報』447 p. 1-4. 二宮書店）
- Niihara, Michinobu. "Difficoltà di Costruire una Societa Interculturale in Giappone." 'BETA.' 3 p. 16-18.
- 野村浩也「沖縄におけるナショナリズムとコロニアリズムに関する予備的考察」（『山陽学園短期大学紀要』29 p. 105-114. 山陽学園短期大学）
- 奥山真知「パレスチナ人の居住権問題を通して考える「歪められた承認」」（『人間科学』15(2) p. 17-30. 常磐大学人間科学部）
- 島津俊之「和歌山市域における在日朝鮮人住民の空間的セグリゲーションと居住地移動：1920～1995年」（『和歌山地理』18 p. 1-20. 和歌山地理学会）
- 新保 満「少数民族の同化と排除(2)：日系カナダ人(2)」（『部落問題調査と研究』132 p. 21-28. 岡山部落問題研究所）
- 新保 満「少数民族の同化と排除(3)：カナダインディアン(1)」（『部落問題調査と研究』133 p. 39-46. 岡山部落問題研究所）
- 新保 満「少数民族の同化と排除(4)：カナダインディアン(2)」（『部落問題調査と研究』134 p. 40-47. 岡山部落問題研究所）
- 新保 満「少数民族の同化と排除(5)：オーストラリアのアボリジニー(1)」（『部落問題調査と研究』135 p. 52-59. 岡山部落問題研究所）
- 新保 満「少数民族の同化と排除(6・最終回)：オーストラリアのアボリジニー(2)」（『部落問題調査と研究』136 p. 20-27. 岡山部落問題研究所）
- 谷 富夫「エスニシティ研究における「世代間生活史法」の試み」（『社会情報』7(2) p. 183-195. 札幌学院大学社会情報学部）
- 谷 富夫「大阪の国際化と外国人住民施策」（共同研究「国際交流チーム」（編）『わたしたちのまちの外国人：自治体の外国人住民施策について考える』p. 147-161. (財)大阪府市町村振興協会 非売品）
- 寺田篤弘「在日外国人に対する行政の対応の研究」（『日本大学国際関係学部研究年報』19 p. 1-13. 日本大学国際関係学部）
- 渡戸一郎「新来外国人」（上田正昭(編)『ハンドブック・国際化のなかの人権問題』p. 129-142. 明石書店）

26. 比較社会・地域研究〔エリアスタディ〕

- 船橋恵子「育児休業制度のジェンダー効果：北欧諸国における男性の役割変化を中心に」（『家族社会学研究』10(2) p. 55-70. 日本家族社会学会）
- 星 明「日本と中国における青年の職業選択の機会について」（『社会学部論集』31 p. 139-150. 佛教大学社会学部）
- 飯島伸子「オーストラリアの環境問題と環境運動に関する社会学的一考察：「環境差別」の視角から」（『人文学報』290 p. 1-23. 東京都立大学）
- 飯島伸子「多民族国家オーストラリアは今」（『英語教育』46(12) p. 20-22. 大修館）
- Keliyan, Maya and Masataka Nakano. "Two Patterns of Modern Development : Japanese and Bulgarian Societies." 'Memoirs of the Faculty of Engineering and Design Kyoto Institute of Technology.' 46 p. 11-28.
- 三田千代子「社会史の中の子どもたち：ブラジル」（奥山恭子・角川雅樹(編)『ラテンアメリカ：子どもと社会』p. 35-66. 新評論 3500円）
- 三田千代子「現地文化事情報告：新生ブラジルとの文化交流」（『国際交流』21(1) p. 96-100. 国際交流基金）

- 三田千代子「在日日系ブラジル人の社会・文化生活と地域社会：神奈川県外国籍住民との共生の試み」(国立国語研究所日本語教育センター(編)『日本語とポルトガル語との対照研究第2期：ブラジル人と日本人との接触場面・中間報告』p.1-23. 国立国語研究所 非売品)
- Nagasaka, Itaru. "Kinship Networks and Child Fostering in Labor Migration from Ilocos, Philippines to Italy." 'Asian and Pacific Migration Journal.' 7(1) p.67-92. Scalabrini Migration Center.
- 中野裕二「統合原理を模索するフランス」(宮島 喬(編)『現代ヨーロッパ社会論』p.97-116. 人文書院)
- 新原道信「そこに一本の木があって……：サルデーニャのことがらが語る地域社会論のために」(『現文研』74 p.69-77. 専修大学現代文化研究会)
- 新原道信「島への道：語り得ぬすべてのものを語るという試み」(『ユリイカ』30(10) p.160-169. 青土社)
- 杉本良男(編)「アジア読本：スリランカ」(鈴木正崇(編)『伝統儀礼の変容と観光化』p.203-211. 河出書房新社 2000円)
- 鈴木正崇「アジアの中のインド」(『春秋』400 p.30-33. 春秋社)
- 鈴木正崇「来訪神の諸相：中国の苗族の調査から」(『Museum Kyushu』60 p.60-64. 博物館等建設推進九州会議)
- 鈴木規之「市民社会と沖縄」(『年報筑波社会学』10 p.131-145. 筑波社会学会)
- 鈴木規之「沖縄で買春について考える」(『女たちの21世紀』16 p.16-21. アジア女性資料センター)
- 高田峰夫「バングラデシュ・ムスリムにおける年齢区分と性：素描の試みとして」(清水浩昭・芳賀正明・松本誠一(編)『性と年齢の人類学』p.267-287. 岩田書院)
- 高井康弘「農業経営の問題と農外就労の様相：1980年代中頃の北タイ農業村」(『大谷大学研究年報』50 p.1-51. 大谷学会)
- 高井康弘「経済生活の変化と農業」(赤木 攻(編)『東南アジアにおける経済発展と農村の変容：15年の経験』p.23-33. 大阪外国語大学 平成7~9年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書の一部)
- 渡辺弘之「ベトナムにおける国際結婚の動向(1)」(『明治学院大学社会学部附属研究所研究年報』28 p.61-72.)
- 山下範久「近世地域システムから見た日本の自-他関係言説の受容」(『江戸の思想』9 p.148-161. ぺりかん社)
- 吉原和男「宗親總會と大宗祠がつなぐ：タイの華人社会」(可児弘明・国分良成・鈴木正崇・関根政美(編)『民族で読む中国』444p. 朝日新聞社 1900円)
- 善積京子「スウェーデン社会から学ぶ葬送」(吉田 正・中嶋昌彌・矢谷慈國(編)『「学び」の人間学』p.128-150. 晃洋書房)
- 善積京子「ミネスルンドと葬送」(善積京子(編)『ビデオサブテキストスウェーデンの葬送と高齢者福祉：変わる家族の絆』p.9-30. M & K メディア文化研究所)

27. 差別問題

- 浅野千恵「「性=人格論批判」を批判する」(『現代思想』26(12) p.172-182. 青土社)
- 福岡安則「同和教育・社会啓発の経験と効果：千葉県内3市町村住民意識調査から」(『埼玉大学紀要』34(1) p.17-28. 埼玉大学教養学部)
- 橋爪大三郎・加藤典洋・岸田 秀・竹田青嗣「差別って何?」(竹田青嗣(編)『現代社会と「超越」』p.153-178. 海鳥社)
- 三浦耕吉郎「近江牛が食卓にのぼるまで」(反差別国際連帯解放研究所しが(編)『牛のわらじ：もうひとつの近江文化1』p.25-65. 反差別国際連帯解放研究所しが 500円)
- 三浦耕吉郎「市民社会化のなかの被差別部落：聞き取り調査における「語り」の分析から」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『福祉社会の家族と共同意識』p.233-248. 梓出版社 2800円)
- 西角純志「地域の実態把握と隣保館活動：同和行政の到達段階と今日的課題」(『労働運動研究』339 p.24-29. 労働運動研究所)
- 奥田 均「部落差別の現実を見つめて」(『WINDS』17 p.24-43. 福岡県同和教育研究協議会)
- 奥田 均「土地差別の撤廃を求めて：行政の課題と宅建業者の役割」(『人権教育思想』1 p.31-56. 関西外国語大学人権教育思想研究所)
- 奥田 均「部落差別の現実認識への提案」(朝治 武・灘本昌久・畑中敏之(編)『脱常識の部落問題』p.13-19. かもがわ出版 2200円)

- 鈴木一代「国際児の学校選択と言語習得：日本-インドネシア国際家族、ドイツ語圏-インドネシア国際家族、英語圏-インドネシア国際家族の比較」(『東和大学紀要』24 p.209-222.)
- 山本薫子「外国人労働者をめぐる就労・生活状況の変容：横浜・寿町を事例に」(『解放社会学研究』12 p.57-71. 日本解放社会学会)

28. 性・世代

- 合場敬子「不可視の不平等：日本の職場における性別職域分離の構造と効果」(山脇直司・大沢真理・大森 彌・松原隆一郎(編)『現代日本のパブリック・フィロソフィ』p.333-350. 新世社 2800円)
- 合場敬子「仕事の内的報酬のジェンダー差とその構造：日本の職場における考察」(『日本労働社会学会年報』9 p.127-147. 3300円)
- 浅野千恵「セックスワークについて考える：女性労働の視点から」(『女たちの21世紀』16 p.71-74. アジア女性資料センター)
- 浅野千恵「セックスワーカーを搾取しないフェミニズムであるために」(河野貴代美(編)『セクシュアリティをめぐって(シリーズく女性と心理)第2巻』)p.113-159. 新水社 1800円)
- 浅野千恵「混迷するセックスワーク論」(『現代思想』26(8) p.117-125. 青土社)
- 浅野千恵「身体と心の罫：ジェンダーの視点から」(『神奈川大学評論』29 p.67-73. 神奈川大学)
- 土場 学「ジェンダー研究と解放のパラダイム」(『社会学評論』49(2) p.302-317. 日本社会学会)
- 後藤範章「セックス・ジェンダー・セクシュアリティをめぐる知の饗宴」(『学叢』62 p.59-67. 日本大学文学部)
- 橋爪大三郎「橋爪大三郎に聞く」(立花 隆・東京大学教養学部立花隆ゼミ(編)『二十歳のころ』p.470-479. 新潮社)
- 早川洋行「テレビアニメとジェンダー：非フェミニズムからのジェンダー論の試み」(『連続講座ジェンダー論』p.47-57. 滋賀大学教育学部)
- 堀 薫夫・古谷嘉隆「人間関係の視点からみた老後の生活設計の問題」(『大阪教育大学紀要 IV』46(2) p.153-166. 大阪教育大学)
- 堀 薫夫「中高年層の老いと死への意識の構造」(『大阪教育大学紀要 IV』47(1) p.153-164. 大阪教育大学)
- 池井 望・仲村祥一「社会意識論を学ぶ人のために」(細辻恵子(編)『男と女』p.187-205. 世界思想社 2300円)
- 稲葉昭英「ジェンダーとストレス」(『季刊家計経済研究』37 p.32-40. (財)家計経済研究所)
- 井上輝子「メディアの中の女たち」(東京女性財団(編)『ことばに見る女性』p.196-212. クレヨンハウス)
- 冠野 文「世代間のギャップの研究：社会意識の動態」(岩井八郎(編)『ジェンダーとライフコース』p.131-155. 1995年SSM調査研究会)
- 加藤春恵子「日本の女性の認識・言論・表現の自由をめざして」(村松泰子・ヒラリア、ゴスマン(編)『メディアがつくるジェンダー』25p. 新曜社 3200円)
- 加藤春恵子「ジェンダー革命と少女像」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『現代市民社会とアイデンティティ』20p. 梓出版社 3200円)
- 川畑智子「素人ホステスから見た「女らしさ」のワナ」(河野貴代美(編)『セクシュアリティをめぐって(シリーズく女性と心理)第2巻』)p.161-194. 新水社 1800円)
- 川畑智子「売春の禁止の社会的意味：国家とジェンダーの関わりから」(『社会学論考』19 p.111-142. 東京都立大学社会学研究会 1200円)
- 風間 孝「表象/アイデンティティ/抵抗」(風間 孝・河口和也・キース、ヴィンセント(編)『実践するセクシュアリティ』)p.238-258. 動くゲイとレズビアン会 1900円)
- 木村雅文「社会変動と若者」(安藤喜久雄(編)『若者のライフスタイル』p.1-16. 学文社)
- 木村涼子「フェミニズム」(伊藤公雄・橋本 満(編)『はじめて出会う社会学：社会学はカルチャー・スタディ』)p.31-48. 有斐閣 1700円)
- 木村涼子「学ぶ：学校にひそむセクシズム」(伊藤公雄・牟田和恵(編)『ジェンダーで学ぶ社会学』p.32-44. 世界思想社 1800円)
- 木村涼子「ジェンダー・ソーシャライゼーションはゆらいでいるか」(佐伯 胖他(編)『ゆらぐ家族と地域(岩波講座「現代の教育」第七巻)』)p.125-147. 岩波書店 2800円)
- 古谷野亘・安藤孝敏・浅川達人・児玉好信「地域老人の社会関係にみられる階層的補完」(『老年社会科学』19(2) p.140-150. 日本老年社会科学会)

- 丸島令子・渡辺厚子・大石美佳「中年期の父親, 母親と青年期の娘 : 親子の性役割タイプと相互性について」(『女性学評論』12 p. 21-44. 神戸女学院大学女性学インスティテュート)
- 水嶋陽子「高齢女性と選択的親子関係」(『家族社会学研究』10(2) p. 83-94. 日本家族社会学会)
- 牟田和恵「愛する : 恋愛というトリック」(伊藤公雄・牟田和恵(編)『ジェンダーで学ぶ社会学』p. 30-41. 世界思想社)
- 牟田和恵・慎 芝宛「近代のセクシュアリティの創造と新しい女 : 比較分析の試み」(『思想』886 p. 89-115. 岩波書店)
- 西山哲郎「遊ぶ : スポーツがつくる「らしさ」」(伊藤公雄・牟田和恵(編)『ジェンダーで学ぶ社会学』p. 160-175. 世界思想社)
- 西山哲郎「男性学」(伊藤公雄・橋本 満(編)『はじめて出会う社会学 : 社会学はカルチャースタディ』p. 49-65. 有斐閣 1700 円)
- 野宮大志郎「差別されつづける女性 : 均等法以降の男女の所得格差」(『北海道大学文学部紀要』46(2) p. 65-76. 北海道大学文学部)
- 小倉康嗣「大衆長寿化社会における人間形成へのアプローチ : 「人生過程としてのエイジング」への一つの視角と方法」(『年報社会学論集』11 p. 59-70. 関東社会学会)
- 小倉康嗣「現代日本の高齢者のライフコースと高齢期社会化 : 時代の先駆者としての現代日本の高齢者」(内田 健(編)『「生活の質」研究の基礎 II』p. 2-23. 早稲田大学人間総合研究センター流動化社会と生活の質プロジェクト 非売品)
- 尾嶋史章「女性の性役割意識の変動とその要因」(尾嶋史章(編)『ジェンダーと階層意識(SSM調査シリーズ14)』p. 1-22. 1995 年 SSM 調査研究会)
- 佐藤文香「アメリカ女性兵士をめぐる言説の分析 : 映画『G. I. ジェーン』から見えてくるもの」(『女性学年報』19 p. 1-14. 日本女性学研究会)
- 佐藤友光子「女性のライフコースと保健医療福祉」(星野貞一郎(編)『保健医療福祉の社会学』p. 124-161. 中央法規出版)
- 鈴木和子「Pornography or Therapy? Japanese Girls Creating the Yaoi Phenomenon」(Inness, Sherrie 『Millennium Girls : Today's Girls Around the World』p. 243-267.)
- 田中重人「高学歴化と性別分業 : 女性のフルタイム継続就業に対する学校教育の効果」(盛山和夫・今田幸子(編)『1995 年 SSM 調査シリーズ 12 : 女性のキャリア構造とその変化』p. 1-16. 1995 年 SSM 調査研究会(東京大学人文社会系研究科盛山研究室))
- 堤かなめ「スウェーデンの人々は : 女男平等・高福祉社会のいま」(堤かなめ・窪田由紀(編)『ジェンダーを学ぶ』p. 33-49.)
- 矢島正見「現代青少年の性意識」(『犯罪と非行』115 p. 26-48. 青少年更正福祉センター・矯正福祉会)
- 矢島正見「性的魅力としての躰 : 躰の文化史を考える(1)(2)」(『青少年問題』45(10/11) 12p. (財)青少年問題研究会)
- 山脇千賀子「第一次世界大戦前後のペルー日系住民にとってのジェンダー・セクシュアリティ」(『ラテンアメリカ・カリブ研究』5 p. 34-44. つくばラテンアメリカ・カリブ研究会)
- 矢澤澄子・国広陽子・天童睦子「少子社会と『母アイデンティティ』のゆくえ : 若い母親のライフスタイルと子育て意識調査から」(『経済と社会』東京女子大学社会学会紀要』26 p. 41-64.)

29. 知識・科学

- 柿原 泰「「通史」というアポリア : テッサ・モーリス=鈴木の日本技術史を読む」(『科学史・科学哲学』14 p. 130-137. 科学史・科学哲学刊行会(東京大学))
- Kanamitsu, Jun. "The US Center of World Science and Emulating Centers : Japan and Western Europe." Epitropoulos, Mike-Frank G. and Victor Roudometof (eds.) 'American Culture in Europe : Interdisciplinary Perspectives.' Praeger. Thomas Schott (第 1), James F. Luther (第 3) の第 2 著書論文
- 上谷香陽「「知識/言語」をめぐるフェミニズム社会学の試み : D. スミスの議論を中心として」(『ソシオロジ』43(2) p. 35-50. 社会学研究会)

30. 余暇・スポーツ

- 深澤 宏「スポーツとメディア産業」(『秋田大学総合基礎教育研究紀要』5 p. 53-66. 秋田大学教育学部)
- 井上 俊「近代日本におけるスポーツと武道」(日本スポーツ社会学会(編)『変容する現代社会とスポーツ』p. 225-235. 世界思想社)
- Inoue, Shun. "Budo : Invented Tradition in the Martial Arts." Linhart, Sepp and Sabine Friihstuck(eds.) 'The Culture of Japan as Seen Through Its Leisure.' p. 83-93. State University of New York Press.
- 井上 俊「遊びとスポーツの社会学」(『教育と医学』46(8) p. 4-11. 慶應義塾大学出版会)
- 中嶋明勲「フランスにおける高齢者の余暇活動(2)」(『金城学院大学論集(社会科学編)』40 p. 121-137. 金城学院大学)
- 清水 論「道具としての体操 : 権力はどのようにして身体に刻み込まれるのか」(日本スポーツ社会学会(編)『変容する現代社会とスポーツ』p. 106-118. 世界思想社 2500円)
- トンプソン, リー「スポーツとマス・メディア」(池田 勝・守能信次(編)『スポーツの社会学(講座「スポーツの社会科学」1)』p. 138-159. 杏林書院)

31. 環 境

- 青木辰司「都市農村関係と環境問題」(船橋晴俊・飯島伸子(編)『環境(講座社会学12)』p. 43-73. 東京大学出版会 2800円)
- 浅野慎一「社会環境研究の構築に向けて」(『ノルド・レポート』1 p. 2-15. ノルド・社会環境研究室)
- 浅野慎一「社会環境と人間発達」(社会環境論研究会(編)『社会環境と人間発達』p. 3-18. 大学教育出版)
- 船橋晴俊「環境問題の未来と社会変動 : 社会の自己破壊性と自己組織性」(船橋晴俊・飯島伸子(編)『講座社会学12 環境』12 p. 191-224. 東京大学出版会)
- 堀川三郎「歴史的環境保存と地域再生 : 町並み保存における「場所性」の争点化」(船橋晴俊・飯島伸子(編)『環境(講座社会学12)』p. 103-132. 東京大学出版会 2800円)
- 飯島伸子「女性の環境行動と青森県の反開発・反核燃運動」(船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子(編)『巨大地域開発の構想と帰結 : むつ小川原開発と核燃料サイクル施設』p. 271-299. 東京大学出版会)
- Iijima, Nobuko. "Environmental Problems in Asia in the 21st Century : Lessons from Japan's Experiences in the 20th Century." The Secretariat, The Organizing Committee, The Sixth International Conference of Asian Sociology(ed.) 'Asia and Asian Sociology : Selected Papers from the Sixth International Conference of Asian Sociology.' p. 26-27. Institute of Sociology, Chinese Academy of Social Sciences.
- 飯島伸子「廃棄物問題の社会学的研究 : 廃棄物に関する市町村調査報告(1)」(『総合都市研究』64 p. 171-187. 東京都立大学都市研究所)
- 飯島伸子「総論 : 環境問題の歴史と環境社会学」(船橋晴俊・飯島伸子(編)『環境(講座社会学12)』p. 1-42. 東京大学出版会)
- 飯塚 深「地球環境政治とNGO及び環境保護政党「緑の党」などについて : その一考察」(『北陸法学』6(3) 114+24p. 北陸大学法学部法学会)
- 井上治子「環境問題と「対自化」する視点 : 問題解決の視座としての「地域共同管理論」」(中田 實・板倉達文・黒田由彦(編)『地域共同管理の現在』p. 187-200. 東信堂 4762円)
- 北村和夫「学校で環境教育は可能か?」(『都留文科大学研究紀要』48 p. 103-123.)
- 前田武彦「環境にやさしい観光へ」(八十島義之助(編)『エコロジカルな旅と交通を求めて(「環境シンポジウム INわかやま '98」報告書)』p. 24-27. 交通エコロジー・モビリティ財団)
- Mitsuda, Hisayoshi. "National Trust and Local Politics : Twenty Years of the Shiretoko National Trust Movement in Japan, 1977-1997." 'Journal of Social Sciences, Bukkyo University.' 31 p. 151-167. Bukkyo University.
- 満田久義「会議の時計は止められても、気候変動は止められない : 地球温暖化京都会議(COP3)再考」(『鷹鷹』155 p. 4-16. 佛教大学)
- 三浦耕吉郎「環境調査と知の産出」(石川淳志・佐藤健二・山田一成(編)『見えないものを見る力』p. 117-132. 八千代出版 2800円)

- 宮内泰介「発展途上国と環境問題：ソロモン諸島の事例から」（船橋晴俊・飯島伸子（編）『講座社会学 12：環境』 p. 163-190. 東京大学出版会 2800 円）
- 宮内泰介「重層的な環境利用と共同利用権：ソロモン諸島マライタ島の事例から」（『環境社会学研究』4 p. 125-141. 新曜社）
- 中澤秀雄・成 元哲・樋口直人・角 一典・水澤弘光「環境運動における抗議サイクル形成の論理：構造的ストレーンと政治的機会構造の比較分析(1968-82年)」（環境社会学会（編）『環境社会学研究』4 p. 142-157. 新曜社）
- 沼田健哉「環境問題ならびに環境社会学に関する研究」（『桃山学院大学総合研究所紀要』24(1) p. 101-124. 桃山学院大学総合研究所）
- 大坪省三「諫早湾大規模干拓計画事業に対する諫早市民意識調査」（『東洋大学社会学部紀要』35(2) p. 67-140. 東洋大学）
- 鈴木 広「災害研究の社会学的視点」（『NDIC News』18 40p. 九州大学西日本自然災害資料センター）
- 鈴木 広「環境・課題と方向」（『環境科学会誌』11(2) p. 100-104. 環境科学会）
- 高田昭彦「市民運動から市民活動へ、そして NPO へ：NPO 法案を生み出した市民運動の新しい展開」（『アジア太平洋研究』16 p. 95-116. 成蹊大学アジア太平洋研究センター）
- 田中 宏（編）「社会・環境関係と空間・風土」（田中 宏（編）『社会学の視線（まなざし）』p. 143-169. 八千代出版 2000 円）
- 寺田良一「環境運動と環境政策：環境運動の制度化と草の根民主主義の日米比較」（船橋晴俊・飯島伸子（編）『環境（講座社会学 12）』）p. 133-162. 東京大学出版会）
- 寺田良一「環境 NPO（民間非営利組織）の制度化と環境運動の変容」（『環境社会学研究』4 p. 7-23. 新曜社）
- 寺田良一「アメリカにおける草の根環境 NPO の形成と展開」（『地域社会研究』8 p. 32-45. 都留文科大学地域社会学会）
- 戸田 清「エコロジー社会主義と環境正義」（『カオスとロゴス』10 p. 24-40. ロゴス社）
- 戸田 清「アニマルライトと自然の権利」（自然の権利セミナー報告書作成委員会（編）『報告 日本における[自然の権利]運動』p. 134-141. [自然の権利]セミナー）
- 戸田 清「環境政策と環境正義」（藤岡貞彦（編）『環境と開発』の教育学』p. 270-284. 同時代社）
- 戸田 清「環境正義の思想」（加藤尚武（編）『環境と倫理：自然と人間の共生を求めて』p. 105-125. 有斐閣）
- 鳥越皓之「生活環境とライフスタイル」（船橋晴俊・飯島伸子（編）『講座社会学（12）：環境』東京大学出版会）
- 鳥越皓之「環境民俗学からみた川と湖」（『琵琶湖博物館研究調査報告』11）
- 渡邊洋之「そこに住んでいない者の権利：奄美「自然の権利」訴訟の意義と課題」（『農学原論研究』4 p. 34-47. 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻農学原論研究室）
- 渡邊洋之「捕鯨問題における「文化」表象の政治性について」（『環境社会学研究』4 p. 219-234. 環境社会学会）
- 山岸美徳「図書館の音環境：サウンドスケープ・デザインの視点から」（『LISN Library and Information Science News』96 p. 10-13. キハラ株式会社マーケティング部）
- 山岸美徳「サウンドスケープ/音風景の世界と地平：マリー・シェーファーから「残したい日本の音風景-100 選選定」事業へ」（『創文』395(1998/1, 2) p. 34-37. 創文社）
- 山室敦嗣「原子力発電所建設問題における住民の意思表示：新潟県巻町を事例に」（『環境社会学研究』4 p. 188-203. 新曜社）
- 米田頼司「和歌の浦における景観問題（下）：「新不老橋」（あしべ橋）建設と〈反対運動〉をめぐって」（『和歌山大学紀州経済史・文化史研究所紀要』18 p. 9-50. 和歌山大学紀州経済史・文化史研究所）

33. 総論・概説

- 塩原 勉「日本の社会と社会学」（高坂健次・厚東洋輔（編）『理論と方法（講座社会学（1））』p. 1-13. 東京大学出版会）

99. その他

- Akiyoshi, Mito. "Toward A Theory of Emotion Knowledge." '年報社会学論集.' 11

岩間 剛「1997年8月のスリランカ社会」(『論叢』38 p.1-25. 玉川大学文学部)

片田江綾子「高校生のライフコース選択：長崎県のアカデミックトラック上位校における聞き取り調査をもとに」
(『生活社会科学研究』5 p.25-38.)

宮原浩二郎・森 真一「震度7の社会空間：芦屋市の場合」(『社会学評論』49(1) p.2-20. 日本社会学会)

宮原浩二郎「言葉に聴く現在：「他者」と「大人」」(『ソシオロジ』43(2) p.81-87.)

森岡清美「研究者の自己形成を規定するもの」(『淑徳大学大学院研究紀要』5 p.1-13. 淑徳大学大学院)

大杉 至「サルと言説」(大分大学教育学部(編)『地域総合研究論文集・別府湾岸地域』p.137-146.)

データベース委員会構成 (1997～2000年) 所属等は本書発行時点

委員長	舩橋 晴俊	(法政大学社会学部)	[日本社会学会理事]
副委員長	落合 恵美子	(国際日本文化研究センター)	[日本社会学会理事]
委員	岩本 健良	(金沢大学文学部)	
委員	稲葉 昭英	(東京都立大学人文学部)	
委員	佐藤 裕	(富山大学人文学部)	
委員	安田 雪	(立教大学社会学部)	

(非売品： 本冊子を希望の方は、B5判の入る大きさの封筒に切手200円分を貼り、返送先郵便番号・住所・氏名を明記し、下記の学会事務局まで送付してください。)

(ISSN 1345-580X)

社会学文献目録

Bibliography of Japanese Sociology

(Vol. 1. 1998年版)

2000年5月25日 第1版第1刷 印刷

2000年6月1日 第1版第1刷 発行

編集： 日本社会学会データベース委員会

発行： 日本社会学会

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学文学部社会学研究室内

TEL 03-5841-8933 FAX 03-5841-8932

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jss/>

印刷： (有)タカラ印刷

© 2000 Japan Sociological Society